

三訂版
3rd Edition

学習活動の手引き

Curriculum & Resources Guide



JICA横浜 海外移住資料館

Japanese Overseas



Migration Museum

あいさつ

海外移住資料館は2002年の開館以降、延べ70万人以上の方々にご来館いただいております。一般来館の方のみならず、近隣の小学校・中学校・高等学校の校外学習をはじめ、県外からの修学旅行先として、また大学の授業での活用としてもご利用いただいております。

2022年には開館20周年の節目を迎え、常設展示室の展示内容を一部リニューアルしました。常設展示室は、日本人移住者の歴史の紹介はもちろんのこと、今日に至るまでの移住者やその子孫の生活をよりリアルに感じられる展示や、移住者の経験から多文化共生について考える展示、小学生の児童にも楽しんでもらえるような展示を追加し、今まで以上に幅広い層の方々楽しんでいただける展示に生まれ変わりました。

当資料館では、開館当初より資料館の展示品や貸出教材などを授業で活用される先生方の参考になればと思い、2005年3月に『学習活動の手引き』（初版）を作成し、その後、内容をさらに充実して2007年3月に『学習活動の手引き』（改訂版）を刊行し、現在まで多くの先生方にご活用いただいております。この度、常設展示室の展示内容の一部リニューアルに伴い、「学習活動案」の内容を一新した『学習活動の手引き』（三訂版）を作成いたしました。本『学習活動の手引き』（三訂版）の作成に当たっては、初版、改訂版同様、森茂岳雄先生（中央大学 名誉教授）および中山京子先生（帝京大学 教授）を中心に多くの先生方にご協力いただきました。改めて深く感謝申し上げます。

今後、より多くの方々に本手引きが活用されることを願うとともに、引き続き、皆様よりご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2024年3月

海外移住資料館 館長

あいさつ 海外移住資料館 館長 ----- 01
 移民を授業する ー海外移住資料館を活用した授業づくりー 森茂 岳雄 ----- 03
 学習活動マップ ----- 04

資料館見学を行う学習活動

活動1 小学校 総合・特活など ----- 06 海外移住資料館のたんけん	活動8 中学校 社会 高等学校 公共 ----- 22 移民から考えるSDGsピクトグラムづくり ワークシート
活動2 小学校 総合・特活 ----- 08 日本人移民や日系人の生活を探ろう	活動9 中学校 社会・総合 高等学校 日本史探究・総合 ----- 26 異国に思いを馳せて ワークシート・参考資料
活動3 小学校 外国語・総合 ----- 10 行きたい国と持っていきたいものを伝えよう	活動10 中学校 社会・総合 高等学校 公共・総合 ----- 32 日本社会で活躍する日系ブラジル人 ワークシート・参考資料
活動4 小学校 中学校 社会 ----- 12 真珠湾攻撃によって起こったこと	活動11 中学校 社会・総合 高等学校 歴史総合・総合 ----- 38 カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」 ワークシート・参考資料
活動5 中学校 社会・総合 ----- 14 わたしは「鶴見人」 参考資料	活動12 高等学校 歴史総合 ----- 44 交差する日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史 ワークシート・参考資料
活動6 中学校 外国語 ----- 18 言葉で歴史と人とつながろう	活動13 高等学校 総合 ----- 48 ハワイと日本の「食文化」今昔未来物語 ワークシート
活動7 中学校 総合・特活 ----- 20 ハワイのプランテーションで文化が出会う	

資料館に来館せずに資料館の資料や教材を用いて行う学習活動

活動14 中学校 社会・総合 高等学校 地理総合 ----- 56 森をつくる農業 参考資料	活動15 高等学校 現代の国語・国語表現・総合 ----- 62 インタビュー映像から読み解く歴史と現在 ワークシート
--	--

巻末資料

海外移住資料館 貸出教材の紹介

移民カルタ・紙芝居・いみんトランク・移民スゴロク・DVD ----- 66

海外移住資料館 常設展示室展示品の紹介

「これ、なんだろう？」 ----- 72

海外移住資料館「パスポート」

----- 74

移民関連年表

----- 76

移民・日本人移民に関する図書の紹介

----- 78

コラム

----- 79

移民を授業する

ー海外移住資料館を活用した授業づくりー

森茂 岳雄



現代は、「移民の時代」とも呼ばれています。国連人口部によれば、世界中で自国以外の国に住んでいる人の数は、2020年には2億8,100万人に達し、世界の人口の3.6%になっています。このようなグローバルな人の移動の増大は、一国内の多民族化・多文化化を生み出しています。グローバル化と多文化化が連動して進行しているのが今日の世界的な社会変動の特色です。

このような移民の加速化の動きは、日本においても顕著になってきています。法務省の発表によると、2022年末の我が国の在留外国人数は約308万人となり、初めて300万人を突破し総人口の2.5%に達しています。

一方、逆の視点から見ると、日本もつい半世紀前までは移民の送り出し国でした。日本は、開国早々の明治初頭から、ハワイや北米に多くの移民を送りました。その後も、中南米、東南アジア、中国大陸などへと多くの日本人が移住しました。戦後も、「農村の次・三男問題」による青年の海外移住や自己の潜在能力を広く海外に求めた青年の移住が続き、そのような歴史的経緯の中で、現在も約400万人以上の日系人が海外に生活しています。

しかし、これまで日本の学校教育において、日本から海外に渡った日本人移民や、日本に移住してきた外国人の歴史的経験や現状について、教科書をはじめ授業の中で十分取り上げられてきませんでした。近代日本の黎明期に多くの日本人が海外に移民した事実、彼らとその子孫のホスト国での苦労や貢献、逆に近年増加してきている日本への移民の現状や問題について当時の日本人移民の立場に立って共感的に学ぶことは、グローバル化と多文化化が連動して進行する今日の社会を生きる子どもたちにとって「共生」に向けての資質を養う上で意義があると考えます。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されて

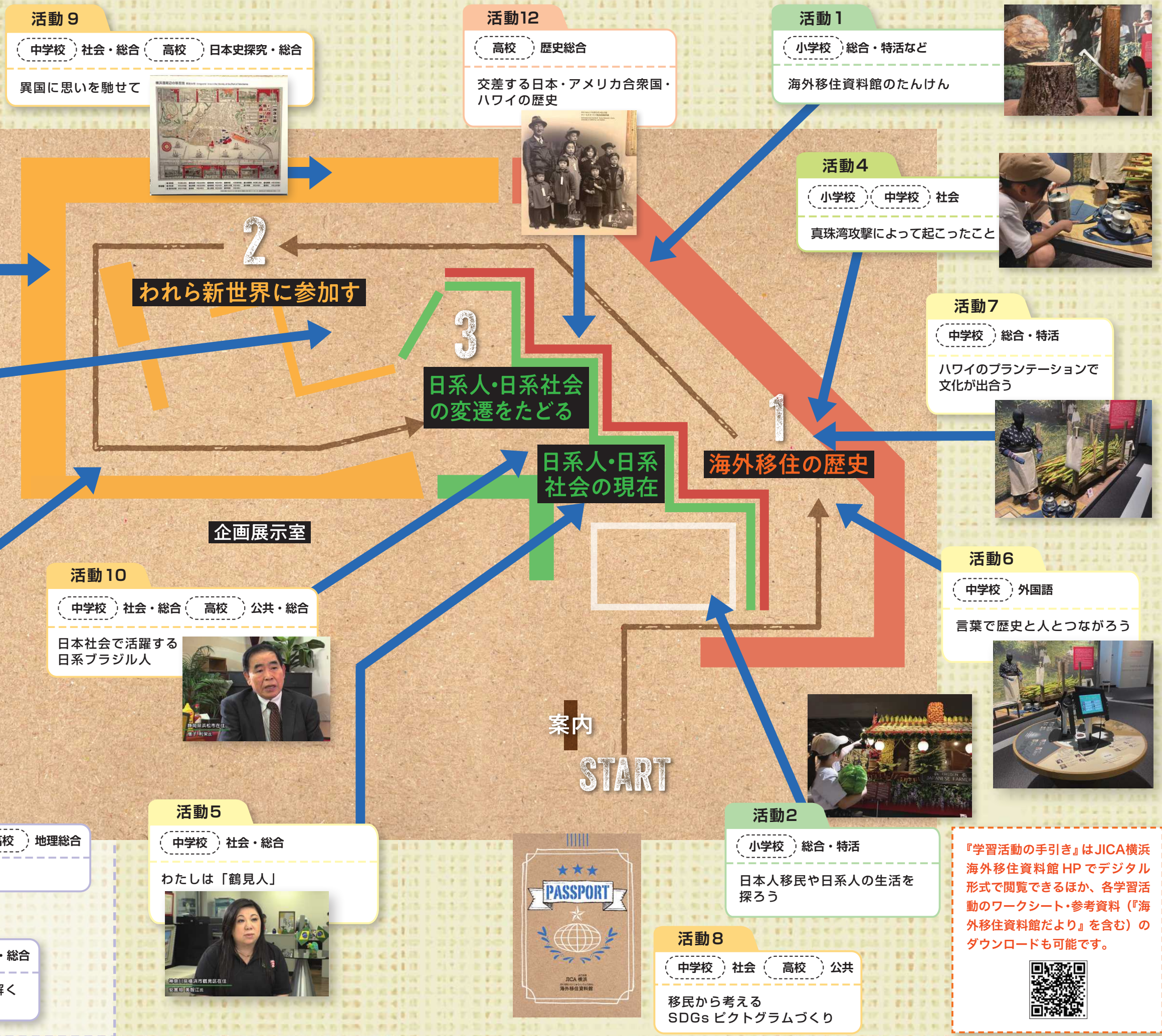
います。移民についての学習は、ヒトの国境を越えたグローバルな移動やそれに伴う世界的な規模での相互依存関係と、一国内における多文化の共生を考える格好のテーマです。また、移民についての学習は、今日の多文化社会における人権や市民権のあり方といった民主主義の基本原則や社会正義に関わる基本的問題を学ぶシティズンシップ教育の格好の機会ともなります。また、日本人移民をルーツにもつ当事者の児童生徒にとっては、自身の先祖の新世界への参加と貢献の歴史や文化の継承について学ぶことを通して、自己のアイデンティティの確立にもつながります。

JICA横浜 海外移住資料館は、南北アメリカを中心とした日本人の海外移住の歴史および移住者と日系人の現在をテーマにした我が国最大の資料館です。ここには日本人移民に関するさまざまな資料が収集・保存・展示されています。これらの展示や資料は、日本人の海外移住について考える学習教材としてさまざまな可能性を持っています。また、同館では学習活動に役立つよう、移民をテーマにしたカルタや紙芝居、スゴロクなどの独自の教材も作成しています。

今回、20年ぶりの展示のリニューアルに合わせて、「学習活動案」の内容を一新した『学習活動の手引き』の三訂版を刊行しました。主に学校現場の先生方の資料館見学や授業づくりの参考になるように、海外移住資料館の展示・資料、およびカルタや紙芝居などの教材を活用した活動案を構想しました。現在「学習指導要領」においても、総合的な学習（探究）の時間や社会系教科などの指導計画の作成に当たって配慮する事項の一つとして、博物館・資料館との連携や活用が明記されています。学校の先生方はもとより、NGO/NPO関係者などの方々の授業づくりやワークショップの際のお役に立てていただければ幸いです。

学習活動マップ

小学校
中学校
高等学校



活動9
 中学校 社会・総合 高校 日本史探究・総合
 異国に思いを馳せて

活動12
 高校 歴史総合
 交差する日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史

活動1
 小学校 総合・特活など
 海外移住資料館のたんけん

活動11
 中学校 社会・総合 高校 歴史総合・総合
 カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」

活動4
 小学校 中学校 社会
 真珠湾攻撃によって起こったこと

活動3
 小学校 外国語・総合
 行きたい国と持っていきたいものを伝えよう

活動7
 中学校 総合・特活
 ハワイのプランテーションで文化が出会う

活動13
 高校 総合
 ハワイと日本の「食文化」今昔未来物語

活動10
 中学校 社会・総合 高校 公共・総合
 日本社会で活躍する日系ブラジル人

活動6
 中学校 外国語
 言葉で歴史と人とつながろう

資料館資料・教材を用いた学習活動



活動14
 中学校 社会・総合 高校 地理総合
 森をつくる農業

活動5
 中学校 社会・総合
 わたしは「鶴見人」



活動15
 高校 現代の国語・国語表現・総合
 インタビュー映像から読み解く歴史と現在



活動2
 小学校 総合・特活
 日本人移民や日系人の生活を探ろう

活動8
 中学校 社会 高校 公共
 移民から考えるSDGsピクトグラムづくり

『学習活動の手引き』はJICA横浜海外移住資料館HPでデジタル形式で閲覧できるほか、各学習活動のワークシート・参考資料（『海外移住資料館だより』を含む）のダウンロードも可能です。

海外移住資料館のたんけん

Key words ことば(動詞)、かるた

1 活用する主な展示および資料

- 展示全般
- 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」
- 「移民カルタ」
- 「大判移民カルタ」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 特に教科・領域は定めない。資料館に社会科見学として来る、特別活動で遠足として来る、総合的な学習の時間の学習活動として来るなど、目的に合わせて、自由に設定。ことば(動詞)に着目した展示探検活動を設定しているので、国語科として時数を計上することも可能。
- 全4時間程度(事前1時間、見学1～2時間、事後1時間)



3 目標

- 日本人移民、日系人の経験について断片的に理解することができる。
【知識・技能】
- 日本人移民、日系人の経験について「動詞」に着目して、関係する展示を探し、発表している。【思考・判断・表現】
- 自分が選んだ「動詞」に着目して、進んで関係する展示を楽しみながら資料館で探し、見つけた内容を学びや生活に活かそうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】




4 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

中学年という発達段階では、日本人移民、日系人の経験を理解することは難しい。歴史学習に関しては地域の昔を調べる経験をしている程度である。そこで、歴史的背景や文化的様子をつかませることよりも、「働く」「運ぶ」「食べる」「着る」「学ぶ」などのことば(動詞)に着目させ、展示室の探検活動を設定する。事前学習として紙芝居を聞くことで、断片的な情報をもとに、展示室を探検する視点を獲得することができる。展示室では、「働く」「運ぶ」「食べる」「着る」「学ぶ」ということばに合わせて、展示物を探し、その展示物について理解をしようとパネルを読んだり、質問したりすることで、理解を深めるようにしたい。展示室を入口から順に理解することを求めるのではなく、自分で探検し、発見し、伝えることの楽しさを体験させたい。

発表では「大判移民カルタ」を用いることで、子どものワクワク感を高め、教師の発表のための準備作業を削減することができる。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども(学習者)の意識	留意点
事前学習	1. 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」「カリナのブラジルとニッポン」を2回聞く。 ●1回目は内容をつかむためにメモは取らずに聞こう。2回目は、「誰が何をした/どうした」に注目してメモを取りながら聞こう。 2. 出てきた動詞を出し合い、黒板に整理する。 ●見学するためのキーワードにする「動詞」を二つ選ぼう。 ●私は「食べる」と「働く」を探したい。	●「弁当からミックスプレートへ」のアニメーションを活用すると良い。  「弁当からミックスプレートへ」 ●展示の探検につながりやすいように、子どもから出てきた動詞を整理して黒板にまとめる。
資料館見学	1. 展示を探す。 ●自分が調べたい「動詞」の内容はあるかな。 働く(農業、コーヒー、伐採する、店を開くなど) 着る(はっぴ、農作業着、ユニフォームなど) 楽しむ(祭り、餅つき、食べるなど) 運ぶ(持っていく、トランク、風呂釜など) 学ぶ(勉強、教科書、カード、日本語など) 2. 展示から見つけた内容を一度発表し、もう一度展示室に探しに行く。	●左の例示の他にも「食べる」「遊ぶ」「育てる」「たたかう」などのキーワードもある。 ●子どもが見つけた内容を記録できるようにワークシートを用意しておくといい。
事後学習	1. 展示で見つけた内容に関連するものを「移民カルタ」の絵札から探す。 ●この写真で「働く」を説明できる。 ●この写真は「食べる」の展示です。 ●伝えたい内容とカードを決めよう。 2. 「大判移民カルタ」を使って、「誰が何をした/どうした」を発表し、聞きあう。	●「移民カルタ」「大判移民カルタ」は資料館から借用することができる。 

6 学習後の姿

事後学習の後、1～2週間程度、教室に「移民カルタ」を置き、自由に遊べるようにする。絵札を分類したり、普通のカルタと同様に遊んだりすることで、日本人移民・日系人に関する理解を深めてほしい。時間的な余裕があれば、事後学習の発表の動画をビデオにして、保護者会や学習発表の場で活かすこともできる。

海外移住資料館が扱っている「移住」「移民」という事象は、小学校中学年の発達段階では展示内容の理解は難しい。しかし、博物館などで、全部わからなくても良いという安心感を持ち多様な博物館などに行ってみようという姿勢を身につけ、手がかりをもとに自分の興味や関心があるものを中心に展示を探するという経験を生かしてほしい。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA 横浜 海外移住資料館(2009,2011,2012,2021)『海外移住資料館だより』No.16, No.23, No.27, No.55

日本人移民や日系人の生活を探ろう

Key words 暮らし、生活、いみんトランク

1 活用する主な展示および資料

- 展示全般
- 「移民カルタ」「紙芝居」「いみんトランク」など



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 総合的な学習の時間、特別活動
- 全6時間(事前2時間、見学2時間、事後2時間)



3 目標

- 日本人移民や日系人の経験や心情、現地での生活について理解しようとしている。【知識・技能】
- 自分の気になったものや調べたいものについて、展示資料の情報から日本人移民や日系人の暮らしや生活の情報を自分の考えとともにまとめ、伝えようとしている。【思考・判断・表現】
- 自分の気になったものや調べたいものの展示資料を探すことを通して、日本人移民や日系人の生活について考えをもち、興味・関心を広げようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

本活動は、実際に触れたり、操作したりすることができるハンズ・オン教材(いみんトランク)を通して、日本人移民や日系人について学習を進める。

事前学習では、紙芝居や「移民カルタ」を通して、海外移住の歴史や移住者の経験や心情を知り、日本人移民や日系人の存在について理解する。また、「いみんトランク」(詳細は授業づくりのための参考資料)を活用し、ものを通して体験的に海外移住における移住者の経験や貢献の視点から学習を深め、海外移住資料館展示見学への関心や意欲を高めておきたい。

資料館展示では、事前学習で実際に手に取ったものがどこにあるかを探す活動を行う。資料館入り口に存在感を示す「野菜山車」に使われている白菜や大根などの野菜、「萬屋」に置かれているパン、「ハワイへの官約移民」に置かれているアルミ製の弁当箱など、具体的なものが自然な形で学習者と移民の生活などの歴史をつないでくれる。歴史的理解するには難しさがある発達段階ではあるが、「これは何だろう」という学習者が抱く素朴な疑問や興味がその難しさのハードルを下げるることができる。資料館作成の「パスポート」や持参するタブレット端末を活用するなどして記録し、事後学習時でまとめる際に活用することも考えられる。

事後学習では、①「自分が選んだもの」、②「資料館展示のどのコーナーにあったか」、③「そのコーナーでわかったことや考えたこと」についてまとめ、話し合い活動や発表などの対話的で協働的な学習を通して、日本人移民や日系人の生活について理解を深めることができるようにしたい。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども(学習者)の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」や「海を渡った日本人」を聞いたり、「移民カルタ」に取り組んだりして、日本人移民や日系人の存在を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ● 食べ物を分け合っていた。 ● 楽しそうな生活だけでなく、辛い経験もあったのかな。 ● どうして野菜や果物で山車を作ったのだろう。 2. 「いみんトランク」を活用し、日本人移民や日系人の生活に身近だったものに触れ、学習意欲を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ● 実際には、どのようなコーナーに展示されているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 言葉や表現が難しい場合には、補足説明などを行い支援する。 ● 自分の調べたいものを決めた学習者には、そのものを通して、どのように使われていたか、どんな生活が広がったかまで広げて考えさせる。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展示の中から自分が調べたいものを探す。 2. 見つけたコーナーの資料などから、情報を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ● 農作物→農業を広めようと頑張った。 ● パン→お店にあったから、よく食べていたのかな。 ● アルミ製の弁当箱→これを持っていき、暑い中大変な思いをして、木を切ったり、サトウキビを刈ったりした。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 語彙や表現によっては情報を読み取ることが難しい場合があるため支援する。 ● 「触れて良い展示とそうでない展示があること」、「写真撮影の可否」などの見学に際して留意する点を押さえておく。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. ①「自分が選んだもの」、②「資料館展示のどのコーナーにあったか」、③「そのコーナーでわかったことや考えたこと」について自分の考えとともに発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 私は一皿に乗っているご飯を選びました。これは「ミックスプレート」といい、紙芝居でも出てきたし、「家庭生活」コーナーにも置いてありました。移民の人たちの「おすそ分け」でできた一つのプレートが今でもハワイで楽しまれていることが分かりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一人で発表が難しい学習者には、(事前学習時からでも良いが)ペアやグループでの活動も考えられる。 ● 記録したもの(写真やパスポート)やハンズ・オン教材を提示して、発表することができるよう支援する。

6 学習後の姿

児童の発達段階によって、資料館展示の情報を全体的に捉え、まとめることは厳しさがあるが、ハンズ・オン教材を通して見えてくる日本人移民や日系人の存在や生活から、異文化理解の視点や他者の経験や心情に寄り添う態度が育まれると考える。何より実際に足を運び、教室から飛び出て学習をすることで、学習者が抱く日本人移民や日系人に対する興味や関心を広げることができる。国とのつながりや歴史についての学習を高学年で行う際に、この学年での学習が基盤となることを期待する。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA 横浜 海外移住資料館(2014)『海外移住資料館だより』特集号(「教育キット『いみんトランク』で資料館を一周してみよう!」)

行きたい国と持って行きたいものを伝えよう

Key words 移民、共感的理解、持ち物 / 携行品

1 活用する主な展示および資料

- 展示「移民の七つ道具」コーナーのトランク
- 展示「わたしは何を持っていったでしょう」クイズ
- 紙芝居や「移民カルタ」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 外国語科、総合的な学習の時間
- 全4時間（事前2時間、見学1時間、事後1時間）



3 目標

- 移民はどのような国に何を持って行ったかについて、当時の移民の気持ちや考えを理解するための材料を集め、まとめることができる。【知識・技能】
- 「自分がもし移民として海を渡るなら」という状況に応じて、学習した言語材料を用いて、行きたい国とその理由、その国でできることなどから自分の気持ちや考えを伝えている。【思考・判断・表現】
- 当時の移民の気持ちや考えを寛容な態度で受容し、行きたい国とその理由などから共感して当事者の思いを尊重しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本単元では、これから移住しようとしている国とその理由を I want to go to …、や I want to see [visit/eat/drink/buy] … の基本的な表現として活用したり、既習の言語材料 (can) を活用しながら、その国のことについて紹介したりする。考えを表出する力を伸ばすことができる単元である。

多くの日本人が移民としてさまざまな国へ行くことを決意した際、現地での生活を考えたときに「持っていかねばならない」と考えたものがあれば、日本を離れるからこそ「これだけは持っていきたい」と考えたものもあるだろう。具体的には、家族写真やカメラ、辞書、茶道用具などがあり、これらからは、当事者の「移民として」や「移住すること」への感情を読み取ることができる。移民として海を渡った先を確認し、現地での生活や労働などの状況を読み取ることを通して、移住することの実情を捉えることができるようにしたい。また、自らの意思で移住した親世代や大人だけではなく、親と一緒に行くほかなかった子どもたちに寄り添った共感的理解もすることで寛容な態度や尊重する心情をより育めるようにしたい。多様な立場に立ち、海を渡ることへの希望や意志、不安、恐怖などの感情があることも併せて理解する必要がある。事後学習では話すこと [発表] におけるパフォーマンス課題を設定する。支援として活動例を提示する際や学習に見通しをもたせるために、後述の授業づくりのための参考資料にある宮沢氏の語りを参照されたい。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国の単語や行きたい国について伝える表現について理解し、自分の行きたい国とその理由を伝える技能を身につける。【外国語科】 2. 紙芝居や「移民カルタ」を用いて、日本人移民の歴史や生活などについて学習する。【総合】 <ul style="list-style-type: none"> ● 私の知らない国にも行っている。 ● どうしてこれらの国だったんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 移民への理解については、日本語を用いて行うため、外国語科以外の教科で実施する。 ● 必要な言語材料を音声で十分慣れ親しめるようにする。 ● 自分の意思ではなく一緒に行くほかなかった視点からも移民を理解する。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 展示（トランクやクイズ）を見学する。 <ul style="list-style-type: none"> ● こんなものまで持って行ったのか。 ● 笑顔の人もいれば、不安そうな人もいる。 2. 一人ずつ名前や携行品などを確認し、語彙や表現を用いてその人の気持ちを日本語で考えたり、外国語を用いて表現したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自分だったら何を持っていくだろうか。 3. 移住先や携行品などの情報をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> 【携行品の例】家族の写真、カメラ、辞書、茶道用具、習字道具、算盤、化粧品、将棋盤など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 見学するコーナーを予め絞り、本単元に必要な情報を確実に取れるよう支援するが、見学時間を調整することができるのであれば、この限りではなく、資料館全体から移民を理解できるようにする。 ● 携行品に着目させる一方、文書記録や写真などからも当時の人々の海を渡る思いや気持ちを読み取ることができるよう支援する。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国や携行品の語彙を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 【国名】 Argentina/Brazil/Cuba/Peru など 【携行品】 family photo/dictionary/camera など 2. 言語活動の目的や場面、状況を設定し、それに応じた発表を考え、実践する。 <ul style="list-style-type: none"> （例）その当時に移民として海を渡るようになりました。トランクには、一つだけものをを入れるスペースが残っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ALT や翻訳機能を有効に活用し、外国語を通じた理解ができるように支援する。 ● 理由 (want to do) とその国の情報 (can を用いて表現できるもの) について伝えることができるように支援する。

6 学習後の姿

事前学習で学習した日本人移民の歴史や生活などへの理解や外国語科で学習した語彙や表現に加え、資料館見学を通して、海を渡ったさまざまな理由や背景があることを理解させたい。その他、調べた知識を活用し、当時の移民の立場で行き先を選び、そこに持って行く携行品について、簡単な理由とともに表現する。事後学習でパフォーマンス課題に取り組み、置かれた状況や立場に応じた当時の移民の人々の気持ちを考えさせたい。携行品に着目することで当事者のアイデンティティについて考えることにもつながる。「過去の出来事」としてではなく、共感的な理解や当事者の思いを尊重する態度を育みたい。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA横浜 海外移住資料館(2006)『海外移住資料館だより』No. 6 (巻頭インタビュー 宮沢和史氏「移住者のスーツケース…僕ならギターを持っていく」)

真珠湾攻撃によって起こったこと

Key words ハワイ、二世、差別

1 活用する主な展示および資料

- 展示「証言映像」【戦中】(ジョージ・ヒデオ・タカバヤシ氏)
- ハワイ日系人の生活を伝える展示、442連隊に関する展示
- 真珠湾攻撃について伝える当時のハワイやアメリカの新聞(「いみんトランク」教材より)
- 紙芝居「ハワイにわたった日系移民」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 小学校社会科、中学校社会科(歴史的分野)
- 全4時間(事前1時間、見学2時間、事後1時間)

3 目標

- 太平洋戦争の開戦となった真珠湾攻撃によって、ハワイで生活する日本人移民、日系二世に何が起こったのかを理解することができる。【知識・技能】
- 資料、紙芝居、証言映像などの展示から考えを深め、当時の人々の気持ちを想像し、自分の考えを表現している。【思考・判断・表現】
- 真珠湾攻撃によって日本人移民・日系二世に起こったことについて、意欲的に展示から学ぼうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】



4 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

「真珠湾攻撃」について、太平洋戦争の始まりとして教科書に記述があり、子どもたちは真珠湾に停泊していたアメリカの戦艦が煙の中で傾いている写真資料を見て学習する。しかし、ハワイには多くの日本人移民や二世の子どもたち・若者が生活をしていて、日本軍による攻撃によって苦難の日々が始まったことについて、学ぶ機会はありません。戦争によって困難な状況に陥るのは、当該国の兵士だけでなく、そこに生活する人々も同じである。それは過去の世界大戦だけではなく、現代に起こる戦争においても共通する。現在のグローバル化に先駆けて海を渡り海外で生活していた日本人移民とその子どもたちが、戦争において「敵性外国人」となり、どのような状況に陥り、どのような選択をしたのかについて学ぶことで、戦争、人権、平和について考えを深める機会としたい。

過去となった太平洋戦争について、ジョージ・ヒデオ・タカバヤシ氏の証言映像を通して、人を通して戦争を理解する学びの経験をし、今後の戦争や平和について学習する時の一つの「学び方」としても役立ててほしい。

*長くアメリカ軍で働き、引退後はハワイ日系人連合会長を務め、日系社会のまとめ役として活躍した。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども(学習者)の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紙芝居「ハワイにわたった日系移民」を読もう。 <ul style="list-style-type: none"> ●たくさんの日本人がハワイで働いていた。 ●戦争が起こった時は大変そうだったことがわかる。 2. ハワイで生まれた人は日本人なのか? アメリカ人なのか? 3. 真珠湾攻撃が起こった時、人々の生活や立場はどうなったのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> ●資料館で詳しく調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●事前学習なので、事実の追求に深入りをせず、疑問について資料館で調べようとする姿勢をもたせるようにする。 ●資料館見学に向けて、ハワイの移民以外にも調べたいことがあればメモを作成させる。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハワイでの生活の様子がわかる展示を探そう。 <ul style="list-style-type: none"> ●プランテーションの展示がある。 ●紙芝居で見た服装やアルミ製の弁当箱がある。 2. タカバヤシさんの証言映像を見よう。「今日現在みんな除隊だ。理由は君たちは日本人の血が流れているから」と言われた時、「男泣きした」時のタカバヤシさんの気持ちを考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ●差別をされて悔しかったんだと思う。 ●ハワイでアメリカの教育を受けて育ったのに、否定されて辛かったと思う。 3. 第二次世界大戦中に、日本人・二世に他にどんなことが起こったのか。 <ul style="list-style-type: none"> ●強制収容されたり、日系二世で作られた442連隊がつくられたりしたらしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料館では自由見学のスタイルではなく、小グループに分け、ハワイに関する展示とタカバヤシさんの証言映像のコーナーで教師が20分程度指導し、その場で話し合いの場を設定するか、ワークシートに書かせるようにする。その他の時間は自由見学とする。 ●証言映像コーナーでジョージ・スズキさんのような戦後広島で内科医として勤務した人も取り上げたい。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 真珠湾攻撃によって起こったことについて調べたことやわかったことについて話し合う。 2. 資料館の見学で心に残ったことについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ●ハワイに住んでいた人たちだけでなく、南米の人たちもたくさんの苦労や活躍があったことがわかった。 ●ハワイの日系の大きな家族の写真を見て、幸せそうで良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本活動は、真珠湾攻撃と戦時中の二世の生き方について学ぶことを主としているが、展示内容は多様で、世界の日系人の力強さや活躍についても言及する。

6 学習後の姿

社会科の歴史学習において、「真珠湾攻撃」を太平洋戦争の開戦として理解することに加え、戦争によって差別や偏見にさらされて苦しむ移民がいることは、現代でも同じであると考えを期待したい。

7 授業づくりのための参考資料

- グレアム・ソールズベリー著、さくまゆみこ訳(1998)『その時ばかりはパールハーバーにいた』徳間書店
- ジョージ・タケイ、ジャスティン・アイジンガー、スティーヴン・スコット共著、ハーモニー・ベッカー一画、青柳伸子訳(2020)『<敵>と呼ばれても』作品社
- JICA横浜 海外移住資料館(2007,2017)『海外移住資料館だより』No.10, No.46

わたしは「鶴見人」

Key words グローバル化、多文化共生、多様性、ハイブリディティ

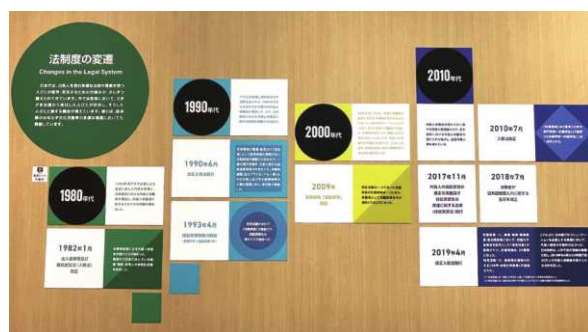
1 活用する主な展示および資料

- 展示映像「国内で活躍する日系人インタビュー」(安富祖美智江氏)
- 展示「法制度の変遷をたどる」「現在そしてこれから」
- 展示資料「南米への移住者募集ポスター」
- 展示「移住地の開拓(イグアス移住地)」三面映像



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科(公民的分野)・総合的な学習の時間
- 全4時間(事前1時間、見学2時間、事後1時間)



3 目標

- 国境を越えた人々の移動について、ポスターや統計資料などを通して、歴史・法律・経済など多様な視点から理解することができる。【知識・技能】
- インタビューの視聴を通して、その人の背景に関心を持って、どのようなアイデンティティを持っているかを想像し、表現している。【思考・判断・表現】
- 多文化共生社会を実現するための活動に気づき、身近な地域にある同様の活動を探し、その活動を紹介することで多文化共生社会づくりに関心を持とうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】



4 単元について(教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など)

事前学習として、1920年代の日本における南米への移民を募集する広告と、1980年代以降のブラジルにおける日本での就職をリクルートする広告を観察することを通して、人々が古くから国境を越え、グローバルに移動してきたことを知り、移動する人々の背景に関心を持たせる。そして、日本からブラジル、ブラジルから日本への双方の人の移動を、統計資料からグラフに加工するなどして考察する。以上の活動を通して、資料館見学までに自分の問いを持つ。

資料館では、自分の問いの答えを探す班と、「国内で活躍する日系人インタビュー」(安富祖美智江氏)を視聴する班に分かれる。そして、安富祖さんが自らのことを「鶴見人」と呼んだ意図を図にして考え交流することで、「日本人」でも「ブラジル人」でもないとするディアスポラ性やハイブリディティについて理解する。資料館の展示から移動する人々の背景を、歴史や法律、経済など多様な視点から理解する。

事後学習では、ABCジャパンのHPから安富祖さんの多文化社会を支える活動をさらに理解する。可能であれば、身近な地域で、多文化を背景に持つ人々を支える活動を調べて訪問することをお勧めしたい。一人ひとりの人権が尊重される多文化共生社会を実現しようとする人々と出会うことで、関心を持ち続けることができるだろう。公民的分野の現代社会の多文化共生社会で取り組むことができる。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども(学習者)の意識	留意点
事前学習	1. 2つの広告(A・B)からわかることや疑問を書き出そう。 ● 鎌を握りしめている。開墾? ● 海外興業株式会社って何? ● ホテル、弁当屋、パン工場が人手不足? 2. ①日本からブラジルへ移住した人、②日本に住むブラジル人の数をグラフにしよう。 3. 2つのグラフから気づいたことを出し合おう。 ① ● 24万人余りの日本人がブラジルへ行った ● 太平洋戦争中は日本から移住する人が途切れている。 ② ● 1990年から日本へ来た人の数が増えている。 ● 2008年と2011年以降の減少の原因は何だろう?	● グループでできるだけ多く書き出し、内容が重ならないようにグループごとに発表させる。 ● 次頁のグラフを用いても良い。 ● 疑問の答えを資料館の中で探すことを伝える。 広告資料(P.17) 統計資料(P.16・17)
資料館見学	1. 安富祖美智江さん(日系ブラジル人)のお話を聞いてみよう。 ● 1990年ブラジルから父のすすめで来日。当初国際電話の代理店の仕事をしていて、ポルトガル語が話せるので教育のことなど相談されるようになり、ABCジャパンを設立。外国人と日本人と一緒にがんばっている。 2. 「鶴見人」と答えた安富祖さんの意図を想像して図や絵にしてみよう。 3. 展示物から事前学習での問いの答えを探してみよう ● Aは1925年頃の南米への移民を募集する広告 ● Bは人手不足でブラジルで労働者を募集する新聞広告 ● 「法制度の変遷」を見ると、1990年6月出入国管理及び難民認定法が改定され「定住者」という就労活動に制限のない在留資格が創設され、中南米からの日系人およびその配偶者などの入国が容易になった。 ● 鶴見区以外にも大泉町や浜松市のような日系ブラジル人が集住するコミュニティがある。	● 視聴のポイント いつ、どこから、どんな目的で来日したか。ABCジャパンの設立と成功の秘訣。 ● 日本人でもブラジル人でもないアイデンティティを図や絵で表現する。ディアスポラ性、ハイブリディティが見える。
事後学習	1. 日本の在留外国人の推移を見てみよう。 ● 中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルの順に多い。 2. ABCジャパン(横浜)の活動をHPで読み、紹介しよう。 ● ブラジルに加え、中国、フィリピン、ネパールなどから来た子どもが集まっている。 ● 日本語を学び、高校進学に向けた勉強ができるフリースクールである。 ● 自分のルーツを持つ国の言葉と文化を学ぶ教室もある。 ● 自分のアイデンティティとどう付き合うか考えられる場でもある。	● ABCジャパンHP  ● 多文化共生支援団体リスト  地元で多文化共生社会づくりに貢献しているNGOを訪ね、活動内容を知りたい。

6 学習後の姿

グローバル化する社会の中で人々は国境を越えて移動し、私たちは多様な人々とともに暮らしている。そのことに意識的になり、一人ひとり異なる背景があることを前提にしつつ、さまざまな移動する人々の背景も、歴史、法律、経済など多様な視点から理解しようとする。そして、身近な地域で多文化社会を実現する人に出会い、多様な人々を受容し尊重できる社会づくりに関心を持ち続ける。

7 授業づくりのための参考資料

- ブラジル移民の100年(国立国会図書館)
- 開発教育研究会(2023)「日本ではたらく外国人」『身近なことから世界と私を考える授業Ⅲ』明石書店



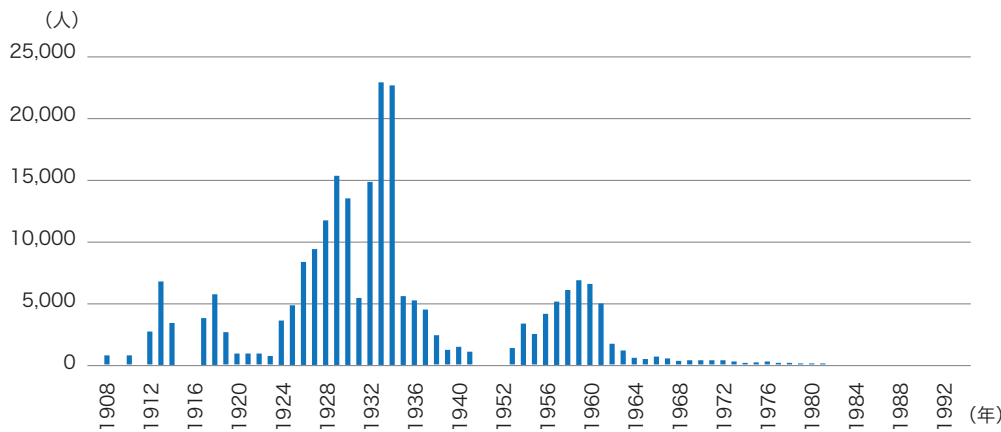
統計資料

●①日本からブラジルへ移住した人数

年	人	
明治 41 年	1908	799
明治 42 年	1909	4
明治 43 年	1910	911
明治 44 年	1911	
明治 45 年	1912	2,859
大正 2 年	1913	6,947
大正 3 年	1914	3,526
大正 4 年	1915	39
大正 5 年	1916	35
大正 6 年	1917	3,883
大正 7 年	1918	5,956
大正 8 年	1919	2,732
大正 9 年	1920	970
大正 10 年	1921	970
大正 11 年	1922	986
大正 12 年	1923	796
大正 13 年	1924	3,689
大正 14 年	1925	4,908
大正 15 年	1926	8,599
昭和 2 年	1927	9,625
昭和 3 年	1928	12,002
昭和 4 年	1929	15,597
昭和 5 年	1930	13,741
昭和 6 年	1931	5,565
昭和 7 年	1932	15,092
昭和 8 年	1933	23,299
昭和 9 年	1934	22,960

年	人	
昭和 10 年	1935	5,745
昭和 11 年	1936	5,357
昭和 12 年	1937	4,675
昭和 13 年	1938	2,563
昭和 14 年	1939	1,314
昭和 15 年	1940	1,564
昭和 16 年	1941	1,277
昭和 17 年	1942	
昭和 27 年	1952	54
昭和 28 年	1953	1,480
昭和 29 年	1954	3,524
昭和 30 年	1955	2,657
昭和 31 年	1956	4,370
昭和 32 年	1957	5,172
昭和 33 年	1958	6,312
昭和 34 年	1959	7,041
昭和 35 年	1960	6,832
昭和 36 年	1961	5,146
昭和 37 年	1962	1,830
昭和 38 年	1963	1,230
昭和 39 年	1964	751
昭和 40 年	1965	531
昭和 41 年	1966	785
昭和 42 年	1967	638
昭和 43 年	1968	442
昭和 44 年	1969	434

年	人	
昭和 45 年	1970	454
昭和 46 年	1971	456
昭和 47 年	1972	557
昭和 48 年	1973	383
昭和 49 年	1974	297
昭和 50 年	1975	299
昭和 51 年	1976	353
昭和 52 年	1977	283
昭和 53 年	1978	298
昭和 54 年	1979	230
昭和 55 年	1980	188
昭和 56 年	1981	161
昭和 57 年	1982	61
昭和 58 年	1983	84
昭和 59 年	1984	60
昭和 60 年	1985	45
昭和 61 年	1986	51
昭和 62 年	1987	40
昭和 63 年	1988	33
平成 1 年	1989	24
平成 2 年	1990	23
平成 3 年	1991	22
平成 4 年	1992	16
平成 5 年	1993	10
合計		242,642

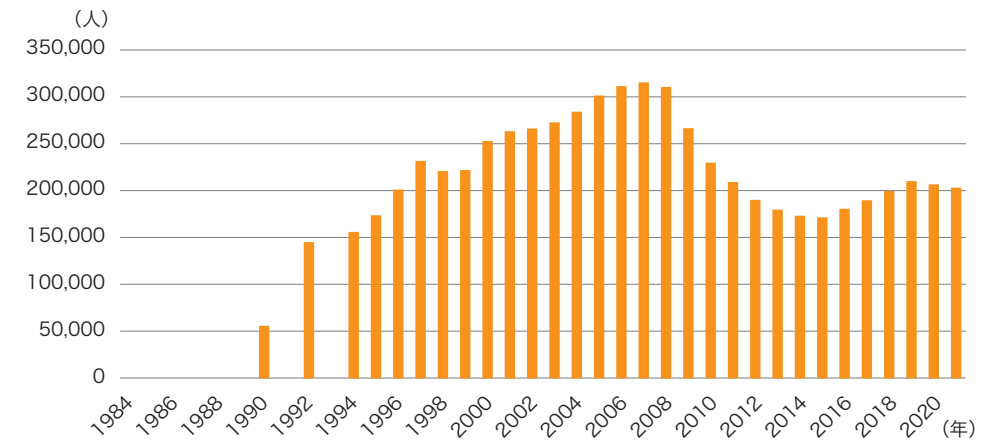


国際協力事業団『海外移住統計(昭和27年度から平成5年度)』平成6年10月より

●②日本に住むブラジル人の数

年	人
1984	1,953
1985	
1986	2,135
1987	
1988	4,159
1989	
1990	56,429
1991	
1992	147,803
1993	
1994	159,619
1995	176,440
1996	201,795
1997	233,254
1998	222,217
1999	224,299
2000	254,394
2001	265,962
2002	268,332
2003	274,700

年	人
2004	286,557
2005	302,080
2006	312,979
2007	316,967
2008	312,582
2009	267,456
2010	230,552
2011	210,032
2012	190,609
2013	181,317
2014	175,410
2015	173,437
2016	180,923
2017	191,362
2018	201,865
2019	211,677
2020	208,538
2021	204,879
2022	209,430



在留外国人統計(旧登録外国人統計) 出入国在留管理庁より

広告資料

●2つの広告



海外興業株式会社による広告 (所蔵: 外交史料館)



2005年9月1日付 ニッケイ新聞に掲載された求人広告

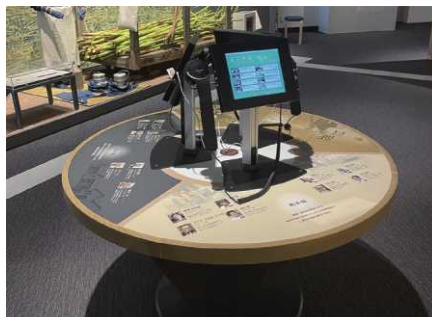


言葉で歴史と人をつなごう

Key words ライフストーリー、アイデンティティ、ことば

1 活用する主な展示および資料

- 展示「証言映像」
- 紙芝居「海を渡った日本人」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校外国語科
- 全3時間（事前1時間、見学1時間、事後1時間）



3 目標

- be動詞や一般動詞の現在形や過去形の文の構造に着目して証言映像をみて、その箇所を抽出することで内容を理解することができる。【知識・技能】
- 証言映像から内容をまとめ、自分の考えを添えて紹介の仕方を工夫しながら語句や文を用いて発表している。【思考・判断・表現】
- 証言映像から聞き取った内容をもとに、英語で発表することで、日本で暮らす外国につながる生徒や友人に寛容になったり、自分の日本語を大切にしようとしていたりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【戦前】【戦中】【戦後】の日本人移民、展示「証言映像」からそれぞれのライフストーリーや経験に着目して生徒が学びを深める。日本での出身地、移住した場所、年代によって、生活様式の相違点があることを知る。また、日本人移民と一括りにする先入観に捉われず、一人の人の生き方から学ぶ姿勢が大切であることを生徒に気づかせたい。「証言映像」に出てくる英語、英語と日本語、英語の発音など、言語に着目して、それぞれ違いがあることに気づかせ、言語の多様性を知り関心を持つ姿勢を育む。手がかりとして生徒がわかりやすいbe動詞や一般動詞の現在形や過去形に注目することで、聞き取ることに集中でき、また英語科の学習を活かすことができる。

英語を学ぶことで、こうした時空を超えた人々となることができるとにも気づかせたい。ソウジロウ・タカムラ氏の第二次世界大戦中の話から言語とアイデンティティについても学び、今後の外国語学習にも活かせるよう考えを深めさせたい。言語を通して働く、人となつなごうの素晴らしさと葛藤を学び、今後の言語学習につなげる。「証言映像」には英語、スペイン語、ポルトガル語での解説や字幕があるため、外国語での発表にも役立てることができる。発表の中で、「証言映像」で使用されたフレーズを積極的に使用することで、フレーズをキャッチしようとする意欲につながる。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. “Why do you study English?”と質問をする。 2. 「海を渡った日本人」の紙芝居を読み、異なる言語の人々と生活していた日本人移民について学ぶ。 3. ソウジロウ・タカムラ氏の写真を見せ、説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ●タカムラ氏が第二次世界大戦中に通信傍受翻訳や書類翻訳をしていたことに驚いた。 ●プランテーションで日本からのお客さんのガイドをしていたとき、どんな気持ちだったのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●海外で仕事をしたいと答える生徒がいた場合、理由をたずねる。  (ソウジロウ・タカムラ氏記事) ●言語を通して働く、素晴らしさと葛藤について考えさせる。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資料館の証言映像【戦前】【戦中】【戦後】のそれぞれの時代から一人選んで、情報を集めよう。 <ul style="list-style-type: none"> ●英語の字幕や証言から、必要な情報を聞き取る。 ＊まとめるポイント 名前・移住した時代・移住した国・ライフストーリー 2. 印象に残った言葉・生き方・なぜ証言者を選んだのかについて話す。 3. 証言者が生きた時代背景や移住した理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ●もし自分が二世だったら、何を考えただろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「証言映像」から基本的な情報を聞き取り、メモを取らせる。 ●証言者の言葉と展示を照らし合わせて見せ、考えを深めさせる。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 紹介する人物の情報をまとめ英語での発表を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ●メモに書いた○○さんの言葉を紹介したい。 2. 日系二世の人々の証言の共通点と相違点を見つけて話し合おう。 3. 自身の着眼点や興味を持った観点から日系二世について学んだことをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ●日系二世は英語と日本語を使い分けていたけれど、戦争で苦労したと思う。 ●日系二世の人の英語を聞くと思議な感じがする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●He is/She is を使って人の紹介を書き、発表させる。 ●移住した国に対する先入観や偏見についても、考えさせる。 ●日本語でまとめ、社会科の授業と教科横断的につなげていく。

6 学習後の姿

普段、教師による範読やALTの英語に慣れている生徒が、日系二世の英語を聞いて「英語の多様性」に触れる。その背景には生まれ育った環境があり、特に「戦争」によって彼らの言葉がアイデンティティを強く物語ることもあったことに気づき、日本で暮らす外国につながる生徒や友人の日本語に寛容になったり、自分の日本語を大切にしようとすることを期待したい。

7 授業づくりのための参考資料

- 矢口祐人、森茂岳雄、中山京子著(2007)『入門 ハワイ・真珠湾の記憶』明石書店
- ディスカバー・ニッケイ(2011)「日系アメリカ人の個人史をつむぐ - ソウジロウ・タカムラ」
(<https://discovernikkei.org/ja/nikkeialbum/items/3899/>)

ハワイのプランテーションで文化が出会う

Key words ホレホレ節、ミックスプレート、言語、文化接触

1 活用する主な展示および資料

- アニメ「弁当からミックスプレートへ」
- 展示「ハワイへの官約移民」「家庭生活」
- 「いみんトランク」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 総合的な学習の時間
- 特別活動（校外学習）
- 全3時間（事前1時間、見学1時間、事後1時間）



3 目標

- 展示から移民の文化接触や変容について理解することができる。【知識・技能 / 総合】
- 展示から見つけた移民の文化接触や変容に関する情報から、言語、服装、食などのテーマを設定し工夫して発表にまとめている。【思考・判断・表現 / 総合】
- 文化変容についてより深く追究し、学校や地域にいる外国につながる人たちの生活や様子に関心を持って交流しようとするきっかけをつかもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度 / 総合】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

1868年、日本人最初の海外移住者約150人がサトウキビプランテーションの労働者としてハワイに渡り、その後1894年にハワイ官約移民制度が廃止されるまでに、約2万9,000人がハワイに移住した。多様な国からの移民が働いたプランテーションで、他の国から来た移民との生活様式をどのように工夫していたのかを考え、プランテーションでの文化の変容と当時の人々の生き方について学ぶ。文化接触と変容、保持の課題は、現代の多文化社会を構成する日本の社会でも考えるべき視点で、生徒が海外移住資料館での学びを通して多文化社会の一員としての資質・能力を高めることができる。

共通言語を持たない日本、中国、ポルトガルなどの移民がともにプランテーションで働く中で言語接触だけでなく文化接触により何がもたらされたのか、実際の資料館の展示物から見つけて調べ学習を行う。衣類や食に関することに視点を広げることで、理解を深めることができる。

中学生は、抽象的な思考を学ぶ段階であり、資料館の学びの体験を抽象的な「文化接触」「文化変容」などの用語を用いながら説明させたり、「移民」がグローバルリズムの中で背負った課題に気づかせたりさせたい。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. アニメ「弁当からミックスプレートへ」を視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> ●言語の異なる人々とハワイのプランテーションで働くこととなったとき自分がとる行動について考える。 2. アニメからどのような言語が使用されているか？ <ul style="list-style-type: none"> ●ハナ、ルナ、カウカウ、バグーンそれぞれどこの国の言葉なのか、言葉の意味を調べる。 3. 「ホレホレ節」を聞こう。 <ul style="list-style-type: none"> ●ハワイの日本人移民が労働歌として歌っていた。 	<p>「弁当からミックスプレートへ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本人移民、ポルトガル人、中国人、韓国人、フィリピン人、ハワイの人々がプランテーションで働いていたことを解説する。 ●「ホレホレ節」の歌詞から当時の人々の生活を考える。 <p>「ホレホレ節」</p>
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化や言語接触によって生み出されたものを資料館で探そう。 2. 資料館で「ホレホレ節」を聞こう。 <ul style="list-style-type: none"> ●「ホレホレ節」が歌われていた背景を知る。 ●展示「ハワイの官約移民」のコーナーの前で、「いみんトランク」のハナハナの労働着を実際に着て、感想を言葉にしてみる。 3. ミックスプレート、アルミ製の弁当箱、移住者の労働着（ハナハナウェア）、キャベツのつま、スラムむすび展示を見て気づいたことを考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ●文化が接触することによって言語以外にもさまざまな物が生み出されることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料館では、展示から探すことを目的とし、見つけた物を共有させる。 ●マネキンを見ながらグループで協力して着る。 ●ハワイ官約移民の生活だけではなく資料館全体を見学するよう促す。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現地の文化と移民の文化接触によって生み出された物を班で1つ絞ってまとめる。（言語、服装、食べ物など）班ごとにクラスで発表を行う。 2. 移民が交流することによって、人々にどのような影響があったのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ●言語接触だけでなく、文化の接触により何がもたらされるのか知る。良いことと課題であることの双方を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●同じ展示を見ていても、考え方や着眼点がそれぞれ違うことを推測させる。 ●ハワイの人々の立場から流入してくる移民について考えさせたい。

6 学習後の姿

資料館での学びと事前事後の学習を経て、日本の多文化社会の中で起きている文化接触や変容について関心をもつようになり、学校や地域にいる外国につながる人たちの生活や様子に関心をもって交流を深める姿を期待したい。

7 授業づくりのための参考資料

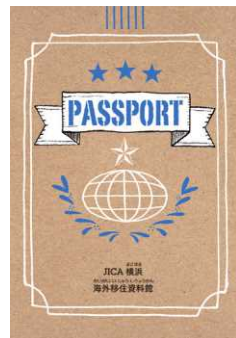
- 中原ゆかり著(2014)『ハワイに響くニッポンの歌：ホレホレ節から懐メロ・ブームまで』人文書院
- JICA 横浜 海外移住資料館(2007)『海外移住資料館だより』No.8

移民から考えるSDGsピクトグラムづくり

Key words 持続可能な社会、現代の諸課題、移民の生活と持続可能な開発

1 活用する主な展示および資料

- 紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」
- 海外移住資料館「パスポート」
- 地球的課題としての移民の現状がわかる展示および資料



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科（公民的分野）
- 高等学校公民科（公共）
- 全4時間（事前1時間、見学2時間、事後1時間）



3 目標

- 持続可能な社会を創るために解決すべき現代の諸課題として移民の歴史や現状を理解し、SDGsと関連する展示からピクトグラムをつくるための情報を、まとめようとしている。【知識・技能】
- 移民の歴史や現状を公正な視点から捉え、持続可能な開発を多角的・多面的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れ、構想したことをSDGsのピクトグラムで表現している。【思考・判断・表現】
- 移民の歴史や現状からSDGsのピクトグラムづくりを通して、移民というテーマを現代の諸課題と捉え、これからの持続可能な社会を主体的に追究している。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【教材観】17の目標と169のターゲットからなるSDGsと移民の歴史や現状との関係が示されている「パスポート」を採用する。SDGsについては、「環境」「経済」「社会」という三つの視点を意識しながら、17の目標だけではなく、それぞれの目標にある169のターゲットまで理解し、具体的な移民の生活と関連付けられるように学びを促す。「パスポート」からは、資料館がどのように展示とSDGsを紐づけているかを読み取り、紐づけされている目標にフォーカスする。「われら新世界に参加す」という矜持からこれからの持続可能な社会を考えるヒントを得られるようにする。【単元設定の理由】「SDGsピクトグラムづくり」を中心に単元設計をしていく。生徒一人ひとりの考えるこれからの持続可能な社会を移民の視点から17の目標をピクトグラムで表現すること（移民の視点によるSDGsの具体化）をねらいとする。「日本人の海外移住」の「経験を語り継ぐ」「アグロフォレストリー」「日系人・日系社会の現在」などをテーマに調査し、得た情報を根拠として表現する。

【資料館活用の視点】展示の内容と紐づけされたSDGsの関係を読み取り、移民の視点から持続可能な社会を考えられるようにすることで、SDGsピクトグラムづくりに活かせるようにする。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【単元を通して考え続ける問い】移民の視点からこれからの持続可能な社会を考えると、あなたはどのようなSDGsピクトグラムをつくるか？</p> <p>1. SDGsの目的・意義・スローガン：17の目標と169のターゲットの確認、2030年までに達成すべき目標、地球上の「誰一人取り残さない」。</p> <p>2. 「パスポート」から展示とSDGsの関係を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「1. 経験を語り継ぐ」：目標10・16・17 ●「2. アグロフォレストリー」：目標2・13・15 ●「3. 日系人・日系社会の現在」：目標10・16・17 <p>3. 紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」の読み解き</p> <p>問. 紙芝居をよみききして、あなたが関連すると考えるSDGsは何ですか。理由とともに考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「目標10：人や国の不平等をなくそう」：文化背景の異なる他者と出会ったときに起こる差別・偏見を考えるなど 	<ul style="list-style-type: none"> ●移民の歴史や現状と関連づけられるようにSDGsを解釈できるように促す。 ●知っているか知らないかではなく、何を感じたのかを大切にできるように配慮する。
資料館見学	<p>1. 展示の内容とSDGsの関係を調査しよう！：展示の内容と紐づけされているSDGsを解釈して、探究してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「2. われら新世界に参加す」：②イグアス移住地→目標9・15・17、③大地に挑む→目標2・9・15、④栽培していた農作物→目標2・13・15、⑤野菜栽培→目標9・15、⑩教育→目標4 ●「3. 日系人・日系社会の変遷／日系人・日系社会の現在」：③COPANIの盾→目標10・16・17、⑥経験を語り継ぐ→目標10・16・17 <p>2. 移民をテーマとした持続可能な開発目標を考えよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「目標10：人や国の不平等をなくそう」→「人の移動による文化背景の異なる他者（多様性）の尊重」と解釈。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「パスポート」にあるSDGsを中心に展示を見学しつつ、それ以外の展示のSDGsとの関連も考え、調査から理解する。 ●資料館見学で、自分の視点から「これからの持続可能な開発」を探究し、持続可能な未来と対話できるようにする。
事後学習	<p>1. SDGsピクトグラムづくり：自分が調査した情報をもとにして、SDGsをピクトグラムで表現し、そのピクトグラムの解説を作成する。移民の視点から「これからの持続可能な社会」を構想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「ピクトグラム」例：「目標10：人の移動による文化背景の異なる他者（多様性）の尊重」 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人ひとりが自分なりの「持続可能な社会」を紡ぐことができるように「問い」を共有する。 ●資料館見学で得た情報を根拠にできるように促す。

6 学習後の姿

SDGsの目的・意義・スローガンを確認したうえで、「パスポート」や紙芝居を通して、移民の歴史や現状と紐づけされたSDGsについて、生徒一人ひとりが解釈することができている。このプロセスを通して、「これからの持続可能な社会」を創る準備ができており、「SDGsピクトグラム」というかたちで表現し、伝え合うことができている。このことは、生徒一人ひとりが「これからの持続可能な社会」を考えるために重要であり、現代の諸課題へのアプローチとなる。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA 横浜 海外移住資料館「パスポート」
- 蟹江憲史著(2020)『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動8

「移民から考える SDGs ピクトグラムづくり」ワークシート

()年()組()番 氏名()

【単元を通して考え続ける問い】

◎移民の視点からこれからの持続可能な社会を考えると、あなたはどのような SDGs ピクトグラムをつくるのでしょうか？

【事前学習(1時間目)】



★SDGsとは

「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。」

【参考】外務省 HP「JAPAN SDGs Action Platform」(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>)

問1. 今の段階で、あなたが重要だと考える SDGs を3つ選び、その理由を答えましょう。

選んだ番号	理由

問2. 問1で選んだ3つの SDGs の目標の関係性を説明しましょう。

【海外移住資料館でのワークショップ】

○展示を見学して記録しましょう。

【事前学習から選んだテーマ(重要だと考える SDGs)】

【見学コーナー1()】

【見学コーナー2()】

【見学コーナー3()】

【展示見学後に問い直したテーマ(重要だと考える SDGs)】

【SDGs ピクトグラム】

◎自分が調査した情報をもとにして、移民に関する現代の諸課題にアプローチするための SDGs(17の目標を移民の視点から具現化してみよう。または、17の目標にはない新しい目標を設定してみよう)をピクトグラムで表現し、そのピクトグラムの解説を作成しましょう。

<ピクトグラム>

<解説>



異国に思いを馳せて

Key words 移民宿（外航旅館）、移住への思い、渡航者

1 活用する主な展示および資料

- 展示資料「横浜周辺の移民宿」
- 展示資料「熊本屋旅館の旗」
- 展示「移民の七つ道具」コーナーのトランク
- 展示映像「なぜ海外へ行ったのか」インタビュー映像



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科（歴史的分野）
- 高等学校地理歴史科（日本史探究）
- 総合的な学習（探究）の時間
- 全6時間程度（事前1時間、見学2～3時間、事後2時間～）



3 目標

- 異国（海外）への出稼ぎや移住をする日本人のために役割を果たした移民宿（外航旅館）の役割や機能について理解することができる。【知識・技能】
- 異国に思いを馳せて異国へ渡った当時の日本人の思いについて肯定的に推察し、現在の日本に移住する外国人や外国につながる人々の思いに重ね合わせて共感的に考えようとしている。【思考・判断・表現】
- 横浜をはじめ神戸、長崎の波止場から異国へ渡った日本人について、移民宿を中心とした諸展示資料から主体的に史実をつかもうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

明治時代以降、異国への出稼ぎや移住をする日本人のための外航旅館である「移民宿」が、横浜や神戸、長崎の波止場周辺にあった。海外移住資料館のある横浜は、神戸港と並ぶ移民渡航の出発港であり、多くの渡航者が出発までの数日間をこの地で過ごした。これらの人々に対し、宿の提供だけでなく、渡航手続きやさまざまなサービスを提供したのが移民宿である。なお、1928年に国立移民収容所（神戸）が設立され、移民宿は消滅していった。当時の日本人が移住に際し種々の理由を抱えながら、まだ見ぬ異国に思いを馳せ、移民宿で過ごした数日間はどうのようなものだったのか、当時の人々の思いに寄り添いながら考える上で、移民宿は有益な教材となる。そこで、本単元では、①事前学習において日本人移民の渡航に対する思いの推察、②資料館見学で移民宿に関連する展示資料の鑑賞、③事後学習における海外移住資料館付近の横浜港や移民宿「熊本屋」など、日本人移民に関連するチェックポイントやモニュメントについて探究するフィールドワークを行う。①～③の過程を踏むことで、トランスナショナルな人の移動に伴う世界規模での相互依存関係と一国における多文化共生の課題について考える足掛かりとしたい。

社会系教科と総合的な学習（探究）の時間との教科横断型の単元構成を検討しても良い。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【異国に渡った日本人の思い】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異国に移住した日本人は、日本を離れる日を待つまでのような思いだったのか推察する。 <ul style="list-style-type: none"> ●知らない国での生活に不安を感じていた。 ●新しい生活に期待を寄せていた。 2. 異国の地での日本人移民の生活についてつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> ●戦争を通して移民に対する人権侵害があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●紙芝居「海を渡った日本人」の場面①～⑥を教師が朗読し、当時の異国に渡る日本人の立場になって考えるよう促す。 ●紙芝居「海を渡った日本人」の場面⑦～⑩から、戦中・戦後の日本人移民について考察させる。
資料館見学	<p>【移民宿からみえる海外渡航者の思い】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 移民宿について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ●移民宿が乗船切符の手配や出航手続きを代行した。 ●渡航者にとって移民宿は重要な役割だった。 2. なぜ海外へ行ったのか、その理由をインタビュー映像から考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ●軍事政策のために将来を考えさせられたから。 ●親孝行だと思って写真花嫁として海を渡った。 ●母親を亡くし、ハワイにいる父を頼ってハワイへ移住した。 3. 異国に思いを馳せた日本人の視点から、もう一度、館内を見学し関連する展示物を探し記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示資料「横浜周辺の移民宿」など、移民宿に関する展示を鑑賞し、移民宿の役割や機能を捉えられるようにする。 ●トランクにある移民宿のステッカーにも着目させる。 ●インタビュー映像「なぜ海外へ行ったのか」を鑑賞し、ワークシート（資料1）に移住した理由を記入させる。 ●ワークシート（資料1）に、見つけた展示物を記録させる。
事後学習	<p>【異国へ渡った日本人の思いと日本に移住する外国人・外国につながる人々の思い】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 異国へ渡った日本人について探究する。 <ul style="list-style-type: none"> ●海外移住資料館近隣のフィールドワークを行う。 2. ①異国へ渡った日本人の思いを再考し、さらに、②日本に移住する外国人・外国につながる人々の思いを考察する。 <ul style="list-style-type: none"> ●当時、異国に渡った日本人は日本を離れるまでお金を切り詰めて移住地に渡ろうとした。 ●移住地で錦を飾ってから日本へ帰ろうと思っていた。 ●異国へ渡った日本人と日本に移住する外国人・外国につながる人々の思いには重なる部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●資料館見学後、「日本人の海外移住と横浜開港の歴史MAP」（資料2）を基に、グループで訪問場所を決め、フィールドワークを行う。 ●フィールドワーク後、「宮里定三さんのインタビュー」（資料3）を読み当時の異国へ渡った日本人の思いを再考し、ワークシート（資料1）に記入させる。 ●現在、日本に移住する外国人・外国につながる人々の思いについて考察させる。

6 学習後の姿

本単元を通し、移民宿の役割や機能について理解し、日本を離れ海を渡った日本人の理由を考察するとともに、異国に思いを馳せて異国へ渡った日本人の思いと現在の日本に移住する外国人や外国につながる人々の思いを重ね合わせて共感的に捉えることで、トランスナショナルな人の移動に伴う世界規模での相互依存関係と一国における多文化の共生の課題について追究する態度を育みたい。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA 横浜 海外移住資料館（2023）「日本人の海外移住と横浜開港の歴史MAP」（資料2）

資料 1

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動9 (資料1)

「異国に思いを馳せて」ワークシート

()年()組()番 氏名()

事前学習

問1. 紙芝居「海を渡った日本人」の場面①～⑥から、異国に移住した日本人は、日本を離れる日待つまでどのような思いだったのか、自分なりの意見を書いてみましょう。

--

問2. 紙芝居「海を渡った日本人」の場面⑦～⑩から、戦中・戦後の日本人移民はどのような生活を移住地で送り、どのような環境下にあったのかまとめてみましょう。

--

資料館見学

問3. 「移民宿」に関する展示資料から、移民宿の役割や機能についてまとめてみましょう。

--

問4. インタビュー映像「なぜ海外へ行ったのか」から、映像に出てくる人々は、なぜ海外へ行ったのか、それぞれの理由をまとめてみましょう。

--

問5. 異国に思いを馳せた日本人の視点から、もう一度、館内を見学し関連する展示物を探し、その①展示物名、②展示物の簡潔な解説、③展示物と異国に思いを馳せた日本人との関連性についてまとめてみましょう。

①展示物名	
②展示物の解説	
③関連性	

事後学習(フィールドワーク)

問6. グループで話し合いながら、「日本人の海外移住と横浜開港の歴史 MAP」(資料2)を参考にして、これから実際に調査に行きたいモニュメントやチェックポイントを2～3つ選びましょう。

班員の氏名	
訪問場所①	
訪問場所②	
訪問場所③	

問7. 実際に訪問し異国に思いを馳せた日本人に関連する事柄や気づいた点を記入しましょう。

訪問場所① ()	
訪問場所② ()	
訪問場所③ ()	

問8. 「異国に思いを馳せて」の全体の学びを通して、①過去に異国へ渡った(渡航を待つ)日本人の思い、②現在、日本に移住する外国人や外国につながる人々の思い(どのような思いで日本へ移住したのか)、の2つの視点からまとめてみましょう。

①過去に異国へ渡った(渡航を待つ)日本人の思い

--

②日本に移住する外国人や外国につながる人々の思い(どのような思いで日本へ移住したのか)

--

問9. 「異国に思いを馳せて」の全体の学びを通して、事前学習と事後学習(フィールドワーク)後の自己変容について、自分なりの意見をまとめてみましょう。

--



資料 2

日本人の海外移住と横浜開港の歴史MAP

日本人ペルー移住100周年記念像「リマちゃん」
1999年2月27日、第一次航海船(在船者は790名の日本人を乗せ、横浜港を起程。同年4月3日にペルーの首都リマの外国カヤオ港に到着しました。
日本人が最初にペルーに渡ってから100年が経過した1999年2月27日に、移住先開港の歴史を再び、21世紀へとつづく日本とペルーの友好を願って建立されました。

日本ブラジル修好100周年記念碑
歴史と未来への賛歌-虹の空間 95
ESPAÇO ARCO-IRIS 95
1995年にブラジルで日伯友好通商航海協定が調印されました(調印式をもって正式に国交樹立)。同協定調印から100周年を記念して設置。調印の記念碑がサンパウロ市のパンアメリカ広場に設置されています。

第2次世界大戦後の多くの日本人を救った「ララ」物資
最初のララ(LARA)物資を乗せたハワード・スタンベリー号が横浜新港埠頭に到着したのは1946年11月30日。以降、6年間の間に総額で400億円相当の支援物資が送られ、そのうち約20%が在留邦人や日本人の救済から渡された支援物資だと推定されています。
*LARA: Licensed Agencies for Relief in Asia(ララ物資協会)

最後の移民船「にっぽん丸」が横浜(大さん橋)を出発したのは1973年2月14日。それまでの間多くの移民船が横浜から出航しました。

日本人移民・横浜の歴史にまつわる石碑や史跡

- 1 ララ物資の記念碑
- 2 ララ倉庫(跡地)¹⁾
- 3 東横浜駅
- 4 日本人ペルー移住100周年記念像「リマちゃん」
- 5 日本ブラジル修好100周年記念碑 歴史と未来への賛歌-虹の空間 95
- 6 日米和親条約締結の地
- 7 横浜税関遺構 鉄軌道及び転車台
- 8 外国郵便創業の局
- 9 我国最古の公園
- 10 神奈川県電気発祥の地
- 11 吉田橋開門跡
- 12 太陽の母子(アイスクリーム発祥の碑)
- 13 日本で最初のガス灯
- 14 鉄道創業の地・開業当時の横浜駅長室跡

移民宿・移住あつせん所

- 1 熊木屋旅館
- 2 篤屋旅館
- 3 福島旅館
- 4 大島屋旅館
- 5 福井屋
- 6 上州屋
- 7 大勢屋旅館
- 8 津久井屋旅館
- 9 大野屋旅館
- 10 長野屋
- 11 信濃屋
- 12 松阪屋旅館
- 13 紀ノ国屋
- 14 外務省横浜移住あつせん所

-JICA横浜センターの変遷-

外務省横浜移住あつせん所 1956-1961

海外移住センター¹⁾ 1961-2002

横浜センター 2002-

¹⁾「あつせん所」から「移住センター」へ、名称の変遷
1961 横浜移住あつせん所
1964 横浜移住センター(外務省から移管)
1971 海外移住センター(神戸移住センターと統合・改称)

リマちゃんのお姉さん「さくらちゃん」
日本人ペルー移住100周年を記念して建てられた「リマちゃん」には、ペルーの首都リマ市にお姉さんがいます。日本人ペルー移住90周年を記念してリマ市にあるペルー日本人協会に建てられた「さくらちゃん」です。さくらちゃん、リマちゃん姉妹は太平洋をはさんで握手をしているかのようです。
さくらちゃんのお姉さん手はたくさんの人たちと握手をしてきたので、その手は黒黒珠のように光輝いています。

ララ救護物資配分経路及手続図 出典『ララ記念誌』厚生省(1952)

ララ物資は横浜港に到着すると、ララ倉庫(旧三井物産横浜支店倉庫)に一時保管されたあと、東横駅(現在の東横本町付近)から全国各地に配布されました。ララ倉庫は1910年に竣工された歴史あるレンガ造りの倉庫建築でしたが、2015年に解体されました。
*1【参考】RARA.com 「ララ物資って? 横浜は?」
*2【参考】RARA.com 「ララ物資って? 横浜は?」

資料 3

JICA 横浜 海外移住資料館 『学習活動の手引き』 活動9

(資料3)

宮里定三さんのインタビュー

日時:1997年11月23日 場所:那覇市沖縄ホテル

私は昭和6年頃からずっと戦争になるまで移民と関係していましたよ。神戸で。昔は横浜も神戸もそうですが、旅館があつてね、特殊な、移民だけを扱う旅館ですよ。移民旅館。移民宿ね。これは横浜と神戸にしかないんですよ。

横浜も神戸もそうですが、沖縄移民が特に集まっていた旅館がありました。横浜には「横浜ホテル」もあるし、「鳴門旅館」もあるし、それから「宮崎旅館」もあるし、3つありましたよ。「鳴門旅館」というのは本町小学校の隣だったな。あの紅葉坂というのがあつたでしょ。あの坂の上に料理屋があつて、(この間)下降りていったけど無かつたな。「宮崎旅館」というのもあつたですよ。3つとも沖縄の人が経営しておつたよ。

戦前の移民を扱ったのは私しか残つたらんね、もう生きている人はね、私はね、船は毎日あるわけではないから、ハワイやアメリカから浅間丸とか竜田丸が入ってくると向かいに行きよつたですよ、横浜まで。だから私は毎月2回横浜に行っていましたよ。特急乗つてね。

横浜の「鳴門旅館」は120~130人だろうな。「横浜ホテル」と同じようなもんだから、そんなもん違うか。「宮崎屋」もだいたい似てる。「大勢屋」は大きかつたな。あれは、150~160人は入れたんじやないかな。やっぱりそれは山口からの移民が多いからのような気がした。

当時ね、横浜~ホノルルは65ドルですよ。これは外国船に乗つても、日本船に乗つても料金は同じ。180円かな。3等でね。2等は倍以上だからね。1等というのは部屋が2つくらいしかないですよ。3等が一番下で広間だからね。ホノルルまで丸1週間。横浜から神戸が今日出れば一晩だからね。神戸からだとも8日間かかるわけだ。陸路で行きたければ、船会社から切符出しようつたですよ。汽車の切符。荷物だけ積んでね。見物しながら陸路で行きたい人は横浜から乗つていいわけだ。横浜から乗ると5円差があつたから、それを船会社が出したんですよ。

移民というのはどっちかという農家の次男・三男で、あまり家庭もよくない所から行くんですよ。金持ちが行くのではないんですよ。だから金を余計に使つたりすることはない。これは旅費も借金して行くわけだからね。無駄な金を一銭も使わないというのが移民ですよ。物を買つたり、飲みに行つたりしないですよ。なるべくセーブして、で我々もそう見ていたですよ。農村の真面目な人だから、稼ぎに行く人だから心構えが違うわけですよ。帰りには、もう相当余裕のある人が帰つて来るから、飲みに行つたり、遊びに行つたりしたよつたけど。もう向こうで儲けて、錦を飾つて、帰る時には必ず蓄音機を買つた。お土産に。行き場合は渡航中に何を食ふとか、かつお節をもつとか、黒糖をもつとかその準備ですよ。それから胡麻をお菓子みたいに作つてね。そういった船中で食べるものもあつて、一般のものは買わないですよ。また買う余裕がないですよ。

いやいや、横浜は懐かしいねえ、こっちは。横浜もずいぶん通つて、ついこの間も3年前に行つたけど。車に乗つてね、野毛山からずっと見たけど、全然、この思い出が湧いてこないんだよな。桜木町見ても分からんしね。まるきり変わつてさ、大きくなりすぎて。神戸行つても、横浜行つても、誰かれ捕まえて話しようと思つても全然手掛かりがないんですよ。

【引用文献】

芹澤健介(1997)『戦前の横浜における移民宿の実態-沖縄移民との関係を中心に-』横浜国立大学経済学部国際経済学科卒業論文(未公開)24-29頁



中学校
高等学校

日本社会で活躍する日系ブラジル人

Key words 多文化共生社会、日系人、ライフヒストリー、二つの故郷

1 活用する主な展示および資料

- 展示映像「国内で活躍する日系人インタビュー」（増子利栄氏）
- 展示映像「Monica and Friends 日本とブラジル友情の絆」



2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科（地理的分野・公民的分野）
- 高等学校公民科（公共）
- 総合的な学習（探究）の時間
- 全7時間程度（事前2時間、見学2～3時間、事後3時間～）



©MSP-JAPAN

3 目標

- 日系人として来日した経緯や労働者および定住者として、日本の多文化社会の一員としてともに暮らしていることについて理解することができる。【知識・技能】
- 日系人のライフヒストリーに重ね合わせて共感的に学び考えながら、日本社会で活躍する日系人について考察している。【思考・判断・表現】
- 国籍やルーツに限らず、誰もが地域社会で活躍することのできる多文化共生社会の実現のための諸課題を主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

グローバル化が進展する中、国家の枠組みを越えた人の移動が社会現象となり、多文化化が進行している。かつての日本は移民の「送り出し国」であった。昨今では移民の「受け入れ国」へ転換している。日本における在留外国人数は、2023年6月末現在、中長期在留者と特別永住者を合わせて約322万人である。特に、在日ブラジル人は、約21万人であり（出入国在留管理庁、2023）、大半が日本につながりを持つブラジル人であることが推察される。現在、日本国内における南米系外国人の集住地域は、愛知県、静岡県、群馬県の工業地帯を中心に形成されている。ブラジル日系社会では、家族単位を中心とした定住化も進んでいる。日系ブラジル人をはじめとした日系人や多くの外国人が地域社会には暮らしており、多様な文化や習慣が存在する。そこで、本単元では、「増子利栄氏のインタビュー映像」をもとに、日系人のライフヒストリーや日本社会で活躍する日系人、二つの故郷をつなぐ両国への貢献について、グローバルな人の移動に伴う地球的規模での相互依存関係（移民のグローバル化）の視点から、一国内における多文化の共生（移民の多様化）につなげて発展的に考えさせたい。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	【日本の多文化化と日系ブラジル人】 1. 日本国内の在留外国人の人数についてデータや資料などから知る。 ● 中国、ベトナム、韓国、フィリピン、ブラジルの順に多い。 2. 日系ブラジル人とはどのような人々か。 ● 両親が日本人にルーツを持つブラジル人。 ● 祖父がブラジル人。 3. 「パステウは日系人？」を読んで理解を深める。 ● 日系ブラジル人の魅力が少し分かった。	● 日本における在留外国人数を留意する。 ● 日本生まれ・日本育ちの外国人も増えていることを補足する。 ● 「パステウは日系人？」（内山、2022）（資料1）を配布し、日系ブラジル人の背景について考察させる。
資料館見学	【日本社会で活躍する日系ブラジル人】 1. 日本とブラジル友情の絆について知る。 ● 「日本とブラジルの友情の絆」が分かった。 2. 増子利栄氏のインタビュー映像から、①来日した理由、②日本社会の変化、③二つの故郷への恩返し視点について考察する。 ● 父親から日本は素晴らしい国だと教育されてきた。 ● 30年前、日本人は外国人をあまり良い目で見ていなかったが、現在は受け入れられるようになった。 ● 東日本大震災の時には、日本に住むブラジル人を100人集め、1トン半の肉を持って炊き出しに行ったことから、増子さんたちは日本も故郷だと思っている。 3. 日本で活躍する日系人の視点から、もう一度、館内を見学し関連する展示物を探し記録する。	● 展示映像「日本とブラジル友情の絆」を鑑賞し、両国における日本人移民や日系人の努力を共感的に捉えられるようにする。 ● 展示映像「増子利栄さんのインタビュー」を鑑賞し、ワークシート（資料2）に三つの視点で気づいたことを記入させる。 ● 「増子利栄さんのライフヒストリー」（資料3・4）を配布し、増子氏の軌跡をつかませる。 ● ワークシート（資料2）に、見つけた展示物を記録させる。
事後学習	【誰もが地域社会で活躍できる多文化共生社会の実現】 1. 地域社会で活躍する日系人について探究する。 ● 当事者に対面やオンラインを用いてインタビュー調査を行う。 ● インタビューをもとに、ポスター形式でまとめる。 ● ポスターを用いて発表会をする。	● 地域に暮らす日系人にインタビューを行う時間を設ける。 ● 日本で暮らす中で、抱えている課題についても調査し、課題の克服に向けてどのような取り組みが必要か考えるよう促す。

6 学習後の姿

本単元を通し、日本の多文化化の現状と日系ブラジル人について肯定的に捉え、日本社会で活躍する日系人について、ライフヒストリーや展示物・資料をもとに考察することで、誰もが地域社会で活躍できる多文化共生社会の実現のために追究する態度を育みたい。

7 授業づくりのための参考資料

- 内山夕輝(2022)「パステウは日系人？」第三回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」授賞作品（JICA 横浜 海外移住資料館主催）

資料 1

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 10 (資料1)

バステウは日系人？

内山夕輝 (公益財団法人浜松国際交流協会)

「バステウは私たちみたい」

そう同僚が言ったのは、皆でブラジルの軽食「バステウ」を食べていた時だった。バステウとは揚げ餃子のようなもので、具を生地で挟み込んで揚げたものだ。

「ブラジル人はバステウを日本の料理だと思っているよ。でも、日本ではバステウはブラジル料理でしょ。日系人と一緒だね」と、同僚は笑いながら言った。

静岡県浜松市はものづくりの街である。製造業が多く、そこで働く外国人が多く住んでいるが、中でもブラジル国籍者は最も多い。全国的に見てもブラジル人住民数は最も多く、出入国在留管理庁の在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表では1990年以降不動の日本一である。ルーツのある人、帰化した人などを含めると、ブラジルにつながる人種はさらに多い。日系ブラジル人とその家族による集住の歴史は既に30年を経過しており、次世代、次々世代がここで育っている。彼ら彼女らは、浜松を、日本を、どんな思いで見つめているのだろうか。同僚の何気ないひとことが私の耳から離れない。

私が浜松国際交流協会に勤務し始めてから16年が経つ。これまで多文化共生を進める事業を様々な行ってきたが、私自身、果たしてうまく進んでいるのか自信が持てない。また、同僚と一緒に働いている人や、仕事をきっかけに友人になった人がいるにもかかわらず、日系ブラジル人のことを心から理解できているかと思われるかと答えに詰まってしまう。

ある日、日系ブラジル人の友人が「これが船に乗る前」と言って写真を見せてくれたことがある。KOBE EMIGRATION CENTER と書かれている建物の前で、子供も含めた老若男女が100人位写っているモノクロの写真だった。写真の下部に「昭和35年10月2日神戸出航あふりか丸乗船者渡航記念」と印字されていることから、これから一緒に船に乗る日本人移住者の集合写真だということがわかる。私の父と母と兄と姉と祖母。私は、皆がブラジルについてから4年後に産まれたんですと友人は言った。この写真に写っている人たちは皆、どんな気持ちだったのだろうか。見ず知らずの人たちと集団で船に乗り込み、彼の国を目指す。出発直前の興奮がおさえきれない人もいだろう。母国を離れて生活する不安に襲われ逃げ出したくなる人もいたのではないかな。必ず帰ってくるという決意を覚悟に変え、自らを奮い立たせていた人もいなかっただろう。

私が知り合う日系ブラジル人たちは、ほぼ例外なく家族の写真や手紙を持っている。祖父母や叔父叔母の写真など、自分が写っていないけれどもルーツがわかるものとして

1

大切にしているようだ。また、皆記憶も鮮明で、写真の人物を指さしながら、「この人は叔母で、こっちは従妹」「この人はうちの農場で働いていたブラジル人」など、もれなく紹介してくれる。私は、自分の家族以外の写真を持っていないので、彼らの“親戚も家族”という感覚には驚かされる。実際、日本人が友人間で親戚の写真を見せ合う話など聞いたことがない。きっと母国を離れて生活する彼らにとって、互いに助け合う気持ちは不可欠で、親戚間の結束力も自然と高まったのだろうと推察すると、同僚が、親戚までが家族というのは日本の文化でしよと逆に驚いているところを見ると、もしかしたら昔の日本では親戚との関係が今よりもっと濃かったのかもしれない。日本人の私は日系人の友人から日本の文化を教わっている。

時には、ブラジルの日系社会が記録されたものも見せてくれることがある。相模の巡業や、運動会、お墓参りの様子など、本人の思い出として話してくれることもあれば、家族の経験として記憶を継承している様子も見られる。私はこうした写真を見せてもらいながら、彼らの記憶や記録を聞くのが大好きで、ブラジルに移住した日本人に思いを馳せる。そして、彼らの人生をうらやましく思うのだ。

私は海外とは無縁の出自であるが、小学生位から海外に対して漠然とした憧れをもっていた。英語を習ったり、ガーナとスコットランドのペンパルと文通したりもしていたが、外国人との出会いは全く無かった。大学に入り、学生の貧乏旅行で海外を回ったことはあるが、長く滞在してもせいぜい1か月程度で、現地で生活をしたとは到底言えない。海外留学したいという憧れもあったが家庭の事情で断念した。しかし、それも自分が本気で願って行動に移していれば、叶ったのではないかと今となっては思う。若かりし頃の勇気のなさを後悔している私は、海の向こうに移住した日本人の行動力が心からうらやましく、またその生命力に憧れている。

2017年、勤務先の協会が設立35周年の記念誌を作成することになり、担当になった私は、過去の資料の中から日系ブラジル人を特集した新聞記事を見つけた(静岡新聞1995年1月3日)。「日伯国交100周年浜松に溶け込む」と見出しが付けられ、就労目的の“出稼ぎ”から、日本文化との接点を求める“定住者”として浜松の市民社会に溶け込もうとしている日系ブラジル人の素顔を紹介するところある。記事には、ブラジルと日本の二つの母国を持つ日系二世の両親と、日本語をある程度マスターし、日本で知り合った日系ブラジル人と結婚した日系三世の子供との間にある、将来の思いへのギャップが書かれていた。世代間の隔たりは今でも、そして大小どんな集団にもつきものだが、日系人の場合は日本と移住先の国で揺れるアイデンティティの違いもあり、親子であっても簡単に相容れない部分があることが記事からもわかる。記念誌作成のためにインタビューした日本育ちの日系ブラジル人の若者からも、アイデンティティの揺らぎに苦悩する様子が垣間見られた。移住家族が抱える最も難しい問題の一つではないかと思う。

また、記事はその他に「私たちと日本人は同じ顔をしている。日本語ができると仲良しくしてくれるが、話せない日系人は嫌われる(中略)」と日系二世の母の声を取り上げ、移民の歴史を知らない日本人の何気ない言葉が、相手の国民性を否定してしまうこと

2

にもなりかねない、と警鐘を鳴らしていた。確かに記事にもあるように、私たちの多くは日本人の移住の歴史を深く学ぶ機会がない。なぜ、浜松市に日系ブラジル人が多く住んでいるのか、日系人と呼ばれる人たちがどんな生活をしているのか、そしてどんな思いで日本を見つめているのか。一体どれくらい浜松市民が関心を持っているのだろうか。

私は、日系ブラジル人のことをもっと知りたい、多くの人も知ってもらいたいと思いい、セマンチーニャという日系ブラジル人のママさんグループに声をかけ、日本人によるブラジルへの移住、ブラジルでの生活、出稼ぎのための来日、日本での生活を演じる寸劇イベントを行っている。2019年に初演を行い、2021年には市内の中学校1校及び協会主催のグローバルフェアでも上演した。劇の脚本、演出は全てセマンチーニャ代表のクリスチーナさんが行い、衣装や小道具はメンバーによる手作りだ。私は裏方として、演技をするセマンチーニャメンバーのサポートの他、イベントの企画や資金集めなどを行なっている。劇は、4代にわたる日系人女性の人生を描いており、ポルトガル語で演じるクリスチーナさんと、日本語で演じるアンジェラさんが二人役で主人公を演じている。ここでもセマンチーニャメンバーらの家族の写真は大活躍で、劇の背景や、会場の入り口でのパネル展示で、多くの人の目に触れるようになっている。

劇は一貫して日本人の移住のあゆみを伝えている。私は、彼らが来日する理由は出稼ぎであり、お金を稼ぐ以外の目的は無いと以前は思っていたが、それだけではないことを劇で知った。彼らの多くがブラジルでの生活において、年長の家族や親戚から日本に関する話を聞いたり文化を受け継いでいることがわかった。また、ブラジル社会ではジャゴネス・ガランチード(信用できる日本人)とリスペクトされる日系人であることを誇りに思い、自分とつながりのある国である日本へいつか行ってみたいと憧れていたことを知った。たまたま、出稼ぎという形で来日する機会が目の前に現れ、祖父母から聞いていた「いつか日本に帰る」という思いを代わりに果たそうと思っていたことも知った。私は日系ブラジル人のことを何もわかっていなかったことを恥じた。多文化共生社会を構築する仕事をしている自分がこの程度の理解で、社会に多文化共生を求めることなどできるはずがない。

また、これが日系ブラジル人の魅力だと気づいたことがある。それは、登場人物の感情に、日本的なしっとりした繊細さと、ブラジルのなからった大胆さが必ず両方含まれているところである。例えば、来日する時の場面では、家族との惜別だけでなく、日本に対する夢と希望のワクワク感の両極が見事に演じられている。また、来日後には、ブラジルで聞いていた話と全然違う環境で働かなければいけなかった辛さが深刻に語られる一方で、日本のあちこちに自動販売機がある安全さに感激したり、トラックが後進する時の音声案内に感心したりする様子など、日本に対するネガティブな印象だけでなく、ポジティブな印象もセットで演出されている。悲劇がこれでもかと襲い、それに耐え忍ぶ中から感動を見つける物語をついつい期待してしまう私にとっては、このポジティブさに違和感を覚え、クリスチーナさんに真意を尋ねたことがある。クリスチーナさんは、大変なことだけを見せるのは私たちに良くない。辛いこともあるけど、

3

明るさやユーモアが私たちの側にはいつもあるんだよ。だから、それがいいのは逆に不自然なの」と言っていた。クリスチーナさんが劇のタイトルを「Brasil e Japão: uma história de união ブラジル×日本 融和のあゆみ」と名付けたように、日本とブラジルの間で、両国の特徴を見事に融合させた日系ブラジル人の気質が少し理解できた気がした瞬間だった。

1990年に入管法が改正され、日系三世とその家族の長期滞在が合法化されるようになって30年が経過する。当時と今を比べ、社会の多文化共生は進んでいるのだろうか。私はその片棒を担っているのだろうか。劇を見た中学生や観客の感想には「ブラジル人がブラジルにいる理由を初めて知った」「(移住した日本人がブラジルで言葉が通じず買物できない場面を見て)言葉が通じないのが大変だとわかった。ブラジル人に自分から話しかけてみたい」といった声が多くある。これらの感想は劇による気づきの効果とも言えるだろうが、裏を返せば、教室や職場に日系ブラジル人がいるのは知っているがただそれだけで、それ以上の情報も関心もないことであらわれと言えるのではないだろうか。また、中には、共生が一般化して争いごとが減ったという人もいいるが、本当にそうだろうか。ぶつからない代わりに交わることもなく、互いの間に溝ができてしまっていないだろうか。

先述の約30年前の新聞記事を見返しても、当時の社会の様子と今の様子の間に、残念ながら変化は感じられない。記事には、突如解雇され仕事が見つからなかったエピソードや、日本ではあくまで外国人扱いをされ日本人に与えられる保障は何もないといった制度上の問題などが書かれている。こうした制度の溝は30年間で少しずつ埋まってきたように思うが、心の溝はどうだろうか。争いを避けるために接触を求めず互いに関心を持たない共生社会を私たちは本当に望んでいるのだろうか。私はこの溝を埋め、友人である日系ブラジル人の魅力をもっと多くの日本人に理解してもらいたいと思っている。日本からブラジルへ渡り、ブラジルから日本へ帰ってきた彼らのあゆみを知ってほしい。二つの国の良いところもダメなところも見てきた彼らの経験に耳を傾けてほしい。まるで2つの人生を同時に生きているような日系人らが私たちに与えてくれる多様な視点に目を向けてほしい。なぜなら、私たちは共にまちをつくる一員なのだから。

バステウは私たち日系人のようにと同僚は言った。どちらからも異端のように思われていると感じ、心を痛めているのだろうか。どこが発祥の料理だとしてもバステウは美味しいし、私は大好きだ。そのことを同僚に伝えに行こう。バステウを食べたことのない日本人の友人にも食べさせてあげよう。私の思う多文化共生がこれから始まる。

出典
内山夕輝(2022)「バステウは日系人？」『第三回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」授賞作品』JICA 横浜 海外移住資料館

4

資料 2

海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 10 (資料2)

「日本社会で活躍する日系ブラジル人」ワークシート

()年()組()番 氏名()

問1. 展示映像「増子利栄さんのインタビュー」を鑑賞し、①来日した理由、②日本社会の変化、③二つの故郷への恩返しについてまとまらう。

①増子さんが来日した理由

②増子さんが感じる日本社会の変化

③増子さんが考える二つの故郷への恩返し

問2. 展示映像「増子利栄さんのインタビュー」および「増子利栄さんのライフヒストリー」(資料3)から、増子さんの日系ブラジル人として生きる姿に、あなたはどのようなことを感じましたか。

問3. 日本で活躍する日系人の視点から、もう一度、館内を見学し関連する展示物を探し、その①展示物名、②展示物の簡潔な解説、③展示物と日本で活躍する日系人との関連性についてまとまらう。

①展示物名	
②展示物の解説	
③関連性	

資料 3

海外移住資料館『学習活動の手引き』活動10 (資料3)

増子利栄さんのライフヒストリー

ブラジルでの生活

ブラジルでは増子さん一家はどんな家庭だったんですか？

私の父は日本人で、独身でブラジルに行き、コーヒー農園をやっていました。母はブラジル生まれの日本人。両親はブラジルで出会って結婚しました。私はブラジル生まれで、日本に届けを出さなかったから日本国籍は無いんです。届けたら日本人になっていましたね。ブラジルは二重国籍を認めるから、ブラジルで生まれて、日本に届けると二重国籍になっちゃうの。

兄弟は七人です。全員日本語が話せます。家の中では日本語で、ポルトガル語は絶対話してはいかなくて言われていました。そのくらい厳しかった。でも、現地の学校に通っていたし、外へ出るとほとんどポルトガル語でしょ。日本語は、あんまり使わなかったね。家の中とか日本人会館とか、そういうときしか使わない。だからポルトガル語がどんどんうまくなっていきました。

来日

日本に来たのはいつでしたか？

日本に来たのは1988年5月11日です。当時、日本に来るのはなかなか大変でした。領事館で2千ドル積み立てないとダメなんです。それと、私は商売をやっていたから、「決算書も持って来い」って言われました。それまでちゃんと真面目に働いてたし、お金も持っていたので、私はその厳しい条件の中で来ることができました。

最初は日本がどんな状況からよって勉強しに来たんです。ところがそうこうするうちに1990年以降、たくさんブラジル人が日本に来ましたよね。90、91年は、毎日毎日、日本に来ていました。その様子を見て日本の中でもなかなか商売できるんじゃないかと思って、今の商売を始めました。

家族はいつ頃来日されたんですか？

私の妻は日系人なんですけど、最近来ました。何回も妻を連れに行っただけど、「ブラジルがいいから行かない」って言われてたの。子どもは10数年前に来ました。

日本で一番苦労したことはなんですか？

今でも忘れないけど、リーマン・ショックのときですね。私は商品を移動販売やレストランなど約500店舗に卸していました。でもリーマン・ショックになって、倒産が相次ぎました。みんな銀行からお金を借りていて、返せなくなったり、逃げたりした人もいました。私もそうだったから、そのときは逃げたかったですよ。でも家族のこととか、お客さんのこととか、責任があるし、いろいろ考えたら逃げるわけにはいかない。正直言って、もうみんな放ったらかしてブラジルに帰りたいと思っていました。でも、そういうことしたら、どうせブラジルに行ったらうまくいかないんですよ。

被災地へ肉1トン

2011年の東日本大震災のあと、被災地支援に行かれたんですね。福島県は増子さんのお父様のふるさとそうですね。

そうそう。福島県の「ビッグパレットふくしま」っていう大きな施設に行きました。郡山市の中で一番大きな施設だったよ。日本人がほとんどで、外国人もいたけど、少なかった。私のいところから、炊き出しは来るんだけど、あんまりたくさんは来ないんだったって聞いたんですよ。市の職員がおにぎりやパンを配ってくれるんだけど、温かいものが全然ないみたいで。郡山市は爆発した福島第2原発から50キロメートル圏内の地点だからみんな怖くて、他の所から支援に来て来てしまっただって。みんな気仙沼とかの方に行っちゃって、郡山市には来ないから困ってるって。だから私はあえてそこを選んだんですよ。親父のふるさとである福島を。お肉を1トン持って行きました。でも一日でなくなっちゃったよ。

日本への恩返し

そのときは、何人ぐらいで支援活動をしたんですか？

浜松から出発したのは9人くらいかな。100人くらいに声をかけて、「行く行く」って返事ももらっていたんだけど、向こうに行ってみると、誰も来ないの。私、みんなのためにTシャツ100枚作ったんだけどね。だから現地でみんなに電話かけて、声かけて、したら51人になりました。原発事故があったばかりだし、みんな「放射能にやられたくない」って怖がってたから、「ここは安全なことだよ」って伝えました。そこには1週間いたよ。最後の日なんかもう、ほんと疲れちゃって、気疲れっていうのかな。みんな、テントで寝たりして、寝るとこもなかったから、良く寝られなかったしね。集まった51人はほとんどブラジル人。日本人は2、3人かな。バスで名古屋から30人来てくれました。(中略)夜はみんな集まって反省会もやりました。「もつとできることないか」って。私たちが来てても、やることないじゃないかと。だから音楽隊を連れてきようとか、マッサージをしようとか。そういうことをみんなで決めました。それで音楽する人を連れてきたんだけど、こんなにみんなが悲しんでるところにサンパなんでもダメだと言われたんですね。結局、施設の中ではできなかったから、道路のすみっこでやりました。結構な人が集まってきて、みんな笑顔になったよ。やっぱ、みんなね、最初は暗〜い顔してたんですよ。でも笑顔になってきて、おばちゃんも若い子も踊ってくれました。ものすごい良かったよ。その中でおばちゃんが涙流しながらいろいろ話してくれるんだよね。「自分も死ねばよかった」って、そういう悲しいこともいっぱい聞いてきました。被災地での活動が終わると、あちこちから要望があったね、でも肉がないから注文して宅急便で送ってもらうようにして、あちこち行きました。最後は石巻。もう肉が無いから、石巻では、家の中の泥を片付けに行きました。マスクしてスコップで泥を全部袋に入れてっていうそういう仕事。大勢で泥を全部取り除いて、やっと一軒きれいにできました。

なぜそんなに一生懸命支援することができたんですか？

日本への恩返しです。私たちがみんなブラジルで困っていたときに、日本の政府が私たちに仕事を与えてくれたんですね。ブラジル人に仕事を与え、家を与え、それでブラジル人はお金をたくさん稼いだ。それでブラジルに帰って、マイホームとか新車を買って、みんな幸せになっているんですね。だから日本が困ったときに恩返しするの。私はいろんなことを経験してきたけど、人生で初めて被災地に行きました。本当にびっくりしちゃってね。こんなことが世の中にあるんだろかって思った。私は何をしてもいいかわらなくなった。7日間、一所懸命頑張ったけど、最後の帰る日になって私は倒れちゃったの。疲れがいつべんにきちゃってね。その後、2日3日寝込んだ。でも、本当に行くと良かったと思います。

出典

公益財団法人 浜松国際交流協会(2018)『語り継ぐ浜松—このまちで暮らして No.1 増子利栄—』『世界のひとと暮らして—浜松国際交流協会 35年のあゆみ』73-78頁

資料 4



「JICA 横浜 海外移住資料館 (2023年3～9月) 展示 増子・ジョアン・利栄さんご逝去」

現場! ブラジル人全国最多の街 ハママツで生きる 1. 大規模なイベントを市内で開催... 2. 約5万人を集めたイベント... 3. 約2万人を集めたイベント... 4. 約1万人を集めたイベント...

「朝日新聞 (2023年2月20日)」



カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」

Key words 和歌山、スティーブストン、サケ漁、バンクーバー・朝日軍

1 活用する主な展示および資料

- 展示「サケ漁」
- 展示「バンクーバー・朝日軍」
- 展示資料「戦時中の日系人に対する処分に関するカナダ首相の合意書」など



(提供：テッド・Y・フルモト)

2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科（歴史的分野）
- 高等学校地理歴史科（歴史総合）
- 総合的な学習（探究）の時間
- 全5時間程度（事前1時間、見学2時間、事後1～2時間）



3 目標

- 日本人が海を渡りカナダに移住した史実、彼らとその子孫がカナダにおいてどのような歴史的経験をし、現在に至るまでどのような独自の文化や価値観を形成してきたのか理解することができる。【知識・技能】
- カナダに渡った日本人の歴史的経験からカナダ日本人移民・日系人の活躍と、戦争中の権利の侵害に対し市民権を回復したカナダ日本人移民・日系人の正義について考察し、表現している。【思考・判断・表現】
- 和歌山県をはじめ日本各地からカナダへ渡った日本人について、カナダ日本人移民・日系人に関連する諸展示資料から主体的に史実をつかまようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

近年では、カナダのバンクーバーで活動していた日系二世を中心とした野球チーム「バンクーバー朝日」が小説・映画化・漫画化されている。カナダの日本人移民・日系人の歴史的体験は、生徒が「移民」について学ぶ上で有益である。本単元は、中学校社会科（歴史的分野）および高等学校地理歴史科（歴史総合）における近現代史の学習、または、総合的な学習（探究）の時間における「日本人移民」や「多文化共生」をテーマとした学びを想定し設定した。本単元ではカナダを取り上げカナダに渡った日本人の史実や歴史的経験から、生徒たちが「活躍」と「正義」の視点から学びを深める活動案を提示する。1877年に長崎県出身の永野万蔵がイギリス船でプリティッシュ・コロンビアへ上陸し、カナダ日系社会では永野に敬意を表して1877年をカナダの日本人移民の始まりとしている。その後、永野の上陸を契機に20世紀初頭にかけて多くの人々が移住している。ただしカナダへの移住は国が支援した渡航ではなかった。また、三尾村（現和歌山県日高郡美浜町三尾）出身の工野儀兵衛は「カナダ移民の父」として著名であり、工野の働きかけで多くの和歌山県民がカナダへ移住した。日本人移民の多くは、漁業や製材業、炭鉱業などに従事した。第二次世界大戦が始まると、多くの日本人・日系人が収容所での生活を余儀なくされた。戦後は、戦争中の権利侵害に対する歴史的不正義を正す運動により、カナダ政府に過去の不正を認めさせ「リドレス合意」を取りつけた。カナダ日本人移民・日系人が乗り越えた苦悩や苦労から、彼らの「活躍」と「正義」について考える手掛かりとしたい。

5 展開計画

*事前学習～事後学習を進めるにあたり、ワークシート(資料1)のご活用をお勧めします。

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【“すてぶすとん”（スティーブストン）と和歌山の人々】</p> <p>1. バス停標識「アメリカ村」から多くの和歌山県出身者がカナダへ移住した事実を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アメリカと三尾村につながりがある。 ● 三尾村からカナダへ移住したことを初めて知った。 <p>2. カナダでの日本人移民の生活についてつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 和歌山県民の多くがサケ漁師として働いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● バス停「アメリカ村」の写真（資料2）を提示する。 ● 『工野儀兵衛ものがたり』の読み聞かせを行う。 ● 「カナダと和歌山移民」（資料3）から、カナダでの日本人移民の生活について考察させる。
資料館見学	<p>【カナダ日本人移民の活躍と正義】</p> <p>1. 日本人移民がサケ漁や缶詰工場で働き、故郷へ送金していたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本人は勤勉でサケ漁や缶詰工場で働き、日本へ送金していた。 ● 日本人は過酷な環境下で働き資産を築いた。 ● 工野儀兵衛は故郷である三尾村に大きく貢献した。 <p>2. バンクーバー朝日軍が日本人移民・日系人に与えた勇気について推察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 朝日軍の活躍は人種差別や日本人排斥運動に苦しむ日本人移民に勇気を与えた。 ● 彼らの活躍が日系社会に熱狂をもたらした。 ● バンクーバー朝日軍の活躍は、人種の壁を超えて称賛された。 <p>3. 戦争中の権利の侵害に対し、カナダ日本人移民・日系人はどのように正義を勝ち得たのか考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 強制収容・財産没収に対して訴訟を起こして闘った。 ● カナダの市民権を回復した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示「サケ漁」など、カナダ移民に関する展示の鑑賞および「故郷への送金」（資料4）から、当時の人々の生活や苦悩を捉えられるようにする。 ● 和歌山県出身者の日本人移民の俗言（資料5）から、彼らがサケ漁に就いた背景を考えさせる。 ● 展示「バンクーバー・朝日軍」を鑑賞し、朝日軍が人々に与えた勇気と活躍を看取させる。 ● 展示資料「カナダ首相の合意書」の鑑賞および『海外移住資料館だより』No.40から、強制収容と財産の没収、補償のための闘いなどについて考察させる。
事後学習	<p>【カナダ日本人移民・日系人がつないだ未来】</p> <p>1. カナダへ渡った日本人の活躍と正義を探究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒各自の興味関心に基づき調べ学習を行う。 <p>2. カナダ日本人移民・日系人がつないだ未来、私たちがつなぐ未来について考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的経験を語り継ぐことが重要。 ● 歴史的不正義と闘い、正義を勝ち取る大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ● カナダの日本人移民や日系人に関する資料を収集し、史実と自己の考察を区別してまとめるよう促す。 ● 時間設定に余裕がある場合は、『バンクーバーの朝日』（2015）のDVDを鑑賞させる。

6 学習後の姿

本単元を通し、カナダ日本人移民・日系人の生活や第二次世界大戦による強制収容や財産没収、戦後の補償のための闘いにおける苦悩や苦悩の克服から、彼らの「活躍」と「正義」について探究する態度を育みたい。

7 授業づくりのための参考資料

- JICA 横浜 海外移住資料館（2015）『海外移住資料館だより』No.40
- 柳本文弥（文）、えんどうひとみ（絵）（2020）『工野儀兵衛ものがたり』NPO法人日ノ岬・アメリカ村

資料 1

海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 11 (資料1)

カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」 ワークシート

()年()組()番 氏名()

事前学習

問1. 和歌山県日高郡美浜町三尾のバス停に「アメリカ村」という標識があるのはなぜでしょうか。

問2. 「カナダと和歌山移民」(資料3)から、カナダでの日本人移民の生活についてまとめてみましょう。

資料館見学

問3. 展示「サケ漁」など、カナダ日本人移民に関する展示や「故郷への送金」(資料4)から、当時の人々の生活や苦悩を読み取ってみましょう。

問4. 展示「バンクーバー・朝日軍」から朝日軍が人々に与えた勇気を考えましょう。

問5. 戦争中の権利の侵害に対し、カナダ日本人移民・日系人はどのようにして正義を勝ち取ったのかまとめてみましょう。

事後学習

◆ 各自が興味をもったカナダの日本人や日系人について、資料を収集・整理・分析し、まとめてみましょう。

問6. これまでカナダの日本人移民や日系人がつないだ未来を、私たちが未来につないでいくために大切なことは何だと思いますか。自分なりの意見を書いてみましょう。

資料 2



(撮影：中澤純一)

資料 5

江州ソーミル、熊本ヤマ、死ぬよりましかなヘレン獲り

この俗言は、第二次世界大戦前のカナダにおける日本人の就業構造を表現している。滋賀県(近江)出身者は製材所(ソーミル)に勤めることが多く、そこで運搬される木材を提供するために山奥で伐木業や鋳業に従事するのは熊本県出身者が多かった。慣れない機械操作、倒木や落盤などによって命を落とすかもしれないなら、ニシン(ヘリング)漁やサケ漁に就く方がよい、と和歌山県出身者たちが揶揄したものを俗言として表した。

* 俗言…世間で日常的に使う言葉のこと。卑俗な言葉のこと。

【引用文献】

河原典史(2017)「43 初期の日本人移民－江州ソーミル、熊本ヤマ、死ぬよりましかなヘレン獲り－」
細川道久編『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、300頁



資料 3

海外移住資料館『学習活動の手引き』カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」 (資料3)
カナダと和歌山移民

カナダへの移住については、三尾村(現日高郡美浜町三尾)出身の工野儀兵衛がよく知られており、「カナダ移民の父」と呼ばれています。工野は1888(明治21)年カナダへ先がけとして渡り、フレーザ一河のサケ漁の将来性に目をつけ、同村から大勢の人を呼び寄せました。そのサケ漁の中心地であるブリティッシュ・コロンビア(BC)州ステューブストンには、1900(明治33)年150人の会員からなる加奈陀三尾村人会が設立され、1936(昭和11)年には763人に達しました。

当時のBC州漁業の6~7割は和歌山人によって営まれ、その中心を担っていたのが三尾村出身者でした。「連れもて行こう(いっしょに行こう)の合言葉が流行したのも同村でした。こうした人々からの送金や帰国した人々により、三尾村には西洋風の家屋が建てられ、洋風の生活を営んだ人が多かったことから、「アメリカ村」と呼ばれるようになりました。アメリカとはアメリカ大陸のことを指し、実際にアメリカ・カナダ間を往來することも多かったようです。美浜町には1978(昭和53)年、アメリカ村カナダ移民資料館が設立



地図「ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーとステューブストン」

●カナダの三尾村人会

三尾村を中心とした和歌山移民は、ステューブストンで村人会や青年会を作りました。そして、相撲や野球などの文化活動もさかんに行われていました。

●サケ漁への貢献とステューブストン港

港町ステューブストンには、現在でも和歌山をはじめとした日本人移民の歴史を紹介する場所が少なくありません。ステューブストン港のすぐ近くには、和歌山人渡加百周年記念碑が立つ工野庭園や、船大工として活躍した日本人の造船所跡を示す解説パネルなどが設置されています。また、現在では博物館となっているかつての缶詰工場では、サケ漁に関わった日本人移民の歴史に関する展示も見るすることができます。



ステューブストン港(撮影:中澤純一)



当時は日系人もたくさんいた缶詰工場(撮影:中澤純一)

●バンクーバーの日本町とパウエル街

ステューブストンから20キロほど離れた都市バンクーバーには、戦前パウエル街を中心に日本人町がありました。その中心となっていたのが、オッペンハイマー公園(パウエルグランド)で、日本人の野球チーム「朝日軍」が拠点として活動していました。ステューブストン在住の日本人の中にも、このパウエルグランドでの野球観戦を楽しみにしていた人が大勢いました。



バンクーバー朝日軍(提供:テッド・Y・フルモト)

この公園では、現在でも毎年8月、カナダ各地から日系人が集い、パウエル祭という日系人のイベントを行っています。

参考資料

JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示(2015)「連れもて行こう 紀州から!—世界にひろがる和歌山移民—」

資料 4

海外移住資料館『学習活動の手引き』カナダに渡った日本人の「活躍」と「正義」 (資料4)
故郷への送金

●故郷への送金(表1参照)

和歌山移民は、移住先で稼いだお金の多くを故郷に送金していました。故郷で待つ家族や親せきへはもちろん、出身村の学校や寺、神社などへも多くの送金が行われており、村の暮らし全体を支えていました。和歌山移民からの送金額は、大正末期まで、全国第一位を占めていたと言われています。

●今も残る移民の想い

美浜町からカナダに渡った工野儀兵衛。日清戦争の軍費献金をバンクーバー日本領事館を通じて贈ったり、小学校の建築費を故郷の三尾村へ送金したりしていました。儀兵衛と同郷の移民たちにより組織された加奈陀三尾村人会もまた、故郷へ多くの送金を行っており、村の小学校や寺、神社の改築費などの多くは、故郷を想う移民からの寄付により賄われていました。



龍王神社に残る海外からの寄進者の名前(撮影:中澤純一)

●地域に見る和歌山移民の特色(図1参照)

変化に富んだ地形と地域による文化の違いを持つ和歌山県。そこから海外へ出た移民もそれぞれ地域による特色があります。

表1

国・地域	送金者数	送金額
アメリカ合衆国	2,738人	4,570,146円
カナダ	559人	499,810円
メキシコ	46人	18,601円
ペルー	27人	7,626円
ブラジル	116人	29,005円
ハワイ	198人	94,230円
オーストラリア	1,059人	515,196円
フィリピン	109人	58,361円
インド	48人	32,519円
シンガポール	45人	57,822円
チリ	2人	380円
東インド	10人	8,980円
キューバ	15人	3,780円
中国	75人	9,083円
ジャワ(インドネシア)	16人	6,948円
フィジー	11人	8,870円
樺太	8人	3,116円
ポルネオ	2人	820円
合計	5,084人	6,925,292円

出典:「和歌山県移民史」(和歌山県、1957年発行)

図1



●紀中

県の西側に位置する日高郡美浜町の小さな漁村三尾村からは、多くの人々がカナダへ移住しました。険しい山々が海に迫り、岩石海岸を形成する地形は、漁業基地として決して恵まれていたわけではありません。また、外海に面した立地は、自然災害の影響を受けやすく、台風被害にも頻りにあっていた。それでも漁業は盛んに行われていたが、江戸末期から明治にかけての周辺地域との漁場争いにより、三尾村の漁業は衰退していききました。

このような村に転機をもたらした人物が、三尾村出身の工野儀兵衛でした。1888(明治21)年、工野はカナダへ単身渡航し、バンクーバーの南方にあるフレーザ一河にひしめくサケの大群をみて驚き、「フレーザ一河にサケが湧く」と故郷に手紙を書き、親せきや友人を呼び寄せました。そして、毎年十数人以上がカナダへ渡り、1940年頃には三尾村からカナダへの移民は2,000人を超えていました。

美浜町 工野儀兵衛(カナダ)旧日高郡美浜町三尾村出身 1854—1917

1888(明治21)年、横浜を出航しバンクーバーに到着。儀兵衛の呼び寄せに始まる三尾村のカナダ移民は、「加奈陀三尾村人会」を作りました。お金を稼いで帰国した人々は故郷に洋館を建て、西洋の生活様式を持ち帰ったので、三尾村は「アメリカ村」と呼ばれるようになり、村の経済や文化に大きな影響を与え、周辺町村や他府県でのカナダ移民の呼び水となりました。カナダ太平洋岸のサケ漁業の発展への貢献から、1931(昭和6)年には郷里に顕彰碑が建立されています。また1989(平成元)年にはカナダ和歌山人会によりステューブストンのフレーザ河畔に「工野庭園」が造られ、リッチモンド市に寄贈されています。



工野儀兵衛 美浜町教育委員会「美浜町史」より転載

御坊市 花月栄治(カナダ)旧日高郡湯川村出身 1883—1967

1906(明治39)年、林業を志しバンクーバーに渡り、1923(大正12)年、バンクーバー島のファニー・ベイに山林を購入。ファニー・ベイ木材会社を設立し、山林から海岸へと木材を搬出するための鉄道を敷設しました。業界初と言われる鉄道による搬出と日本への材木輸出により、カナダ林業界の先駆者と称えられ、カナダ政府からも絶大な信頼を得ました。日本人会会長、商工会議所会頭、仏教会長などを歴任し、カナダの日系社会にも大きな貢献を果たしました。

みなべ町 松原安太郎(ブラジル)旧日高郡岩代村出身 1892—1961

1918(大正7)年、ブラジルへ渡り、コーヒー栽培と牧畜に従事。その後、サンパウロ州マリリアで3,200ヘクタール(東京ディズニーランドの約63倍)の大農場主となります。

松原は選挙資金の協力などで親交のあった当時の大統領ジェツリ・オヴアルガスの協力により、1952(昭和27)年、中部ブラジル4か所(マツト・グロソ州、ミナス・ジェライス州、バイア州、マラニオン州)に8年計画で4,000戸、2万人の日本人移民入植計画(いわゆる「松原計画」)の承認を得ました。

和歌山県では、これに呼応し1953(昭和28)年3月に全国で初となる移民寮を設置します。同年7月には県内で大規模な水害が発生し、県民の生活に大打撃を与えたことから、海外移住をさらに推進していききました。

出典:JICA 横浜 海外移住資料館 企画展示(2015)「連れもて行こう 紀州から!—世界にひろがる和歌山移民—」



左から松原安太郎とオヴアルガス大統領 国立国会図書館デジタルコレクション「電子展示会」ブラジル移民の100年より転載



交差する日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史

Key words プランテーション、グローバル・ヒストリー、国際関係の多核化

1 活用する主な展示および資料

- ハワイの「プランテーション」に関する展示および資料
- アメリカ合衆国の日本人移民の歴史に関する展示および資料
- 日本人移民がハワイに渡った時代の日本・アメリカ合衆国・ハワイの年表

2 教科・領域との関連性および総時間数

- 高等学校地理歴史科（歴史総合）
- 全4時間（事前1時間、見学2時間、事後1時間）

3 目標

- 日本人移民がハワイに渡ってからの日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史を年表から理解し、グローバルな視野で歴史を捉え、解釈するための情報を調べ、まとめようとしている。【知識・技能】
- 19世紀のハワイにおける「プランテーション」などを事例に日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史が交差するポイントを見つけ、今とのつながりを表現している。【思考・判断・表現】
- 日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史の関係性を考え、今とのつながりを主体的に追究し、多角的・多面的に考察することで、相互の文化を尊重しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【教材観】日本人移民がハワイに渡ってからの日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史年表（19～20世紀）を採用する。同時代において関係する国・地域の歴史年表を比較分析することで、歴史を時間認識だけでなく、空間認識を意識したグローバル・ヒストリーの観点から学習活動を進めることができる。グローバル・ヒストリーの視点は、これからの社会の捉え方を養成し、国同士の関係性から歴史の探究ができる契機となる。このことは、従来の通史的な歴史理解を問い直すことにつながる。

【単元設定の理由】「日本・アメリカ合衆国・ハワイの関係性を意識した歴史」を中心に単元設計する。時間軸と空間軸が交差するポイントにある歴史に気づき、生徒一人ひとりの考える関係性を引き出すことをねらいとする。また、移民という「人」に着目することも重視する。成田喜一郎（2023）は「人間史（じんかんし）」を「特定の歴史上の人物史・個人史ではなく、現在と過去、現在と未来、未来と過去など『時間』との対話により紡ぎ出される、人と人との『あいだ（間／愛だ）』の歴史である。その人とは、その時代・時間に生きた人たちと今ここにいる人、私たちのことでもある」としている。これら時間・空間・人間（じんかん）の交差する歴史の探究は、事実認識と想像力をつなぐ契機ともなる。

【資料館活用の視点】関係する国・地域同士の歴史の関係性を時間・空間の側面から着目することに加えて、移民の個人史を通して「人間（じんかん）」の側面からも歴史を認識できるように促す。



5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【単元を通して考え続ける問い】関係する国同士から「歴史」を捉えることは、これまでに考えていた歴史とどのような点が異なるのだろうか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Okage Sama De（おかげさまで）」に込められた想い 問. あなたは、「Okage Sama De（おかげさまで）」という言葉から何をイメージしますか。 ●「感謝」「先祖への想い」「日本人らしさ」など 2. 19～20世紀の日本・アメリカ合衆国・ハワイ年表分析 問. 1868年には、各国では何が起きていましたか。 ●日本：王政復古の号令→明治維新へ ●アメリカ合衆国：憲法修正第14条発効→黒人市民権付与 ●ハワイ：日本人150人余（元年者）が出発 3. 高校講座「歴史総合」第9回の視聴 ●「アメリカ料理のルーツ」「大量生産のアメリカ」「プレートランチと移民」「日本人移民とハワイ」 	<ul style="list-style-type: none"> ●知っているか知らないかではなく、何を感じたのかを大切にできるように配慮する。 ●問いによって年表分析をする。 ●問いによって映像資料読解を促す。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年号・人物・出来事を意識して、探究してみる！ ●ハワイのプランテーション：「官約移民」「サトウキビ」「契約労働者」「ミックスプレート」「写真花嫁」など 2. 19～20世紀の「歴史」の中で、日本・アメリカ合衆国・ハワイが関係しているものを見つけてみよう！ ●「第二次世界大戦」：「真珠湾攻撃」「442連隊」「第100大隊」「ポツダム宣言」「ダニエル・K・イノウエ」など 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示見学をすることで、生徒一人ひとりが、自分の視点から「歴史」の交差点を探究し、自らの歴史観と対話できるようにする。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「歴史キャッチフレーズ」をつくろう！：自分が調査した情報をもとにして、「歴史的事実」をキャッチフレーズで表現し、そのキャッチフレーズの解説を作成する。グローバル・ヒストリーの視点から「歴史」を物語ってみよう。 ●例：「大量生産にともなう移りゆく民をめぐる送り出し国と受け入れ国のせめぎあい」 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人ひとりが「歴史」を紡げるように「問い」を共有する。 ●展示から得た情報を根拠にするように促す。

6 学習後の姿

移民をテーマとした歴史を捉えることによって、為政者・権力者中心の通史的な理解にとどまらない時間・空間・人間（じんかん）など多角的・多面的な側面からの歴史認識を可能とする。19～20世紀の日本・アメリカ合衆国・ハワイという長いスパンで関係があった国・地域の歴史を大観しながら、生徒一人ひとりの視点からつながりを見つけることで、歴史観を問い直している。このプロセスを「歴史キャッチフレーズ」というかたちで表現することで伝え合い、聴き合うことができている。

7 授業づくりのための参考資料

- 成田喜一郎（2023）『「人間史（じんかんし）」とは何か？』越えるまなくらへの旅：学びと暮らしと仕事 (genkaikyokaiekyo.blogspot.com)
- JICA 横浜 海外移住資料館（2017）『海外移住資料館だより』No.46
- NHK 高校講座「歴史総合」第9回ソ連の登場とアメリカの繁栄（2022年放送）

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 12

「交差する日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史」ワークシート

()年()組()番 氏名()

【単元を通して考え続ける問い】
 ◎関係する国同士から「歴史」を捉えることは、これまでに考えていた歴史とどのような点が異なるのでしょうか？

【事前学習(1時間目)】

問. あなたは、「Okage Sama De(おかげさまで)」という言葉から何をイメージしますか。

<19～20 世紀の日本・アメリカ合衆国・ハワイ年表分析>
 問. 1868 年には、各国では何が起こっていましたか。

日本	
アメリカ合衆国	
ハワイ	

<NHK 高校講座「歴史総合」第9回ノ連の登場とアメリカの繁栄の視聴>
 問. 映像資料からキーワードをピックアップすると当時のアメリカ合衆国は、どのような特徴がありますか。

【海外移住資料館でのワークショップ】

○展示を見学して記録しましょう。

【事前学習から選んだテーマ(三つの国・地域が交差する年号や出来事)】

【見学コーナー1(日本関係)】

【見学コーナー2(アメリカ合衆国関係)】

【見学コーナー3(ハワイ関係)】

【歴史キャッチフレーズ】

◎自分が調査した情報をもとにして、「歴史的事実」をキャッチフレーズで表現し、そのキャッチフレーズの解説を作成しましょう。

<キャッチフレーズ>

<解説>

資料年表

JICA 横浜 海外移住資料館 学習活動のための年表「交差する日本・アメリカ合衆国・ハワイの歴史」

年号	日本	アメリカ合衆国	ハワイ
1868	戊辰戦争 / 王政復古の大号令 / 五箇条の誓文 / 一世一元の制 / 神仏分離令	憲法修正第 14 条発効→黒人市民権付与	アメリカ人ヴァン・リードが居留地神奈川(横浜)で集めた日本人 150 人余(元年者)を維新政府の許可なしにサンドウィッチ島(ハワイ)へ出発させる
1869	東京遷都 / 版籍奉還 / 箱館五稜郭の戦い		初の大陸横断鉄道開通
1879	琉球藩を廃し、沖縄県設置(琉球処分)		
1884	制度取調局設置 / 華族令公布 / 甲申事変 / 秩父事件 / 脱亜論		
1885	内閣制度 / 天津条約		1月28日 第一回「ハワイ官約移民」945人が横浜を出発
1886			日本とハワイ王国政府が「移民渡航協約」を締結
1889	大日本帝国憲法発布 / 皇室典範 / 衆議院議員選挙法公布	第 1 回バン＝アメリカ会議	
1890	第一回衆議院議員総選挙 / 第一回帝国議会議 / 教育勅語発布	シャーマン反トラスト法制定	
1893		合衆国連邦議会が「移民法」を制定し連邦政府移民局設置	ハワイ王国で革命が勃発し 2 月にハワイ王朝が崩壊
1894	甲午農民戦争 / 日清戦争勃発 / 日英通商航海条約 / 領事裁判権喪失		「官約移民」のハワイ渡航が終わり、「私約」移民の渡航がはじまる
1895	下関条約		
1896			日本で「移民保護法」※が施行される※移民保護法：移民を守る目的で、移民の取り扱いを制度化した
1897	フランス・ロシア・ドイツの三国干渉 / 八幡製鉄所設立		
1898		アメリカ＝スペイン戦争 / ハワイ併合	アメリカ合衆国がハワイを併合
1899		中国の門戸開放を要求	ホノルルのチャイナ・タウンで「黒死病騒動」が発生
1900	立憲政友会 / 治安警察法 / 義和団事件 / 北清事変		ハワイ行き旅券を所持する日本人労働者のアメリカ西海岸への転航がはじまり、その数が年々増加する
1902	社会民主党結成 / 日英同盟調印 / 『万朝報』主戦論へ		
1903	第一次日韓協約(日本政府の推薦する財政・外交顧問の採用を認める) / 八幡製鉄所操業開始 / 田中正造、天皇への遺訴		
1904	日露戦争勃発		
1905	ポーツマス条約 / 第二次日韓協約(保護国化、外交権を奪う、漢城に統監府設置) / 日海海戦 / 日比谷焼き討ち事件	サンフランシスコ「クロニクル」紙が方針を改め日本人排斥を表明 / サンフランシスコに東洋人排斥同盟が設立される	
1906	伊藤博文が統監府初代統監となる / 第三次日韓協約(内政権接収・韓国軍隊解散) / 南満州鉄道株式会社(大連) / 関東都督府(旅順)設置	サンフランシスコ市教育局が日本人児童の清国人学童隔離学校への転学を命じる決議を採択し、即時実施をはかり「日本人学童隔離騒動」に進展	
1907	鉄道国有法 / 日本社会党結成 / ハーグ密使事件	セオドア・ローズヴェルト大統領は「紳士協約」に基づき大統領行政命令を発し、日本人労働者のハワイから合衆国本土への転航を禁止	
1909	安重根が伊藤博文を暗殺 / 地方改良運動 / 自由劇場設立		
1910	大逆事件 / 日韓併合 / 朝鮮総督府設置(総督：寺内正毅)	メキシコ革命(～17)	
1911	日米通商航海条約の改正(関税自主権の完全回復) / 辛亥革命		
1912	明治天皇没(61歳) / 『大正』と改元 / 中華民国成立(孫文)		
1914	ゾーメンス事件 / 第一次世界大戦勃発		パナマ運河完成(1904～)
1915	対華二十一か条の要求(袁世凱政権)		
1917	西原借款(段祺瑞政権) / 石井・ランシング協定 / 第一次世界大戦終結 / 金輸出禁止 / ロシア革命 / 理化学研究所設立		米、第一次世界大戦に参加
1918	シベリア出兵 / 富山県から米騒動 / 大戦景気 / ドイツ革命		ウィルソンの十四カ条
1920	パリ講和会議・ヴェルサイユ条約 / 3.1 独立運動 / 5.4 運動弾圧 / 国際連盟(常任理事国となる、新渡戸稲造事務局長となる)		
1921	ワシントン会議(～22) / 四か国条約		
1922	九か国条約 / ワシントン海軍軍縮条約 / シベリア撤兵		
1923	戒厳令 / 震災手形損失補償令 / 関東大震災 / 震災恐慌		
1925	治安維持法・普通選挙法 / シベリア完全撤兵 / 日ソ基本条約	移民法成立	
1926	大正天皇没(48歳) / 『昭和』と改元 / 『キング』創刊		
1928	普通選挙実施 / 三・一五事件 / 張作霖爆殺事件 / 不戦条約		
1929			ニューヨーク市場の株価暴落、世界恐慌へ波及
1930	金輸出解禁 / ロンドン条約調印		
1931	柳条湖事件：満州事変 / 金輸出再禁止		
1932	上海事変 / 血盟団事件 / 満州国建国宣言 / 五・一五事件		
1933	国際連盟脱退通告 / 塘沽停戦協定	F.ローズヴェルト大統領就任(～45) / ニューディール開始	
1934	満州国帝政実施		
1935	天皇機関説、問題となる / 国体明徴声明	ワグナー法制定	
1936	二・二六事件 / 日独防共協定		
1937	盧溝橋事件：日中戦争 / 日独伊防共協定		
1939	日米通商航海条約廃棄通告 / 独ソ不可侵条約 / 第二次世界大戦		
1940	北部仏印進駐 / 日独伊三国同盟成立 / 大政翼賛会		
1941	独ソ中立条約締結 / 南部仏印進駐 / 国民学校令公布 / ハワイ真珠湾攻撃：太平洋戦争		日本海軍が真珠湾を攻撃し日米戦争がはじまる
1942	翼賛選挙 / ミッドウェー海戦		2月19日 ルーズベルト大統領が行政命令 9066 号に署名して強制立ち退き地域を明示しその地域から日本人を移動させる 権限を陸軍に与える 3月30日 公共の場所に軍事地域からの「民間人立ち退き命令」が公示され 11 万人に及ぶ日本人と家族の強制立ち退きがはじまる 8月ハワイで編成された二世部隊「第 100 大隊」がヨーロッパの戦場に向け出発し、北アフリカのオランに上陸後第 5 軍団の第 34 師団に編入される 9月 米英軍がイタリアの本土に上陸第 100 大隊の二世兵士はオランを出発してイタリアへ向かい翌年 6 月までの 9 ヶ月間イタリアの戦場で戦闘に参加
1943	ガダルカナル撤退 / 学徒出陣 / イタリア降伏 / カイロ会議 / サイパン島陥落 / 本土爆撃本格化		4月 米軍が沖縄に上陸 8月15日 日本政府はポツダム宣言を受諾
1945	東京大空襲 / アメリカ軍、沖縄本島占領 / 広島に原子爆弾 / ソ連参戦 / 長崎に原子爆弾 / ヤルタ会議 / ポツダム宣言受諾 / 降伏文書に調印 / 連合国軍の本土進駐 / 五大改革指令 / 財閥解体 / 農地改革指令 / 新選挙法(女性参政権) / 労働組合法 / 国際連合成立		
1946	天皇人間宣言 / 公職追放令 / 農地改革(一次・二次) / 金融緊急措置令 / 極東国際軍事裁判開始 / 日本国憲法公布		
1947	日本国憲法施行	トルーマン＝ドクトリン / マーシャル＝プラン	
1948	極東国際軍事裁判判決 / 経済安定九原則		
1949	北大西洋条約 / 中華人民共和国成立		
1950	警察予備隊新設 / レッドバージ / 朝鮮戦争(～53)		
1951	サンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約調印 / 社会党分裂		
1952	日米行政協定メーデー事件 IMF 加盟 / 保安隊設置	米大統領にアイゼンハワー(～61)	
1953	内灘基地反対闘争 / 奄美大島返還		
1954	日米 MSA 協定 / 防衛庁・自衛隊発足		
1955	保守合同 / アジア＝アフリカ会議 / ワルシャワ条約		
1956	日ソ共同宣言 / 国連加盟		
1959			ダニエル・イノウエ氏がハワイ州選出の連邦議員に当選(日系人初)
1960	日米新安全保障条約調印 / 民主社会党結成		
1988			合衆国連邦議会が「戦時日系人抑留補償法」を制定し大統領が署名

『詳説日本史 B』山川出版社、『詳説世界史 B』山川出版社、『海外移住資料館 展示案内 われら新世界に参加す』を参照して筆者作成



ハワイと日本の「食文化」今昔未来物語

Key words 文化の多様性、多様性の多様化、ミックスプレート

1 活用する主な展示および資料

- ハワイにある日本の「食文化」に関する展示および資料
- 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」など

2 教科・領域との関連性および総時間数

- 総合的な探究の時間
- 全5時間（事前2時間、見学2時間、事後1時間）



3 目標

- 自分なりに考えている日本の「食文化」を表現するための根拠となる展示や資料を見学することを通して情報を取捨選択し、自分なりの解釈につなげようとしている。【知識・技能】
- 日本の「食文化」を問い直すテーマに基づいた展示や資料を見学するプロセスを可視化したリフレクションを通して、自分なりのこれからの日本の「食文化」を表現している。【思考・判断・表現】
- 自分が将来に残したいと感じている日本の「食文化」を選択しており、日本人移民の「食」に関する歴史からこれからの「日本の食」を捉えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

【教材観】紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を教材として採用する。視覚資料に触れることから学びを始めることで、知識の有無や立場などに捉われずに学習活動を進めることができる。紙芝居を観て、将来に残したいと感じた日系人の「食文化」の展示や資料の探究ができる契機となる。それぞれの生徒の視点から海外移住資料館を見学することを可能とする。

【単元設定の理由】「生徒が紙芝居を通じて感じたこと」を中心に単元設計をしていく。その中で「将来に残したい」と感じた日系人の「食文化」に気づき、生徒一人ひとりの考える「食文化」を引き出すことをねらいとする。目標にリニアに向かう工学的アプローチによる単元設計ではなく、それぞれの生徒の気づきに寄り添うことを重視し、教師が設定した目標を超えた学びがなされる可能性を想定しておく。

【資料館活用の視点】日系人の「食文化」の「正しい」把握のための展示や資料の活用ではなく、グローバル社会におけるそれぞれのエスニシティに基づいた文化の多様性の理解とそれぞれのエスニシティに基づいた文化の中にある多様化（文化の多様性の多様化）に着目し、生徒一人ひとりの「将来に残したい食文化」を表現するための根拠として活用できるように促す。この視点は、3F（Food、Fashion、Festival）のようなステレオタイプの文化理解を乗り越えることができる。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
事前学習	<p>【単元を通して考え続ける問い】紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を観て感じ、展示や資料を見学したプロセスから、あなた自身が将来に残したい日本の「食文化」は何か？</p> <ol style="list-style-type: none"> あなたにとっての「日本の食」を考えよう！ 問. 20年後に残したい日本の「食文化」は何か。 ●「寿司」「天ぷら」「そば」「ラーメン」「カレー」など 紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を観てみよう！ 問1. この紙芝居を観て、どのような気持ちになったか。 ●「びっくり」「悲しい」「わくわく」「かわいそう」など 問2. 気になった箇所から、今も残る「文化」かたちは変わったが残っている「文化」・ハイブリッド化され、新しくなった「文化」など、どのような「文化」をイメージするか。 ●カリフォルニアロール、アロハシャツなど 資料分析：「文化の多様性」「ハワイの日系人の食文化」 ●「ミックスプレート」「ロコ」「ハパ」など 日本に関連する「今のハワイの食文化」を読み取ろう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ●知っているか知らないかではなく、何を感じたのかを大切にできるように配慮する。 ●あらかじめ展示や資料を教材として選択・設定するのではなく、生徒の興味・関心に応じ、展示および資料を見学・探究するように促す。 ●フォトランゲージなどを活用して、資料の読み解きをするように配慮する。
資料館見学	<ol style="list-style-type: none"> 事前学習を踏まえて展示見学の仕方を考えよう！ ●事前学習から生徒が設定すると想定される「食文化」 →「ミックスプレート」「スキヤキ」「スパムむすび」など 設定した「食文化」に基づいて見学するブースを選択し、見学したコーナーで考えたことから次のコーナーを見学するというように数珠つなぎで見学し、記録しよう！ 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒だけではなく、教師自身も自らの「食文化」を問い直し、展示見学をすることで、生徒一人ひとりの文化観と対話できるように構築しておく。
事後学習	<ol style="list-style-type: none"> 学びのプロセスを自分の表現で可視化しよう！ ●リフレクションで学びの前・中・後を可視化し、自分なりに問い直した日本の「食文化」を理解する。 「単元を通して考え続ける問い」へ応答しよう！ ●展示や資料から得た情報を根拠として残したい日本の「食文化」を表現する。表現方法には、レポート、韻文と解説、イラストと解説などから表現したい方法を採用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人ひとりが自分なりの「食文化」を紡ぐことができるように「問い」を共有する。 ●展示見学から得た情報を根拠にすることができるよう促す。

6 学習後の姿

学びのプロセスを通じて、「将来残したい」と感じた日本の「食文化」を考え、文化の多様性の多様化・文化のハイブリディティ、遠い地域での文化の継承などについて、それぞれの生徒が考えた結果を表現することができている。そのための表現方法は、論理的な文章表現、直観的な韻文（叙事詩、俳句、短歌、漢字1文字など）と解説、言語表現以外のイラスト表現と解説など、自身が考えたことを一番表現できると判断したものを選択する。また、表現したことを生徒同士で共有することで学びを深める。

7 授業づくりのための参考資料

- 大津和子編著（2014）『日韓中でつくる国際理解教育』明石書店

JICA 横浜 海外移住資料館 『学習活動の手引き』活動 13

ハワイと日本の「食文化」今昔未来物語 ワークシート

()年()組()番 氏名()

【単元を通して考え続ける問い】

◎紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を観て感じ、展示や資料を見学したプロセスから、あなた自身が将来に残したい日本の「食文化」は何でしょうか？

【事前学習(1時間目)】

問. あなたが 20 年後に残したい日本の「食文化」とは何でしょうか。

<ワーク>紙芝居「弁当からミックスプレートへ」を観てみましょう！

問1.この紙芝居を観て、どのような気持ちになりましたか？

気持ち	理由

問2.この紙芝居で気になる箇所をチェックしてみましょう。

問3.あなたが将来に残したい日本の「食文化」(探究するテーマ)は何ですか。関係すると考えた展示・資料の見当をつけましょう。

<資料分析>「ハワイの日系人」を読んでみましょう！

2000年の人口センサスによると、現在ハワイには全人口の約17%にあたる約20万人の日系人が住んでいる。では、なぜハワイに日系人が多く住んでいるのだろうか。

19世紀中頃、製糖業が主要産業となっていたハワイでは、労働力不足を解消するために低賃金労働者が必要とされていた。1868年、日本人最初の海外移住者約150人が砂糖きびプランテーションの労働者としてハワイに渡った。1868年が明治元年にあたることから彼らは「元来者」と呼ばれた。1881年には、ハワイ国王カラカウアが来日して、中国人に代わる労働力を求めて日本人の移民誘致を日本政府と交渉した。そして1885年には政府間の契約による「官約移民」約1,930人が当時の不況による経済的理由から故郷を離れ、その後1894年に官約移民制度が廃止されるまでに、26船約2,900人がハワイへ移住した。その後は民間の移民会社が移民を斡旋するようになり、広島、山口、神戶、熊本などから多くの人々がハワイに移住し、1924年にハワイで日本人の移住を事実上不可能にした「東洋人排斥法」と呼ばれる法律ができるまで約22万人がハワイに渡った。

プランテーションでは、中国、韓国、ポルトガルなどからの移民と共に働き、非当のおかずの交換などの交流をしていた。現在ハワイの食堂で見られる多様なエスニックのおかずの盛り合わせプレート「ミックスプレート」は、このプランテーション時代のおかず交換から生まれた。ハワイ島ヒロにあるアラエ墓地では、日系人のほか、コリアン系移民の墓、沖縄系移民の墓が共に並び、太平洋を挟んだアジアの方向に向いている。これらのことから、日本人移民、コリアン系移民と共に同じ歴史的経験をもち、交流を持っていたことを垣間みることができる。

1941年12月7日(日本時間8日)、日本軍による真珠湾攻撃が行われた直後、ハワイでは直ちに戒厳令がかけられ、日本語新聞の発行や日本語によるラジオ放送は禁止され、日本語学校は閉鎖された。翌1942年2月19日には「大統領令 9066号」が出され、アメリカ西海岸に居住していた約12万人の日系人は、アメリカ国内10箇所の収容所に入れられた。しかし、ハワイの日系人の多くは収容されなかった。それは当時ハワイ全人口の40%近くを占めている日系人を強制的に隔離することによる地元の経済に与える影響の大きさを考えたからである。

戦時中アメリカへの忠誠心を疑問視された日系人の中には、アメリカの戦争遂行に進んで協力し、従軍する者もいた。約1,300人にのぼるハワイの二世がアメリカ軍第100歩兵大隊(二世部隊)所属の兵士となり、やがて本土の二世兵士が加わって442連隊が編成された。ヨーロッパ戦線に送られ、多くの戦死者を出して勇敢に戦った442連隊は、アメリカ陸軍史上もっとも勲章を受けた部隊と呼ばれ、彼らが示した日系人の忠誠心と活躍は、日系人に対する評価を大きく変えることになった。

戦後、多くの日系人は努力によって急速に自己の生活を再建し、目覚ましい経済的、政治的発展を遂げ、ハワイでの日系人の地位は向上していった。今日、日系社会の中心は三世、四世となり、日本語を話せる人のほうが少なくなっている。近年は日系人以外と結婚するケースが増えている。そのような中で、最近の若い日系の世代は、ハワイという土地に根ざし、多様な文化が接触、ミックスすることによって生まれたハワイ独自の文化を共有する「ロコ」(ローカルに由来)という意識を持つ者や、アジア系と白人のミックスを意味する「ハバ」(Hapa、ハワイ語の「半分」の意に由来)の意識を持つ者が現れている。



(提供:JICA 横浜 海外移住資料館)

出典:大津和子編著(2014)『日韓中でつくる国際理解教育』明石書店

問1.資料によると「元来者」と呼ばれた人たちはどのような人たちでしょうか。

問2.資料によるとプランテーションでは、どのような国々の移民とともに働いていましたか。

問3.資料によると「ミックスプレート」とは、どのようなものでしょうか。また、どのように生まれましたか。

問4.資料によるとアラエ墓地には、どのような人たちの墓がともに並んでいますか。

問5.資料によると第二次世界大戦中の442連隊とはどのような部隊だったでしょうか。

問6.資料によると442連隊は日系人の評価にどのような影響を与えましたか。

問7.資料によると「ロコ」という意識とは、どのようなものでしょうか。

問8.資料によると「ハバ」という意識とは、どのようなものでしょうか。



【事前学習(2時間目)】

<資料分析>「人の移動は何をもたらすか」を読んでみましょう！

人が移動すると、移動した人々が持っている文化と移動先の文化が持続的、直接的に接触することによって、その一方あるいは双方の文化に変化が生じたり、複数の文化が混じり合って新しい文化が生まれたりする。そのような現象を文化変容と呼んでいる。文化変容には、社会的文化的要素の変容と、異文化接触を体験した個人レベルの行動様式や価値観の変容の両方がある。文化的要素の変容としては、衣食住などの生活文化の他、言語、芸術、宗教、制度等々の変容があげられる。また、個人的レベルでの変容としては、移民や留学生における文化的適応過程をあげることができる。

前者の言語の例としては、移動民の持ち込んだ言語が現地の言語と接触することによって生まれるピジン語や、そのピジン語がその話者の子どもたちによって母語として話されるようになったクレオール語がある。これらクレオール語の多くは植民地化の過程の中で誕生した。フランスによる植民地化によって生まれたモーリシャスのクレオール語、イギリスやフランスによる植民地化によって生まれたバヌアツ共和国のビスラ語などがその例である。

音楽を例にあげれば、今日ではジャマイカの文化を代表しているかのように語られるレゲエは、もともとジャマイカに存在したリズムに、移民の集まるコミュニティでさまざまな移民の持ち込んだ音楽要素が混じり合い、またアンブなどのテクノロジーの変革を通じたハイブリッドなエネルギーを持ち、多くの人たちをも魅了する適応力のある音楽になった。

ファッションや食べ物などの日常の文化を例にあげれば、現在、ハワイでフォーマルウェアとしても通っているアロハシャツは、日本人移民が着物を西洋の開襟シャツ風にリフォームしたり、着物用布をシャツ風に仕立てたりすることから生まれたといわれている(写真1)。

また食文化を例にすれば、ハワイでは歴史的にプランテーションに従事するために集まってきたさまざまな国からの移民の交流によって、独自の食文化が形成された。砂糖きびなどのプランテーションに従事したさまざまな国からの移民は、毎日の昼食にそれぞれ特色ある弁当を持参した。彼らは共に昼食をとる間に自然にお互いに持ち寄った食べ物を交換しあうようになった。やがてこれらの経験が、さまざまな国や地域の郷土料理の一つの皿に盛りつけた「ミックスプレート(またはプレートランチ)」と呼ばれるハワイ特有の食文化を誕生させた。このような食文化の融合は現在まで受け継がれており、ハワイ料理のレストランにおいて代表的なメニューの一つになっている(写真2)。

後者の個人的レベルでの文化変容は、同化、統合、分離、境界化の四つのタイプに分類される。同化は、異文化接触において相手の文化を全面的に肯定し、自らを相手の文化に同化させようとする変容である。統合は、自文化アイデンティティを保持しながら、ホスト国の文化も積極的に認め、良好な関係を形成する変容である。分離とは、ホスト国の文化への同化を否定し、自文化アイデンティティを守ろうとする変容である。境界化は、ホスト国の文化にもとけ込まず、自文化とのつながりも稀薄になってしまっている、いわゆる「根無し草」的な文化変容である。

これを今日の在日コリアンの生き方に当てはめて考えると、境界化は少ないにしても、①日本国籍を獲得して日本人として生きる(同化)、②日本国籍を取得してもコリアンとしての民族的アイデンティティを大切に生きる生き方を追求する(統合)、③韓国・朝鮮籍を維持したまま在日国民として生きる(分離)、といった生き方が考えられる。今後、在日コリアンは個人としてどのような生き方を選択するかが問われている。

(写真1)アロハシャツ



(写真2)ミックスプレート



出典: 大津和子編著(2014)『日韓中でつくる国際理解教育』明石書店

問1.「文化変容」についてどのようなものがあるか、二つ読み取りましょう。

問2.「文化変容」の事例としての「アロハシャツ」について読み取りましょう。

問3.「文化変容」の事例としての「ミックスプレート(プレートランチ)」について読み取りましょう。

<写真資料の読み取り>ハワイ日系人の「現在(いま)」と「過去(むかし)」

【写真】ハワイでの日系人の現在(いま):食文化

【写真1】ロコモコ



【写真2】BENTO



【写真3】スーパーマーケット①



【写真4】スーパーマーケット②



【写真5】TOFU STEAK



【写真6】SUKIYAKI



【写真7】SAIMIN



【写真8】ミックスプレート



【写真9】PANCAKE



(写真1~9 撮影:津山直樹)

問.【写真】のような今のハワイの食文化の中で、①「今もそのまま残っているもの(日本でも同じものがある)」、②「かたちは変わったが、残っているもの」、③「ハワイの文化とハイブリッド化したもの」、④「元々のハワイのもの」に分類してみましょう。

①

②

③

④



【海外移住資料館でのワークショップ】

○展示を見学して記録しましょう。

【事前学習から選んだテーマ(将来に残したい日本の「食文化」)】

【見学コーナー1()】

【見学コーナー2()】

【見学コーナー3()】

【見学コーナー4()】

【展示見学後に問い直したテーマ(日本の「食文化」)】

【学びのプロセスの表現】

○論理的な文章表現、直観的な韻文と解説、言語表現以外のイラスト表現と解説など自身が考えたことを一番表現できると判断したものを選択して、リフレクションをしましょう。

【単元を通して考え続ける問い】

○「紙芝居『弁当からミックスプレートへ』を観て感じ、展示や資料を見学したプロセスから、あなた自身が将来に残したい日本の『食文化』は何か？」

<表現方法の例>

○論理的な文章表現:レポートなどで学びの前・中・後のプロセスを論理的に記述してみましょう。

○直観的な韻文:叙事詩、俳句、短歌、漢字 1 文字などで学びのプロセスの中で印象に残ったことを表現し、その解題を記述してみましょう。

○イラスト表現:4コマ漫画などイラストで表現してみましょう。

○解説:直観的な韻文 or イラスト表現を選択した場合には、それらを論理と証拠によって自ら読み解く解説をつくってみましょう。

<ルーブリック(評価基準表)>

	すばらしい	良い	もう一步
【知識・技能】昔と今のハワイの食文化、紙芝居	・紙芝居のよみききを通して、ハワイへ渡った人が生み出した食文化を背景とともに理解できている。 ・将来に残したい日本の「食文化」を表現するための根拠となる多種多様な情報を集め、まとめることが十分にできている。	・紙芝居のよみききを通して、ハワイへ渡った人が生み出した食文化を理解できている。 ・将来に残したい日本の「食文化」を表現するための根拠となる情報を集め、まとめることができている。	・紙芝居のよみききを通して、ハワイへ渡った人が生み出した食文化を理解できない。 ・将来に残したい日本の「食文化」を表現するための根拠となる情報を集め、まとめることができない。
【思考・判断・表現】文化の多様性の多様化、食のハイブリディティ	・将来に残したい日本の「食文化」を表現するプロセスをロジカルかつクリティカルに考えることができている。 ・将来に残したい日本の「食文化」について考えることで、文化がもつ多様性やその多様性の中にある多様化にまで考えがおよぶようになっていく。	・将来に残したい日本の「食文化」を表現するプロセスをロジカルかつクリティカルに考えることができている。 ・将来に残したい日本の「食文化」について考えることで、文化がもつ多様性を考えている。	・将来に残したい日本の「食文化」を表現するプロセスをロジカルかつクリティカルに考えることができない。 ・将来に残したい日本の「食文化」について考えることで、文化がもつ多様性を考えていない。
【主体的に学習に取り組む態度】自身の「文化観」の問い直し	・日本の「食文化」から将来の日本社会とグローバル社会を想像・創造しようとする心構えができている。 ・これまでの自分が思い描いていた日本の「食文化」を問い直し、自分自身の「文化観」に気づくことができている。	・日本の「食文化」から将来の日本社会とグローバル社会を想像しようとする心構えができている。 ・自分自身の「文化観」に気づくことができている。	・日本の「食文化」から将来の日本社会とグローバル社会を想像しようとする心構えができている。 ・自分自身の「文化観」に気づくことができていない。



森をつくる農業

Key words アマゾンの開発と森林保全、アグロフォレストリー、日系ブラジル人

1 活用する主な展示および資料

- 「日本-ブラジル 移民カルタ」

2 教科・領域との関連性および総時間数

- 中学校社会科（地理的分野）・総合的な学習の時間
- 高等学校地理歴史科（地理総合）全4時間

3 目標

- カードや映像、統計資料などを通して、アマゾンの現状と課題や、日本人移民のブラジルでの経験を理解することができる。【知識・技能】
- 日系ブラジル人が始めた「森をつくる農業」を含め、アマゾンの現状や課題克服のための取り組みについて、カルタ作成を通して多様な視点から表現している。【思考・判断・表現】
- アマゾンやセラードの開発によってどのようなメリットやデメリットがあるかを考え、多様な視点からものごとを捉えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】



4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

まず現在のアマゾンの森全体に目を向け、アマゾンやセラードで開発が進み、環境が変化する様子やその要因について知る。その方法として、各班にアマゾンの5枚のカード（テーマごとのQR入り）を配布し、各生徒が1枚のカードを選び責任を持って読み込み、その後5人で、印象に残った言葉を紹介し合いながら関連する事項をつなぎ、アマゾンとセラードの開発からつながるウェビングシートを完成させる。活動を通して開発の現状や要因を知り、問題のつながりや開発のメリットとデメリットにも気づかせる。

次に海外移住資料館でも上映されている動画[JICA-Net ライブラリ]（6：08）を視聴する。熱帯雨林の伐採が進む中で、その解決策の一つとして高く評価されている森をつくる農業（アグロフォレストリー）を実践する動画を見た後、トメアスーの農業のあゆみを記したA～Hのカードを年代の古い順に並べて整理する。

その後、ブラジルと日本の人口移動のグラフを紹介し、両国間の人の移動について確認する。そして、日系ブラジル人の歴史を知るために、海外移住資料館の貸出資料である「日本-ブラジル 移民カルタ」を楽しみ、このカルタが、どんな目的で作られたのかを考える。日本の学校に多く在籍する日系ブラジル人児童生徒、ブラジルにおいて日本語を学習する生徒などを対象として開発されたことを知る。カルタをすることで気づいたことを班ごとに話し合い、日系ブラジル人の歴史や文化保持・変容を感じながら日系ブラジル人の背景を理解する。

最後に、これまでの学習内容を反映させたカルタ「アマゾンの森を持続可能にするカルタ～日系ブラジル人のあゆみとともに～」をつくる。

5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
1	アマゾンとセラードの開発についての5枚のカードをグループ内で分担して読み、ウェビングで整理してみよう。 カード1を用いてアマゾンとセラードの概要について紹介。生徒は①アマゾンの破壊の現状 ②森林火災と干ばつの増加 ③舗装道路の開通 ④先住民族の権利 ⑤生物多様性を各自が読み取り情報共有する。 ●舗装された道路から魚の骨のように森林伐採が進んだね。 ●セラードはサバンナのこと。見たことのない動植物がいるね。 ウェビングを通して気づいたことを書いてみよう。 ●ひとつのことが視点を変えるとメリットにもデメリットにもなる。	●1枚のカードの内容を、ひとりが責任を持って読み取り記入。 ●他のメンバーと情報を共有し、関連事項をつないで完成させる。 ●ウェビング後、カード2を用いてセラードにおける大豆栽培とJICAの働きについて補足する。
2	森をつくる農業に挑む日系ブラジル人の歩みを動画でみてみよう。 [JICA-Net ライブラリ]「アグロフォレストリー 森をつくる農業～アマゾン熱帯林との共存～（ダイジェスト版）（6:08）」 トメアスーの農業のできごとカードを並べてみよう。 ●胡椒でもうけたこともあったが、胡椒単作で病虫害が広がった。 ●多種類の作物を少量つくと出荷に困るから工夫したんだね。	●多種混合の作物栽培は、先住民から示唆を得た事に気づかせる。 ●カードで動画の内容を補う。 ●カードDの位置をあらかじめ示しておくとうわかりやすい。
3	人口の移動をグラフから読み取る（P.16・17「私は『鶴見人』の資料」） ●昔はブラジルに行く人が多かったけれど、1980年代以降ブラジルから来た人が増えている。 「日本-ブラジル 移民カルタ」を楽しもう。 ●ブラジルで日本語学校をつくったんだね。 ●1930年代に閉鎖された日本語学校というものもある。どうしてかな？ ●大きな切株の写真から移住者の大変さがわかる。	●絵札を取った人は後ろの解説も読む。 ●カルタの後「日本-ブラジル 移民カルタ」がどんな児童生徒を対象として開発されたかも考えさせる。
4	「アマゾンの森を持続可能にするカルタ～日系ブラジル人のあゆみとともに～」をつくる。 アマゾンやセラードの開発、日系ブラジル人、トメアスーのアグロフォレストリーについてなど本単元の学習内容を反映したカルタを作成する。	●取り札（写真かイラスト）、読み札（5・7・5）。カルタは必ずしも50音そろわなくても良い。

6 学習後の姿

アマゾンの開発と環境保全についての歴史や現状を知り、地球的課題と自分たちの生活が深く関わっていることを意識できるようになる。また一つの事柄にも多様な見方が存在することに気づき、ものごとを多様な視点から捉える態度を身につける。また、日本から移住した人々のブラジル農業での苦勞を知り、その過程で先住民の知恵を参考にしたり、試行錯誤したりしながら生まれた農法（アグロフォレストリー）が、地球規模の課題の解決につながる農法として評価されていることを知る。学習した内容を他の誰かに発信できる。

7 授業づくりのための参考資料

- 国立国会図書館「アマゾンのアグロフォレストリー」「アマゾン開拓」「ブラジル移民100年」
- 坂口陸（1994）「アマゾン農業と日本の国際協力」友松篤信、桂井宏一郎、岸本修共編『国際農業協力論：国際貢献の課題と展望』古今書院
- 本郷豊、細野昭雄共著（2012）『ブラジルの不毛の大地「セラード」開発の奇跡』ダイヤモンド社
- 西澤利栄、小池洋一、本郷豊、山田祐彰共著（2005）『アマゾン：保全と開発』朝倉書店



展開計画

1 アマゾンやセラードの開発について①～⑤のカードをグループ内で分担して読み、ウェビングで整理してみよう。

活動前に以下のカード1（オレンジ色）を用いて、教員からアマゾンとセラードの概要について紹介する。活動後は以下のカード2（オレンジ色）を用いて、セラードにおける大豆栽培に JICA が関わっていたことを補足する。

1 拡大する大豆栽培

●「拡大する大豆栽培 影響と解決策」

1. 増え続ける大豆
2. 大豆と森林減少 アマゾン セラード



※ P.4 で大豆には多様な用途があることが確認できる。P.19 の地図でアマゾンとセラードの位置、P.29 でアマゾンの森林減少の様子、P.33 でセラードの森林減少の様子、P.30 でセラードには世界最大の湿地であるパンタナール湿原があることを紹介する。

WWF（世界自然保護基金）より

2 大豆栽培とセラードの開発

●「日伯セラード農業開発協力事業が食料安全保障に果たした役割と展望」

3. セラード農業開発のインパクト：「不毛の地」を四半世紀で世界の穀倉地帯へ
4. ODA 史上最大のプログラム：日伯セラード農業開発協力事業の概要
5. 穀物増産能力 7 億トン：セラード地帯の潜在力試算
6. 開発の連鎖：セラード農業の課題と展望



国際協力機構（JICA）常勤嘱託 本郷 豊「日伯セラード農業開発協力事業が食料安全保障に果たした役割と展望」より

① アマゾンの破壊の現状

●アマゾンの破壊の現状

- 01 道路の建設から始まった森の破壊
- 02 大豆栽培がアマゾン破壊を加速
- 03 もとの面積の 15% が既に消失



特定非営利活動法人 熱帯森林保護団体（RFJ）より

② 森林火災と干ばつの増加

- 世界最大の湿地帯が干上がった ブラジルで今、起きている異変の正体
 - 干からびたワニ
 - 広がる農地、輸出用の大豆畑に
 - 気候変動にもつながる危機
 - 森林壊して作られる「排出ゼロ」燃料



- アマゾンの熱帯雨林に迫る「限界点」 温暖化が抑制できなくなる前にやるべきこと



The Asahi Shimbun GLOBE + より

③ 舗装道路の開通

- 牛肉と大豆、アマゾン森林火災に関わるブラジルの 2 大産業

AFP BB News より



- アマゾン熱帯雨林、幹線道路がもたらす開発と破壊 ブラジル

AFP BB News より



- 焦点：アマゾン奥地で道路再建、住民の夢か熱帯雨林の枯死か

ロイターより



④ 先住民族の権利

●アマゾンの先住民族

01 自然と共生してきた先住民族の歴史

02 多様な文化を生きる先住民族

03 ブラジル憲法が保障する先住民族の権利

04 “アマゾンの森の守り人”として

特定非営利活動法人

熱帯森林保護団体（RFJ）より



- 環境より開発優先のブラジル政府 アマゾンの長老の苦悩
「人々は見ないふりしている」

The Asahi Shimbun GLOBE + より



⑤ 生物多様性

- 大豆と「世界で最も生物多様性に富むサバンナ」ブラジル セラードの深い関係

世界中の食を支える「隠れた作物」大豆

一大農業地帯となったセラード

セラード特有の自然

WWF（世界自然保護基金）の取り組み



WWF ジャパン（世界自然保護基金）より



展開計画

2 森をつくる農業に挑む日系ブラジル人の動画をみてみよう。



JICA-Net ライブラリー 【農業・農村開発】

アグロフォレストリー 森をつくる農業 ～アマゾン熱帯林との共存～(ダイジェスト版)(6:08)

展開計画

2 トメアスの農業のできごとカードを並べてみよう。

①移民募集のポスターに書かれていること読み取ってみよう。

②1928年(昭和3年)政府が主導し、鐘紡が主に資金を出して南米拓殖会社を設立する。この会社が、日本で、ブラジル パラー州への移民を募集した。A～Hのカードには、パラー州アカラ(のちにトメアスと改称)で農民が経験したことが書かれている。これを年代の古いものから順に並び替えて、トメアスの農業のあゆみを見てみよう。

カード並び替えの答え B→C→A→D→E→F→H→G



カード

A 期待したカカオ栽培にも失敗し、南米拓殖会社は植民地経営から撤退した。そこで、アカラ野菜組合を元にできたアカラ産業組合が植民地経営の中心となった。

B 第1回の移民募集では、43家族、単身者9人の計189人が入植。カカオを主な作物にするが、カカオの収穫まで4年かかるので、野菜の収穫を始める。

C アカラ野菜組合を結成し共同で出荷した。しかし、生活は苦しく最初の3年間に入植した202家族のうち、61家族が植民地を去った。

D 戦争のために日本とブラジルの国交が断絶。アカラ産業組合の資産はブラジルに接収された。アカラ植民地は、日本人やドイツ人など枢軸国の人々の抑留地となる。

E アカラ植民地からトメアス植民地に改称。戦前にシンガポールから導入されたこしょう栽培が急速に普及した。こしょうの国際相場が高騰し「黒いダイヤ」と呼ばれ、「こしょう長者」も生まれた。

F こしょう価格が暴落。さらに単一栽培(モノカルチャー)だったこしょう畑のほとんどが、フザリウム菌というカビの一種にやられ、破産する農家もでてきた。

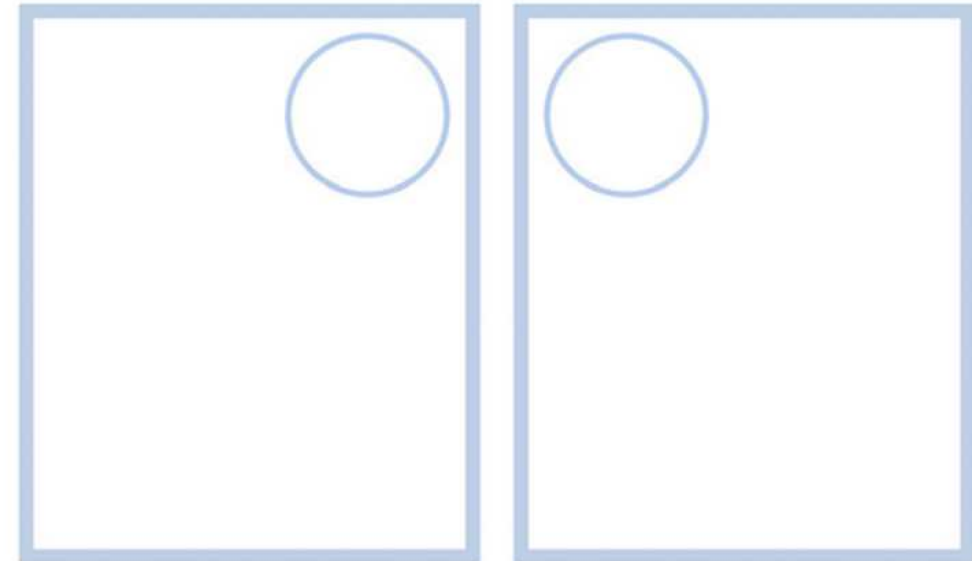
G 多種類の作物を少量生産するようになると運搬に困る。そこで、収穫したものをすぐに加工できる冷凍ジュース加工工場をつくり、都市部だけでなく日本をはじめ海外へ輸出できるようにした。

H こしょうモノカルチャーの弊害を克服するために、トロピカルフルーツ類(クブアス、パッションフルーツ、グアバ、アセロラなど)やアサイ(ヤシ科)やカカオなど、複数の作物を育てるようになる。(アグロフォレストリー)

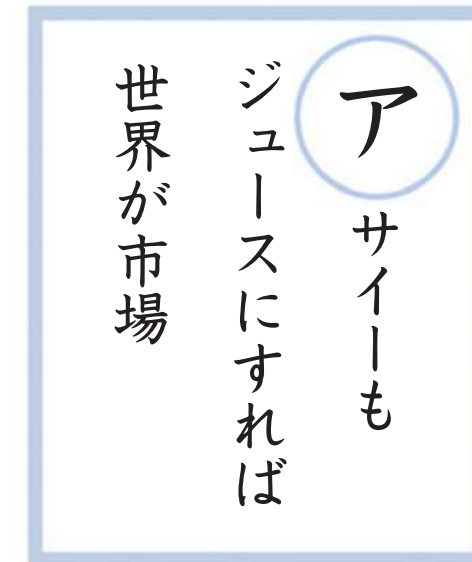
展開計画

4 「アマゾンの森を持続可能にするカルタ～日系ブラジル人のあゆみとともに～」をつくろう。

作成用カード



カルタ(例)



© FRUTA FRUTA



インタビュー映像から読み解く歴史と現在

Key words 日系人の強制収容、442連隊、戦争/人権、多文化共生

1 活用する主な展示および資料

- DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」
- 展示「経験を語り継ぐ」インタビュー映像
- 海外移住資料館「パスポート」

2 教科・領域との関連性および総時間数

- 高等学校国語科（現代の国語、国語表現）
- 総合的な探究の時間
- 全3時間

3 目標

- 第二次世界大戦中にアメリカ合衆国で暮らしていた日本人移民・日系人が置かれていた状況などを通して、世代や立場、文化的背景などを異にする多様な相手が実社会にいることを理解することができる。【知識・技能】
- 当事者のインタビューなどについて、自分の考えや感じたことを言葉にし、互いの意見を伝え合おうとしている。【思考・判断・表現】
- 当事者の表情や言葉を通して、彼らに深く共感したり彼らの当時の状況を豊かに想像したりしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元について（教材観・単元設定の理由・資料館活用の視点など）

本教材は、第二次世界大戦下のアメリカ合衆国における、強制収容された日本人移民や日系人、日系アメリカ人部隊（442連隊）と現在の日系アメリカ人の様子についてまとめた映像である。映像内では当事者が直接インタビューに答えており、文字では読み取ることが難しい表情や言葉の抑揚を感じることができる。生徒たちは、普段の生活では触れ合う機会の少ない人々のインタビュー映像を通し、世代や立場、文化的背景などを異にする多様な相手が実社会にいることを理解することができる。また、当事者の言葉への考えを深める活動を通して、人々に深く共感したり豊かに想像したりする力を養うことができる。これは、国語科の目標である「言語活動を通して国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成」につながる。そして、学習のまとめとして、自分とは異なる立場・文化的背景を持つ人物の発言について考え、互いの意見を伝え合うことで、生徒が自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。自分とは異なる立場・文化的背景を持つ人物の存在や言葉に触れ自身の想いや考えを広げることは、「生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす」活動にもつながるため、本教材は国語科の学習教材として適したものだといえる。



5 展開計画

流れ	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	留意点
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外移住資料館「パスポート」P.2を使って、海外移住や日系人について理解する。 2. 「第二次世界大戦」をテーマに、ウェビングマップを作る。 3. DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」の「第一章 強制収容所」(約12分)を視聴する。 4. 映像の中の言葉や表情から読み取った当時の状況や人々の思いをワークシート1に書いていく。(グループ学習でも可) <ul style="list-style-type: none"> ●(②) 話さなかったのではなく、あまりにも辛い経験すぎて話せなかったのだと思う。 5. ワークシート1に書いた意見を発表し、意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●DVD視聴前に、①DVDの簡単な説明をし、②ワークシートの言葉について考えることを伝える。 ●ウェビングマップ作りは、個人でもグループでも良い。 ●①～⑤のどれを選んでも良い。グループ学習の場合は各自に割り当てても良いが、①～⑤ごとに各グループの担当者が発表する。
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」の「第二章 442連隊」(約12分)を視聴する。 2. 映像の中の言葉や表情から読み取った、当時の状況や彼らを取り巻いていた環境、彼らの思いをワークシート2に書いていく。(グループ学習も可) <ul style="list-style-type: none"> ●(③) アメリカ人として出兵した元442連隊の人が「大和魂」という言葉を使っているところから、アイデンティティが揺らいでいたのではないかと思った。 3. ワークシート2に書いた意見を発表し、意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業開始時に前時のワークシートをもとに振り返りを行う。 ●映像は第2章の12分20秒（ロバート・イチカワ氏インタビュー後）で止める（12分20秒以降は戦場の過酷な映像が流れる）。 ●①～⑤のどれを選んでも良い。グループ学習の場合は各自に割り当てても良いが、①～⑤ごとに各グループの担当者が発表する。
3	<ol style="list-style-type: none"> 1. DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」の「第四章 戦後の日系アメリカ人」(約5分)を視聴する。 2. ワークシート3をもとに「9.11の時ブッシュ大統領は何と言ったか」(「経験を語り継ぐ」インタビュー映像より)について考える。(グループ学習も可) <ul style="list-style-type: none"> ●ブッシュ大統領の言葉：「私たちもそのような偏見に懸念を抱いているし1942年にノーム（ミネタ）に起きたことが今起きないことを望んでいる。」 We're equally concerned about all this rhetoric and we don't want to have happen today what happened to Norm in 1942. 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業開始時に前時のワークシートをもとに振り返りを行う。 ●ノーマン・ミネタ氏がかつて強制収容されていたことをブッシュ大統領は知っていることを補足するなど、生徒の活動の支援をする。 ●最後に参考図書を紹介し、読書の重要性を伝える。

6 学習後の姿

学習活動を通し、生徒は自身の生活圏内にはいない人々の存在や知らない歴史について触れることで、書物や映像などからではないと学ぶことができないことが社会に多く存在することを理解する。授業の最後に参考文献を紹介し読書の重要性を伝えることで、読書に興味を持つ生徒が増えることを期待している。

7 授業づくりのための参考資料

- ジョージ・タケイ、ジャスティン・アイジンガー、スティーヴン・スコット共著、ハーモニー・ベッカー一画、青柳伸子訳(2020)『<敵>と呼ばれても』作品社

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 15

「インタビュー映像から読み解く歴史と現在」ワークシート1

()年()組()番 氏名()

第一章 強制収容所

問. 次の5つの言葉から1つ選び、言葉や表情から読み取った当時の状況や人々の思いなどを考えてみましょう。

(インタビュー内で語られていた言葉)

- ① 入隊できなかった日系人の友達に入隊を許可された友人がかけた言葉

「君が入れないなら僕らも入らない」

- ② 日系アメリカ人部隊に入隊していたネルソン・アカギ氏の話聞いた家族の言葉

「この話は今初めて聞きました」

- ③ 強制収容直前に自宅で亡くなった友人の父親の言葉

「先に行きなさい 私は家の戸締りをしてから行く」

- ④ 日系アメリカ人部隊に入隊していたグラント・イチカワ氏の言葉

「自分が敵の血を引くことを いまいましく思いました」

- ⑤ 強制収容されたジョージ・タケイ氏の父親の言葉

「バカらしい！」

言葉や表情から読み取った当時の状況や人々の思いなどを書きましょう。

選んだ言葉()

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 15

「インタビュー映像から読み解く歴史と現在」ワークシート2

()年()組()番 氏名()

第二章 442連隊

問. 元442連隊の人たちの4つの言葉から1つ選び、言葉や表情から読み取った、当時の状況や彼らを取りまいていた環境、彼らの思いなどを考えてみましょう。

(インタビュー内で語られていた言葉)

- ① 元 MIS 兵士 ジョージ・アラタニ氏

「息子たちは兵隊になりたがり 親は反対していたのです」

- ② 元 442 連隊兵士 ダニエル・イノウエ氏 (徴兵忌避者について語る場面)

「体を張るのは簡単です でも精神的な強さを持つのはとても難しい」

- ③ 元 442 連隊兵士 テツ・アサト氏

「大和魂かな」

- ④ 元 552 野砲大隊兵士 マナビ・ヒラサキ氏

「私の場合は愛国心じゃない プライドです」

言葉や表情から読み取った、当時の状況や彼らを取りまいていた環境、彼らの思いなどを書きましょう。

選んだ言葉()

JICA 横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』活動 15

「インタビュー映像から読み解く歴史と現在」ワークシート3

()年()組()番 氏名()

「9.11の時 ブッシュ大統領はノーマン氏に何と言ったか」

次の文章は、海外移住資料館の常設展示室内で上映している「経験を語り継ぐ」のインタビュー映像の一部を文字にしたものです。

第二次世界大戦下で強制収容を経験した元アメリカ合衆国運輸長官のノーマン・Y・ミネタ氏は、インタビュー映像の中で、2001年9月11日アメリカ同時多発テロ事件当時を振り返り語っています。ブッシュ大統領のある言葉に背中を押され、ノーマン・Y・ミネタ氏は特定の人種への搭乗前検査を否定し、全乗客への徹底した検査で対処しました。ノーマン・Y・ミネタ氏の背中を押したブッシュ大統領の言葉を考えましょう。

【「経験を語り継ぐ」インタビュー映像より】

9月13日に閣議があったのを覚えています。上院と下院の共和党と民主党のリーダーが

集まりました。その会議の終わりにミシガン州選出のデビッド・ボニオール下院議員が、

「大統領、ミシガン州には非常に多くのアラブ系アメリカ人がいます。

彼らは、中東系の人々を飛行機に乗せない イスラム教徒も飛行機に乗せない 彼らを拘

束の対象とするという論調をととても心配しています。」

デビッドは、そのようなことを話しました。

ブッシュ大統領は、

大統領がそう言ったの聞いて私はびっくりしましたが、確かに大きく背中を押されたの

です。



移民カルタを使ってみよう

このカルタは「日本人移民」をテーマに、日本から海外に移住した人々の歴史、日系二世・三世の経験、在日日系人について学べるようになっています。例としてア行をご紹介します。

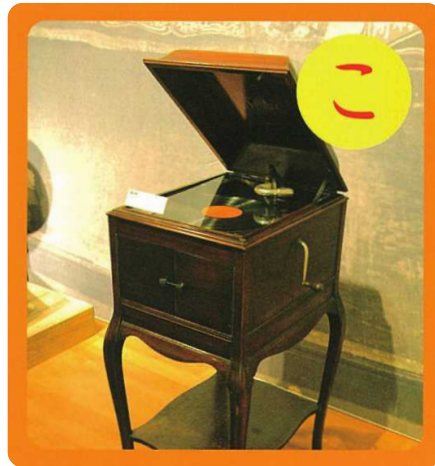
- あ** 阿波おどり ブラジル風は サンバかな
- え** エンシャーダ 引く手に落ちる 汗涙
- い** 一杯の コーヒーに想う ブラジル農園
- お** お仏壇 神棚心の 支えとし
- う** 海を越え ピクチャープライド 夢いだき

以下の絵札の写真は当資料館の展示から取り込んでいます。資料館見学の事前・事後学習にも効果的にご利用いただけます。絵札の裏には読み札の句に関する解説がありますので、遊びながら日本人移民の歴史について理解を深めることができるほか、調べ学習に活用することも可能です。活用方法の工夫により、小学校中学年から大人までを対象としています。

こ **こころよい**
蓄音機 調べで癒す

写真の蓄音機は、1940年頃にペルーにあるアレキパ市の日系人家庭で使用されていたものです。仕事の疲れを癒す大切なもののひとつだったことでしょう。

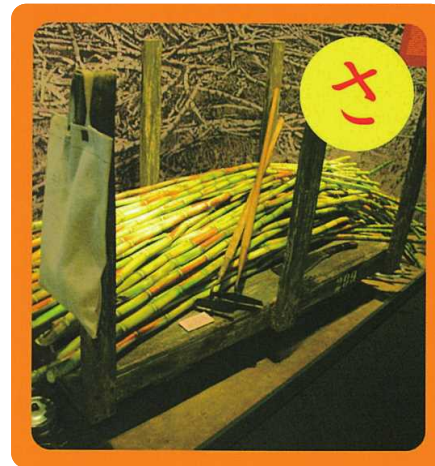
こ **こころよい**
調べで癒す
蓄音機



さ **さとうきび**
刈っても刈っても
なくならない

ハワイなど、海外の農場の規模は、日本とくらべて想像もできないほど大きく、多くの移住者は重労働に苦しみました。ハワイの移住者はホレホレ節などの労働歌を歌って励まし合いながら働きました。

さ **さとうきび**
刈っても刈っても
なくならない



戦 **戦争が**
悩ませる
一世二世

第二次世界大戦時、日系人は両国の間で苦しみました。アメリカの軍隊に入り「敵性外国人」という日系人への偏見をなくそうとした若者もいました。多数の死者を出した日系人部隊として知られる「442部隊」は、米国最強の部隊とよばれました。

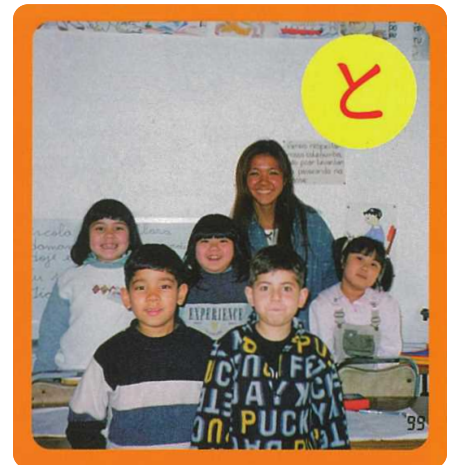
戦 **戦争が**
悩ませる
一世二世



隣 **隣の子**
転入生
ブラジルからの

1990年に日本の法律が改正され、日系人に限って定住が認められるようになりました。1991年にはブラジルからの日系人は十数万人に達しました。そしてこういった人々と共に多くの子ども達も日本にやってきています。

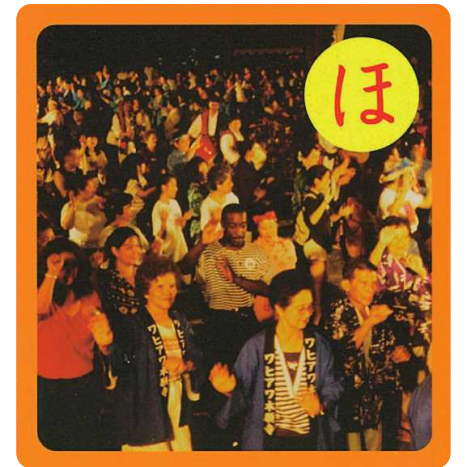
隣 **隣の子**
転入生
ブラジルからの



盆 **盆ダンス**
大人気
常夏ハワイで

ハワイや南米の日系社会では、盆ダンス（盆踊り）を楽しみにしている人が大勢います。日系人の会館では、盆ダンスのサークルもあります。

盆 **盆ダンス**
常夏ハワイで
大人気



海外移住資料館の貸出教材の申込は「海外移住資料館 HP」から
<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/education/rent.html>



利用者の声

- 子どもから大人までゲーム感覚で移民について知ることができて良い。(大学准教授)
- カルタ形式の対面コミュニケーションにより、書かれた資料をただ読むだけでなく、感想や意見を交流し合うことができ、情動を伴う学びを行うことができる。(高校教員)

紙芝居を使ってみよう

対象は小学校高学年から

海を渡った日本人



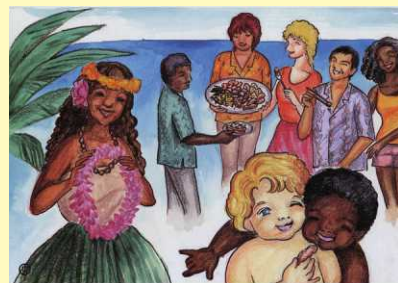
文：中山京子

「海を渡った日本人」(全10枚)は、写真を用いて日本人移民の歴史全般について概説したものです。海を渡った日本人、移民黎明期、官約移民、北米へ、南米へ、トランクへつめたもの、戦争中、戦後、食卓から、日系三世からのメッセージで構成されています。紙芝居の写真は全て展示してある物や写真であり、資料館見学の事前事後学習にも効果的に活用できます。



文：中山京子
森茂岳雄
絵：金子映夏

「弁当からミックスプレートへ」(全10枚)は、100年以上前にハワイに渡った千代と惣太郎を主人公にした物語です。千代と惣太郎のさとうきびプランテーションや街での生活が物語られ、プランテーションで出会ったさまざまな国からの移民との交流を描いています。ハワイの多文化社会について移民の食文化の変容と日本人移民史を通して描いた作品です。



文：中山京子
森茂岳雄
絵：金子映夏

「ハワイにわたった日系移民」(全12枚)は、小学校6年生の少女リカとハワイへの移民体験を持つ祖母を主人公にした物語です。親戚関係にあるハワイ在住日系三世のケイティの来日を契機にリカは初めて移民について祖母から話を聞きます。曾祖母、祖母、父、ハワイのケン、マイクが登場し、戦前・戦後のファミリーヒストリーを知ることができます。



絵：西川洋平
文：落合佐江子

「カリナのブラジルとニッポン」(全8枚)は、来日5年目、小学校6年生の日系ブラジル人三世のカリナを主人公にした物語です。前半は戦後に広島からブラジルへ渡りコーヒー農園で働いたカリナの祖父母の話を通してブラジル移民の歴史と経験を、後半はカリナが現在日本の学校生活で抱えている問題や家族の問題を実話をもとに描いています。



利用者の声

「弁当からミックスプレートへ」道徳の授業で活用し、おかずを交換するうちに仲良くなっていく人々の心情を考えました。子どもたちは、初めて知ることに関心を持っていました。(中学校教員)

海外移住資料館の貸出教材の申込は「海外移住資料館 HP」から
<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/education/rent.html>



いみんトランクを使ってみよう

いみんトランクは、日本人移民に関する授業や事前学習をサポートする貸出教材です。国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことができる教材であり、日本人移民の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズ・オン教材や先生向けの解説書などを多数取り揃えています。

【いみんトランク教材の一例】



野菜山車 (写真)



ミックスプレート (模型)



さとうきび (模型)



ハワイ移民労働着 1



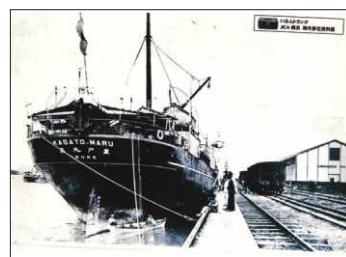
ハワイ移民労働着 2



ハワイ移民労働着 3



アルミ製の弁当箱



笠戸丸 (写真)



真珠湾攻撃を伝える新聞



太平洋戦争終結を伝える新聞

利用者の声

ミックスプレートのような食の文化の融合が分かる教材や、ハワイ移民労働着を通して、体験的学習ができ生徒たちの理解が深まりました。(中学校教員)

移民スゴロクを使ってみよう

移民スゴロクは、4 択のクイズに答えながら、遊びを通して日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことができる教材です。日本から船に乗って出発し、長い航海の後ブラジルに到着、そしてブラジルでの生活に慣れ親しんでいく、その体験をクイズで学ぶことができます。



利用者の声

移民をテーマとした模擬国連をやろうとしているのですが、移民について学ぶ機会がなかったので貸していただきました。現在、移民と聞くと日本はあまり関わりのないものと考えてしまいましたが、より広い意味で日本も関わる部分を理解できました。(高校教員)

DVD を見てみよう

日本人の移住や日系人について学ぶことができる DVD を貸し出しています。

利用者の声

- 「子どもたちの百年」
日系ブラジル人の方を講師として招いて行った授業で使用しました。移民の方々の当時の様子などが生徒たちにも伝わっていました。講師の先生も DVD が良かったと仰っていました。(高校教員)
- 「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」
生徒たちは、日系アメリカ兵のアイデンティティの問題、彼らが語る「大和魂」という言葉などに関心を抱いていました。(高校教員)



(DVD の一例)

「これ、なんだろう？」

海外移住資料館では、南北アメリカを中心とした日本人の海外移住の歴史などについて展示しています。ここでは、国や地域ごとの展示を紹介します。



これ、なんだろう？

ハワイ

◆展示場所◆

海外移住の歴史
ハワイ官約移民ジオラマ

これは「ベントウバコ」です。ハワイのプランテーションには、日本を含む色々な国から働きに来ている人がいました。互いの言葉が分からない彼らでしたが、昼になると家から持ってきたお弁当を一緒に食べて交流を深めていたそうです。



これ、なんだろう？

ブラジル

◆展示場所◆

海外移住の歴史
最後の移民船につぼん丸

これは海外移住をする際に、荷物を入れていったドラム缶です。ドラム缶は、移住先ではお風呂として使われることもありました。ただ、お風呂に入る習慣がない人たちからは、不思議な目でみられていたそうです。



これ、なんだろう？

ペルー

◆展示場所◆

われら新世界に参加す
日本語新聞

これは「ペルー新報社の活字セット」です。日本人の移住先では、日本語で書かれた邦字新聞が発行されており、日本人移民の増加により新聞の種類も増え、内容も移住先の記事から日本に関連する記事とバラエティーに富んだものになっていきました。



これ、なんだろう？

アメリカ合衆国

◆展示場所◆

われら新世界に参加す
よるずや
萬屋

これは「萬屋」といって、生活必需品を提供していたお店です。日本人の移住先には、日本人相手に生活関連商品を扱う「萬屋」と呼ばれた店が各地に存在しました。展示室では、日本から輸入した缶詰（レプリカ）も展示しています。



これ、なんだろう？

横浜

◆展示場所◆

われら新世界に参加す
どうやって行ったのか

これは外交旅館（移住宿）の「福嶋屋の半てん」です。海外への移住者が多かった時代、横浜港の近くには、いわゆる「移住宿」と呼ばれる場所が、移民船に乗る前の宿泊から旅券の手配などといった渡航準備の手伝いをしていました。

海外移住資料館では、展示内容と日本人の海外移住の歴史についてまとめた「パスポート」を用意しています。「パスポート」のフロアマップ (P.3～P.8) に記された10個の質問に答えながら展示室を回ると、日本人の海外移住の歴史の概要を理解することができます。パスポートの後半は、「日本人の海外移住とSDGs」について学習できるようになっています。



海外移住資料館の展示から、「日本人の海外移住とSDGs」を学ぶことができます。参考資料も紹介しています。

JICA 横浜 海外移住資料館へようこそ!

JICA 横浜 海外移住資料館って、どんなところ?

いま、日本では、さまざまな国や地域にルーツをもつ人が、たくさん生活していますが、今からおよそ150年以上前から、多くの日本人が海をわたっていったことを、皆さんは知っていますか?

現在、海外に移り住んだ日本人とその子孫は380万人を超え、また最近では、そうした日系人やその家族を含めた約21万人の人たちが、日本で働いたり勉強をしたりしています。

JICA 横浜 海外移住資料館では、海外に移り住んだ日本人とその子孫である日系人の歴史や現在の様子、そして今日までの日系人や日系社会の変化について学ぶことができます。

※数字は2021年現在のもの。

海外移住って、ナニ?

「移住」とは、今まで住んでいた土地から別の土地に移り住むことをいいます。海外へわたってそこに住むことを「海外移住」といいます。また、移住した人ひとを「移民」や「移住者」といいます。

日系人って、どんな人たち?

日本から海外に移り住んだ日本人とその子孫にあたる人ひとを「日系人」と呼んでいます。

**海外移住資料館のテーマ
「われら新世界に参加す」って、ナニ?**

日本から海外に移り住んだ日本人とその子孫は、移住した国や地域で活躍しています。農業、漁業、商業、工業、だけではなく、政治や医療、教育等でも、その活躍は見られます。海外に移り住んだ日本人とその子孫たちは、移住した先の人ひとと一緒に、よりよい国づくりに取り組んでいます。「われら新世界に参加す」とは、「日本人が、移住した国や地域で、その社会の一員として国づくりに参加し貢献してきた」ことを表した言葉です。

日本人の海外移住
や日系人について
確認できます。

日本人の海外移住とSDGs

海外に移り住んだ日本人とその子孫たちは、現地の持続可能な開発に貢献してきました。どのような分野で貢献していたのか、見ていきましょう。

1. 経験を語り継ぐ

海外に移り住んだ日本人とその子孫たちは、つらい経験をすることも多くありました。第二次世界大戦下では、アメリカ合衆国やカナダなどで生活していた日本人とその子孫の多くは、財産をうばわれたり、収容所にいられたりしました。

そうした経験をした人たちは、自分たちと同じような思いをする人が、これ以上増えないように私たちに色々なメッセージを残してくれています。

どうして強制収容が行われたのかな。

★もしも自分が、ある日突然、収容所に連れていかれたらどんな気持ちになるかな。

★第二次世界大戦の時に、アメリカ軍には日本人だけの部隊が作られ、たくさんの日系二世が志願したんだ。当時の日系二世の人たちは、どんな気持ちだったのだろう。

★「誰も知らない 日系アメリカ人の歴史」(映像作品)

★海外移住資料館の貸出教材です(無料)。

★「(敵)と呼ばれても」(作品社、2020年)

★ジョージ・タケイ(著)、青柳 伸子(翻訳)

※ JICA 横浜 2F ライブラリーで借りることができます。

質問に答えながら展示室を見てまわることができます。体験学習コーナーには、机と椅子が設置されており、ワークシートへの書き込みなどを行うことができます。

1. 海外移住の歴史

4 養生

海外で勤務するために日本を旅立った「養生」と呼ばれる人たちがいたんだ。彼らの多くは、船中は志願者のアメリカ人の家で働いて、夜に学校へ通っていたんだ。

3 ハワイへの官約移民

1885年から、ハワイ王国にわたった日本人は何をつくる農園で働いていたのかな?

5 アリアンサ移住地

足元にある半円は、移民が切り開いた木の大きさとほぼ同じだよ。どのくらい木の大きさを切っていたのかな?

2 県別移住者マップ

日本から海外へ移住した人が一番多かったのは、広島県なんだ。

6 にっぽん丸

海外へ移住する人は、ドラム缶等に荷物を入っていたんだよ。ドラム缶は、移住先で商品としても使われたんだ。

1 野菜山車

アメリカ合衆国で、日本人移民が農業分野で貢献したことがわかる展示だよ。

7 ララ物資

日系人が始めた活動がもとで、戦後の日本に届いた救済物資は「ララ物資」と呼ばれている。「ララ物資」は横浜港に届いたんだ。

Q1 船積の荷物は、手前がアメリカ合衆国の国旗になっているけれど、反対側はどこかの国旗になっていると思う?

Q2 あなたが知っている移民の歴史から、どのくらいの人が海外へ移住したのかな?

Q3 1885年から、ハワイ王国にわたった日本人は何をつくる農園で働いていたのかな?

Q4 最後の移民船「にっぽん丸」は何年に横浜港を出したのかな?

Q5 日本人からの支援の記録はどのくらいあったのかな?

質問の答えはP8にあるよ

各種
バリアフリーに
対応しています

点字

点字の読み書きの練習ができる。

スロースト

ゆっくりとしたスピードで動く。

音声ガイド

音声ガイドで展示室を案内。

補助犬

盲導犬の訓練の様子を見学。

JICA横浜 海外移住資料館
点字版

JICA横浜 海外移住資料館 (JICA横浜センター 2階)

〒231-0001
神奈川県横浜市中区新港2-3-1
電話 045-663-3251
<https://www.jica.go.jp/jomm/index.html> (右下QRコード)

団体訪問をご希望の方は、海外移住資料館 HP からお申し込みください。展示ボランティアによる展示案内も実施しています。
<https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/groupvisit/index.html>



移民関連年表

第Ⅰ期 海外渡航のはじまり 1853～1884

Year	歴年	項目
1853年	嘉永6年	「黒船」が浦賀に来航、ペリー提督幕府に開国を迫る
1859年	安政6年	幕府は神奈川（横浜）、長崎、函館を開港し条約締結と通商を開始
1866年	慶応2年	幕府は海外渡航希望者に「御免の印章」を下付する旨触書で通告し、留学生ならびに外国人に雇われた召使いや曲芸師などに印章の交付をはじめる
1868年	明治元年	アメリカ人ヴァン・リードが居留地神奈川（横浜）で集めた150名余（元年者）を維新政府の許可なしにサンドウィッチ島（ハワイ）へ出発させる 同じくヴァン・リードが居留地神奈川で集めた日本人42名を条約国でないスペインの領土グアム島へ送るが、明治政府はその事実を認知せず

第Ⅱ期 海外出稼ぎのはじまり 1885～1907

Year	歴年	項目
1885年	明治18年	1月28日 第1回「ハワイ官約移民」945名が横浜を出発
1894年	明治27年	8月 日清戦争が勃発
1897年	明治30年	5月 榎本武揚がメキシコに日本人労働者34名を入植させる
1899年	明治32年	2月 ペルー行第1回移民790名が出発
1904年	明治37年	2月10日 日露戦争が勃発
1907年	明治40年	2月 日本外務大臣と駐日アメリカ大使が前年11月から続けられた交渉を得た合意事項を確認する11の覚書（いわゆる「紳士協約」）を承認

第Ⅲ期 定住移民のはじまり 1908～1940

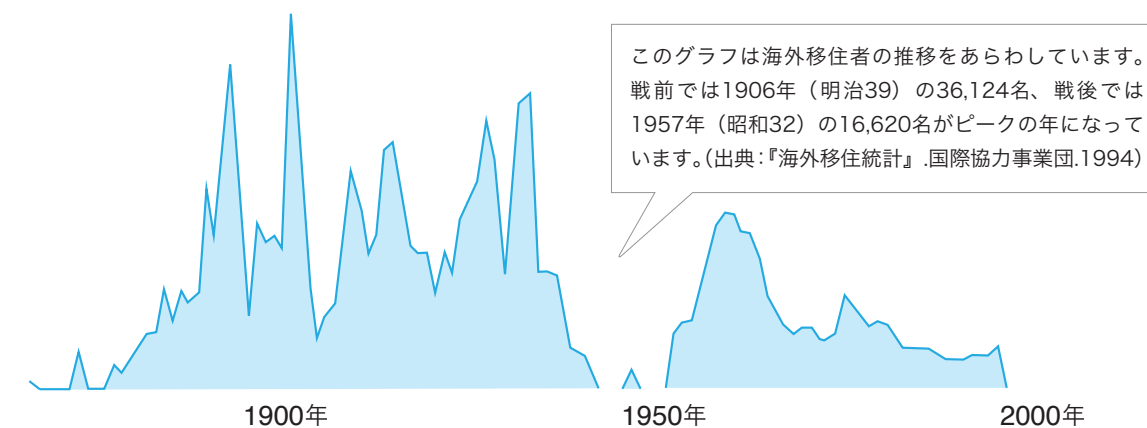
Year	歴年	項目
1908年	明治41年	4月 第1回ブラジル行移民781名を乗せた「笠戸丸」が神戸港を出港
1923年	大正12年	9月 関東大震災、震災罹災者のうち、ブラジルへ移住する者に対する船賃補助がはじまる
1924年	大正13年	5月 合衆国連邦議会が「帰化不能外国人」の移住を禁じる条項を「出身国別移民割当法」に挿入し、日本人の同国への入国を全面的に禁止 日本政府が渡航費を全額補助するブラジル行き移住がはじまる
1931年	昭和6年	9月 満州事変が勃発
1934年	昭和9年	7月 ブラジル政府が「外国移民二分制限法」を公布
1935年	昭和10年	パラグアイ政府が日本人移民100家族の入国を許可
1937年	昭和12年	7月 盧溝橋事件が発生し日中戦争がはじまる
1939年	昭和14年	第二次世界大戦が勃発

第Ⅳ期 海外移住の中断 1941～1945

Year	歴年	項目
1941年	昭和16年	12月7日 真珠湾攻撃 アメリカ FBIが一世の指導者の逮捕・拘束を開始 カナダ 日本に宣戦布告し、日本人38名を検挙拘引
1942年	昭和17年	3月 カナダ 「防衛地域」からの立ち退き実施を決定 アメリカ 強制立ち退き開始 4月 ペルー 在留日本人のアメリカへの強制連行を開始
1943年	昭和18年	2月 アメリカ 日系人による第442戦闘団を編成 アメリカ 忠誠登録を開始
1945年	昭和20年	2月 アメリカ・ソ連・イギリス ヤルタ会談 8月6日 アメリカ軍が広島に原爆を投下 8月9日 アメリカ軍が長崎に原爆を投下 8月15日 日本 ポツダム宣言の受諾を告げるラジオ放送

第Ⅴ期 戦後移住のはじまり 1946～2018

Year	歴年	項目
1952年	昭和27年	4月 対日平和条約が発効され日本人の海外移住が再開 10月 戦前の神戸移民教養所を改修した神戸移住斡旋所が開業 12月 戦後の政府渡航費貸付移住の第一陣として「辻村」によるアマゾン移民が神戸港を出発
1955年	昭和30年	3月 ボリビア行き移民第一陣「西川移民」が日本を出発 7月 外務省に移住局が設置され「移民」の呼称が「移住者」に改められる
1956年	昭和31年	3月 横浜移住斡旋所が開所
1971年	昭和46年	5月 神戸港における最後の移民船「ぶらじる丸」が神戸を出航し、神戸移住センターが開鎖
1972年	昭和47年	5月 沖縄が日本へ復帰
1973年	昭和48年	2月 移住者輸送最終船「にっぽん丸」が横浜を出航し、以降移住者輸送に航空機が利用される
1988年	昭和63年	8月 合衆国連邦議会が「戦時日系人抑留補償法」を制定し大統領が署名 9月 カナダ政府が戦時中の日系人抑留の不当性を認める
1990年	平成2年	6月 日本政府が出入国管理及び難民認定法を改正し日系人の日本における就労を緩和
1997年	平成9年	日本人メキシコ移住100周年
1999年	平成11年	6月 ペルーおよびボリビア日系社会が移住100周年を祝う
2008年	平成20年	日本人ブラジル移住100周年
2018年	平成30年	ハワイ日本人移住150周年



詳細はこちらから→

JICA横浜 海外移住資料館HP
「海外移住歴史年表」



移民・日本人移民に関する図書の紹介

児童・生徒が読める移民・日本人移民に関する図書

1. アイリス・タイマン著、久保田陽子訳(2004)『IN THE NEWS 現代の世界と日本を知ろう③－移民と亡命』小峰書店
2. マイケル・ローゼン & アンネマリー・ヤング著、小島亜佳莉訳(2018)『国際化時代に生きるためのQ&A①－移民や難民ってだれのこと?』創元社
3. 池上彰監修、稲葉茂勝著(2008)『移民ってなに? どうして移住するの?』筑摩書房
4. 坂井俊樹監修(1999)『日本の歴史 明治維新から現代⑤－国境をこえた人びとの歴史』ポプラ社
5. 「近代日本移民の歴史」編集委員会編(2016)『ビジュアル版近代日本移民の歴史(全3巻)』汐文社
6. ヨシコ・ウチダ著、中山庸子訳(1990)『写真花嫁』學藝書林
7. ケン・モチズキ作、ドム・リー絵、ゆり ようこ訳(1993)『かこいをこえたホームラン』岩崎書店
8. グレアム・ソールズベリー著、さくま ゆみこ訳(1994)『その時ぼくはパールハーバーにいた』徳間書店
9. 山本耕二著(1995)『母と子でみる 戦争と日系アメリカ人』草の根出版会
10. M. O. タンネル & G. W. チルコート著、竹下千花子訳(1998)『トパーズの日記－日系アメリカ人強制収容所の子どもたち』金の星社
11. 藤崎康夫著(1999)『母と子でみる ブラジルへ日本人移民物語』草の根出版会
12. スティーヴン・A・チン著、金原瑞人訳(2000)『正義をもとめて－日系アメリカ人フレッド・コレマツの闘い』小峰書店
13. アレン・セイ文・絵、アレン・セイ & 大島英美訳(2002)『おじいさんの旅』ほるぷ出版
14. 上坂冬子文、かこさとし絵(2004)『ユタ日報のおばあちゃん 寺澤国子－海を渡った日本人』瑞雲社
15. 高橋幸春著(2008)『日系人の歴史を知ろう(岩波ジュニア新書)』岩波書店
16. 上野久作、木ノ花さくや画(2008)『漫画 メキシコ榎本植民史－サムライたちのメキシコ』京都国際マンガミュージアム
17. すずき じゅんいち・榊原のみ文、秋山泉絵(2009)『東洋おじいさんのカメラ－写真家・宮武東洋と戦時下の在米日系人たち』小学館
18. ヨシコ・ウチダ文、ジョアナ・ヤードリー絵、浜崎絵梨訳(2014)『わすれないよ いつまでも－日系アメリカ人少女の物語』晶文社
19. 森川成美著(2018)『マレスケの虹』小峰書店
20. ジョージ・タケイ著、ジャスティン・アイジンガーほか画、青柳伸子訳(2020)『〈敵〉と呼ばれても』作品社

教師の教材研究に役立つ移民・日本人移民に関する図書

1. カトリーヌ・ヴィトール・ド・ヴァンダン著、太田佐絵子訳(2022)『新版 地図とデータでみる移民の世界ハンドブック』原書房
2. ラッセル・キング著、竹沢尚一郎ほか訳(2011)『移住・移民の世界地図』丸善出版
3. ロビン・コーヘン著、小巻靖子訳(2020)『移民の世界史』東京書籍
4. クリステア・ネ・ハルツィヒ、ディルク・ヘルダー、ダナ・ガバッチア著、大井由紀訳(2023)『移民の歴史 (ちくま学芸文庫)』筑摩書房
5. フィリップ・パーカー著、本村凌二監修、小林朋則訳(2023)『世界の移民歴史図鑑』原書房
6. 吉原和男ほか編(2013)『人の移動事典－日本からアジアへ・アジアから日本へ』丸善出版
7. アケミ・キクムラ＝ヤノ編(2002)『アメリカ大陸日系人百科事典－写真と絵で見る日系人の歴史』明石書店
8. 岡野護編著(2020)『年表 移住150年史－邦人・日系人・メディアの足跡』風響社
9. 藤崎康夫編著(1997)『写真絵画集 日本人移民(全4巻)』日本図書センター
10. 日本移民学会編(2018)『日本人と海外移住－移民の歴史・現状・展望』明石書店
11. 高橋幸春著(1997)『日系人－その移民の歴史』三一書房
12. 岡部牧夫著(2002)『海を渡った日本人』山川出版
13. 植木照代・ゲイル・K・佐藤他著(1997)『日系アメリカ文学－三世代の軌跡を読む』創元社
14. 森茂岳雄編著(1999)『多文化社会アメリカにおける国民統合と日系人学習』明石書店
15. 森茂岳雄・中山京子編著(2008)『日系移民学習の理論と実践－グローバル教育と多文化教育をつなぐ』明石書店

コラム

日系人氏名の日本語表記

日系人の氏名を日本語でどのように表記するかは、明確な基準がありません。本人がどう表記するかはさておき(※)、北米の邦字新聞では、日系人の名前は一世など日本国籍保有者であれば日本と同じ表記、現地国籍であればカタカナ書きで現地語の読み方に従い、ファーストネーム・ラストネームの順で表記しています。例えば、ノーマン・ミネタ、ジョージ・タケイといった次第です。ところが南米の場合は、一定していません。二世や三世でも日本式に姓名の順で姓は基本的に漢字で表記していることがあります。例えば、大竹ルイ、高木ラウルなどです。二世や三世も日本人と同じという意識が記事を書く側に働いているからではないかと推測されます。しかし同じ二世でも、リョート・マチダやセルジオ越後といった例も見られます。

このように一定していないことから、新聞社の方針ではなく、記者の個人的な判断に任されているようです。こうした混乱を避け、一貫性をもたせるために、開館当初から当館では北米方式を採用しています。つまり、一世など日本国籍保有者であれば日本と同じ表記とし、現地国籍であれば現地語の読み方に従いカタカナ書きで、ファーストネーム・ラストネームの順で表記しています。

※リニューアル展示の一部では、当事者の意向に従って日本式に表記している箇所があります。

日本人移民と日系移民の違い

日系人の存在が、1980年代中頃から始まるいわゆる「デカセギ現象」によって注目されるようになる、1990年代後半以降「日系移民」という言葉が使われ始めました。しかし、それまでは「日本人移民」あるいは「日本移民」と表記するのが常でした。これら2語とあたかも同義であるかのように日系移民という用語が使われることで、混乱が生じています。日本人と日系人が異なるように、日本(人)移民と日系移民は全く異なる存在であり、明確に区別しなければなりません。

さらに言えば、日系移民という表現は、たいへん中途半端な概念です。日系移民と言った場合には、具体的には日系ブラジル人や日系ペルー人などです。しかし、実際にはそうした人たちには、彼らの家族である日系人以外のブラジル人やペルー人が同行しており、日系人だけからなる移民ではありません。本来ならば、ブラジル人移民やペルー人移民と捉えるべきでしょう。

国によって少しずつ事情は異なりますが、日系人はすでに八世まで誕生し四世の異属婚率は6割を超え、かつマルチ・エスニックな存在です。いつまでも日系人として捉えることは、当事者の意識と乖離しています。確かに例えばブラジルでは、ドイツ系移民やアラブ系移民という言葉は使われています。しかしそれは歴史的に国名や国境が変化したり、言語問題が関わっており、日系とは使い方が異なります。日系人という言葉と同様に、その内実を正しく理解する必要があります。

海外移住資料館 学芸担当 小嶋 茂

●本書執筆（執筆順）	【担当】
森茂岳雄（中央大学名誉教授・海外移住資料館 学術委員）	統括・巻頭言・巻末資料
中山京子（帝京大学）	活動1・活動4
東 優也（海老名市立杉久保小学校）	活動2・活動3
織田雪江（同志社中学校・高等学校）	活動5・活動14
吉住京子（川崎市公立中学校）	活動6・活動7
津山直樹（創価大学）	活動8・活動12・活動13
中澤純一（東京未来大学）	活動9・活動10・活動11
水野晴佳（JICA 東京）	学習活動マップ・活動15・巻末資料
小嶋 茂（海外移住資料館 学芸担当）	コラム

本誌に掲載されている執筆者の所属やURL、QRコードは刊行時のものです。

JICA横浜 海外移住資料館『学習活動の手引き』改訂に際し、下記の方々に多大なるご協力を頂戴し刊行することができました。改めて感謝申し上げます。

※以下、敬称略

株式会社 明石書店、株式会社 朝日新聞社、一正蒲鉾株式会社、NPO法人ABCジャパン、公益財団法人 海外日系人協会、外務省外交史料館、国立国会図書館、サンヨー食品株式会社、すずきじゅんいち、芹澤健介、テッド・Y・フルモト、中牧弘允、公益財団法人 浜松国際交流協会、ブラジル日報、株式会社フルッタフルッタ、マウリシオ・デ・ソウザ・プロダクシヨンス・ジャパン、増子利栄ご遺族、株式会社メディア総合研究所、和歌山県美浜町教育委員会、Allison Arakawa、JSL Foods、Ken's House of Pancakes

海外移住資料館 学習活動の手引き 〈三訂版〉

発行：独立行政法人国際協力機構 横浜センター 海外移住資料館

初 版 2005年3月発行

改訂版 2007年3月発行

三訂版 2024年3月発行

問い合わせ先

JICA横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1

Tel: 045-663-3257 / Fax: 045-222-7162

URL: <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html>

E-mail: jicayic_jomm_info@jica.go.jp

海外移住資料館 HP はこちら



